一般国道183号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I

鳥取県日野郡日野町

# 上菅荒神原遺跡

1 9 9 9

財団法人 鳥取県教育文化財団

一般国道183号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I

鳥取県日野郡日野町

# 上菅荒神原遺跡

9 9 9

財団法人 鳥取県教育文化財団

鳥取県は東西に長く、日本海沿いには河川によって運ばれた土砂により形成された平野部が存在するものの、県域の多くは中国山地に連なる山間部が占めています。そのため、県民の活動域はこの平野部が主たるものであり、道路・鉄道などの交通網は平野部を東西方向に横断するルートが地形的になだらかなこともあり主要なものとなっており、整備が進められているところです。しかし、山陽方面に向かうためには南北方向に中国山地を縦断する交通網の整備も欠かせません。

鳥取県西部地域では、古くから日野川とその支流が山地を開析して出来た谷筋で人が生活することで道が形成され、山陽方面に向かう交通路として利用されてきました。日野川の中流域に位置する日野町は交通路の要衝にあたりますが、これまで発掘調査はほとんど実施されておらず、偶然発見された遺物がわずかに知られるのみであり、その歴史的な変遷はほとんど未解明のままとなっています。鳥取県の委託を受けた財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道183号の道路改良事業に伴って失われる日野町内にある遺跡を記録保存するため、平成10年度に発掘調査を実施いたしました。

発掘調査では、土器類などの遺物や、住居跡や土坑などの遺構が見つかりました。縄文時代の住居跡と考えられる遺構は、鳥取県内であまり見つかっていないものであり、当時の生活環境を考える上で貴重な資料となるものです。

本書は、この発掘調査の成果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめたものです。本書の「記録」が、文化財に対する認識と理解を深める一助となり、教育及び学術研究のために広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に際しまして、多大な御理解と御協力をいただいた地元の方々をはじめとする関係各位に対し、心から感謝すると共に厚くお礼を申し上げます。

平成11年3月

財団法人鳥取県教育文化財団 理事長 田 渕 康 允

# 例 言

- 1. 本報告書は、一般国道183号(生山道路)の道路改良事業に伴い、1998(平成10)年度に調査を実施した日野郡日野町大字上菅字オノ木原1334番地、1336番地、1343番地に所在する上菅荒神原遺跡の埋蔵文化財発掘調査記録である。
- 2. 調査地には道路予定地のセンター杭に対応する10m単位のグリッドを設定し、南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字で表示しグリッド名とした。方位は国土座標第V系に基づく座標北、レベルは海抜標高である。なお、全体遺構図には国土座標第V系を併せて記載してグリッドとの位置関係を示した。グリッド方位は、国土座標第V系の方位に対し東に25度47分31秒振れている。
- 3. 本報告書の遺跡周辺地形図に使用した地図は鳥取県根雨土木事務所から提供を受け、周辺遺跡分布図には国土地理院発行の5万分の1地形図「根雨」(平成2年修正版)、「上石見」(平成7年修正版)を使用した。
- 4. 本報告書の作成は調査員の討議に基づく。本文は調査員が分担して執筆し目次に執筆者を記載した。遺構、遺物の実測並びに浄写は調査員を中心に実施した。
- 5. 石材鑑定および地質に関する現地指導を鳥取大学名誉教授の赤木三郎氏にお願いした。
- 6. 土器の胎土分析および石器の産地同定を岡山理科大学自然科学研究所の白石純氏に依頼し玉稿をいただいた。
- 7. 住居跡の判定を東京国立文化財研究所の宮本長二郎氏に依頼し玉稿をいただいた。
- 8. 鉄滓の成分分析及び炭素14年代測定をそれぞれ業者に委託して実施し、結果を掲載した。
- 9. 出土遺物、図面、写真等は鳥取県埋蔵文化財センターが保管している。
- 10. 現地調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に指導・協力を頂いた。記して感謝いたします。 古賀 信幸 谷岡 陽一 中越 利夫 根鈴 輝雄 平井 勝 家根 祥多 矢野 健一 山縣 実 山田 真宏 (五十音順、敬称略)

# 凡 例

1. 出土遺物にネーミングした遺跡名は下記の略称を用いた。

上菅荒神原遺跡:上コウジン

2. 本報告書における遺構記号は下記のように表す。

SB:壁立式平地住居跡•梁間1間型平地住居跡 SH:主柱2本型伏屋式平地住居跡

S K: 土坑 S D: 溝状遺構 P: 柱穴・ピット

3. 本報告書における遺物記号は下記のように表す。

Po: 土器 S: 石器

- 4. 遺構図中においては、土器の出土位置を○●で、陶磁器を☆★で、石器を△▲で、鉄滓を×で表す。
- 5. 遺物実測図中における記号は以下の通りとする。

←── : ケズリの方向(砂粒の動き) :擦り面 ※※※※ : 敲打面

- 6. 遺物観察表の法量欄の丸数字は下記の意味で、数値の前につけた※は復元値、△は残存値であることを表す。 ①器高 ②口径 ③底部径 ④高台径 ⑤長さ ⑥幅 ⑦厚さ
- 7. 遺物観察表の色調欄の記述は農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『標準土色帖』に基づく。
- 8. 遺物観察表の備考欄に記載した「清水-1」等の番号は実測者番号であり、遺物特定のために記載した。
- 9. 発掘調査時におけるピット番号と本報告書におけるピット番号では変更があり、対照は挿表 1~20で行った。 なお、実際に遺物に記載されている遺構名は発掘調査時の遺構名であるが、遺物観察表中では変更後の遺構名 を載せた。なお、遺物観察表の備考欄に調査時の遺構名も併せて記載している。

# 目 次

序														
例	葍													
凡	例													
目	次													
挿图	3]目次	<												
挿え	長目次	<												
図片	页目次	(												
第	章	調	査の経緯	ţ									西川	
5	第1節	j	発掘調査	に至る	経緯				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		1
É	第2節	j	調査の経	過と力	7法 …				•••••			•••••		1
5	第3節	j	調査体制	J	• • • • • • • • • •				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		2
第2	章	位	置と環境	į									西川	
5	第1節	j	地理的環	境 …	•••••			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			3
É	育2節	ĵ	歷史的環	境 …	• • • • • • • • • •			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • •	4
第3	章	上	<b>菅荒神原</b>	遺跡の	調査									
É	育1節	j	調査区の	層序	•••••			•••••					八峠	7
Ś	育2節	j	平地住居	· · · · ·	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		•••••••	•••••	• • • • • • •	• • • • • • •		八峠	13
É	育3節	j	ピット群	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • • •		•••••	八峠	32
5	角4節	j	土坑 …	•••••	•••••				•••••	•••••			八峠	32
5	育5餅	j	落し穴		•••••			•••••			•••••		西川	38
5	角6節	j	溝状遺構	i	•••••		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	•••••	•••••			八峠	40
5	育7節	j	暗茶褐色	土包含	6層 …					•••••			八峠	47
Š	育8節	ĵ	黒色土包	l含層			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			八峠	53
É	角9節	j	遺構外の	遺物	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			八峠	78
第4	章	考	察											
ļ	鳥取県	出	土の木葉	文土器	景につい	て …	• • • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • •	•••••	•••••	西川	80
_	亡菅荒	神	原遺跡の	遺物と	遺構			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	八峠	88
	上菅荒	神	原遺跡の	住居遺	₫構 …		• • • • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••					92
				東京国	立文化	財研究	所		宮本县	長二郎	3			
_	上菅荒	神	原遺跡出	土土器	号の胎土	:分析				• • • • • • •	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••		97
				岡山廷	科大学	自然科	学研究原	沂	白石	純				
_	上菅荒	神	原遺跡出	上黒曜	<b>石製石</b>	器の産	地推定			•••••			•••••	100
				岡山理	[科大学	自然科	学研究原	近	白石	純				
_	上菅荒	神	原遺跡鉄	滓分析	ŕ			•••••		•••••	•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	101
				ジオサ	-イエン	ス株式	会社							
-	二菅荒	神	原遺跡に	おける	放射性	炭素年	代測定			•••••				102
				株式会	社古環	境研究	所							

特論図版(白石)

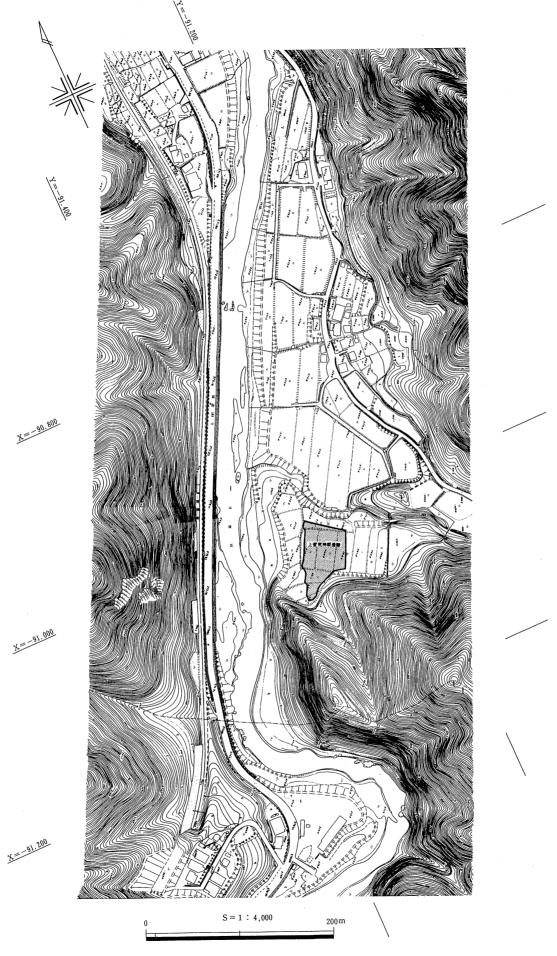
図版

報告書抄録

# 挿図目次

挿図1	遺跡周辺地形図	$\mathbf{v}$	挿図34	SK-13~19遺構図35
挿図 2	周辺遺跡分布図	6	挿図35	SK-20 • 23 • 24 • 27 • 28
挿図3	第1遺構面全体図	7		遺構図 … 36
挿図 4	第2遺構面全体図	8	挿図36	土坑出土 <b>遺物</b> 実測図 37
挿図 5	Ⅱ区西壁土層図	10	挿図37	SK-21遺構図38
挿図 6	I 区西壁土層図	11	挿図38	SK-22遺構図38
挿図 7	I - II 区間土層図	12	挿図39	SK-25遺構図39
挿図8	SB-01遺構図	13	挿図40	SK-26遺構図39
挿図 9	SB-02遺構図	14	挿図41	SD−01 • 02 土層図 ······ 40
挿図10	SB-03遺構図	14	挿図42	SD-01・02遺構図41
挿図11	SB-04遺構図	15	挿図43	SD-01遺物実測図 … 43
挿図12	SB-05遺構図	15	挿図44	SD-02遺物実測図44
挿図13	SB−05P1土器実測図	16	挿図45	SD-03遺構図 45
挿図14	SB-06遺構図	16	挿図46	SD-04・05遺構図46
挿図15	SB-07遺構図	16	挿図47	暗茶褐色土包含層土器実測図(1) 49
挿図16	SB-08遺構図	17	挿図48	暗茶褐色土包含層土器実測図(2) 50
挿図17	SB-09遺構図	17	挿図49	暗茶褐色土包含層石器実測図 51
挿図18	SB−10遺構図	18	挿図50	暗茶褐色土包含層遺物出土状況図 52
挿図19	SB-11遺構図	18	挿図51	黒色土包含層遺物出土状況図55
挿図20	SB-12遺構図	19	挿図52	黒色土包含層土器実測図 (1) ····· 57
挿図21	SB−13遺構図	20	挿図53	黒色土包含層土器実測図(2)59
挿図22	SB-14遺構図	20	挿図54	黒色土包含層土器実測図(3)61
挿図23	SB-15遺構図	21	挿図55	黒色土包含層土器実測図(4) … 63
挿図24	SB-16遺構図	21	挿図56	黒色土包含層土器実測図(5)65
挿図25	SH-45P2土器実測図 2	23	挿図57	黒色土包含層土器実測図 (6) ····· 67
挿図26	I 区第1遺構面全体図(1)	25	挿図58	黒色土包含層土器実測図 (7) ····· 69
挿図27	I 区第1遺構面全体図(2)	26	挿図59	黒色土包含層土器実測図(8)71
挿図28	I 区第1遺構面全体図(3)	27	挿図60	黒色土包含層土器実測図 (9) ····· 73
挿図29	I 区第1遺構面全体図(4)	28	挿図61	黒色土包含層土器実測図 (10) 74
挿図30	Ⅱ区第1遺構面全体図	29	挿図62	黒色土包含層石器実測図(1)······ 75
挿図31	Ⅱ区第2遺構面全体図	30	挿図63	黒色土包含層石器実測図(2) 76
挿図32	SK-01~06遺構図	33	挿図64	黒色土包含層石器実測図(3) … 77
挿図33	SK-07~12遺構図	34	挿図65	遺構外出土遺物実測図 79
	挿 剨	旻	目	欠
挿表 1	SB-01ピット一覧表	13	挿表 5	SB-05ピット一覧表 15
挿表 2	SB-02ピット一覧表		挿表 6	SB-05P1土器観察表
挿表 3	SB-03ピット一覧表		挿表7	SB-06ピット一覧表16
挿表 4	SB-04ピット一覧表	15	挿表 8	SB-07ピット一覧表 16

挿表9	SB-08ピット一覧表 17	挿表24	土坑出土石器観察表	37
挿表10	SB-09ピット一覧表 17	挿表25	SD-01土器観察表	42
挿表11	SB-10ピット一覧表19	挿表26	SD-01石器観察表	42
挿表12	SB-11ピット―覧表 19	挿表27	SD-02土器観察表	42
挿表13	SB-12ピット一覧表 19	挿表28	SD-02石器観察表	44
挿表14	SB-13ピット―覧表 19	挿表29	暗茶褐色土包含層出土遺物一覧表	47
挿表15	SB-14ピット一覧表 20	挿表30	暗茶褐色土包含層土器観察表	48
挿表16	SB-15ピット一覧表	挿表31	暗茶褐色土包含層石器観察表	50
挿表17	SB-16ピット一覧表	挿表32	黑色土包含層土器観察表	56
挿表18	平地住居一覧表 22	挿表33	黑色土包含層出土遺物一覧表	62
挿表19	SH-45P2土器観察表 23	挿表34	黒色土包含層土器 • 陶磁器観察表	62
挿表20	主柱 2 本型伏屋式平地住居一覧表 23	挿表35	黑色土包含層石器観察表	74
挿表21	ピット群一覧表	挿表36	遺構外出土土器 • 陶磁器観察表	78
挿表22	土坑・落し穴一覧表 32	挿表37	遺構外出土石器観察表	78
挿表23	土坑出土土器観察表 36			
		<b></b>		
	図 版	目	次	
図版 1	調査前風景(北東より)	図版 3	SB-05P1出土遺物	
	SK-01土層断面(西より)		SH-45P2出土遺物	
	SK-02土層断面(南西より)		SK-03出土遺物	
	SK-03遺物出土状況(北より)		SK-06出土遺物	
	I 区黒色土包含層遺物出土状況(東より)		SK-08出土遺物	
	Po180出土状況(北西より)		SK-09出土遺物	
	I 区第1遺構面完掘状況(北より)		SK-10出土遺物	
	Ⅱ区第1遺構面完掘状況(北より)		SK-11出土遺物	
図版 2	SK-21土層断面(東より)		SK-16出土遺物	
	SK-26土層断面(北より)		SD-01出土遺物	
	SD-01土層断面(東より)		SD-02出土遺物	
	SD-01完掘状況(東より)	図版 4	暗茶褐色土包含層出土遺物(1)	
	SD-02検出状況(北より)	図版 5	暗茶褐色土包含層出土遺物(2)	
	Ⅱ区第2遺構面住居完掘状況(北より)		黒色土包含層出土遺物(1)	
	I 区西壁土層断面(東より)	図版 6	黒色土包含層出土遺物(2)	
	Ⅱ区西壁土層断面(東より)	図版 7	黒色土包含層出土遺物(3)	
		図版 8	黑色土包含層出土遺物(4)	
		図版 9	黒色土包含層出土遺物(5)	
		図版10	黑色土包含層出土遺物(6)	
		図版11	黑色土包含層出土遺物(7)	
		図版12	黑色土包含層出土遺物(8)	
			遺構外出土遺物(1)	
		図版13	遺構外出土遺物(2)	
			調査参加者	



挿図1 遺跡周辺地形図

# 第1章 調査の経緯

# 第1節 発掘調査に至る経緯

周囲を急峻な山々に囲まれた鳥取県では、他地域との交流をはかる上で交通網の整備が不可欠である。しかし、山陽方面との間には、中国山地の山々とその間に形成された狭くて屈曲を繰り返す谷筋が発達しており、交通網の整備に対して大きな障害となってきた。そのため、道路には幅員が狭く勾配の急な箇所も多く、特に冬季の通行に際して大きな障害となっていた。そのため、住民の生活環境の向上のためにも強く要望されている道路改良工事が順次実施されているが、その一環として鳥取県西部から広島県北部に抜ける将来の幹線道となる地域高規格道路江府三次線(生山道路)工事が鳥取県によって実施されることになった。工事に先立って鳥取県埋蔵文化財センターと日野町教育委員会が踏査を行ったところ、日野郡日野町荒神原地内から土器散布地が確認された。そこで遺跡の範囲を確認するために日野町教育委員会が国及び県の補助金を得て試掘調査を実施することとなった。平成9年10月から実施された試掘調査の結果、いくつかのトレンチから土坑などの遺構や縄文土器などの土器類が出土し、遺跡の存在が確認された(準1)。そこで、調査の結果、鳥取県根雨土木事務所長から文化庁長官に対し発掘通知が提出され、発掘調査の指示を得て、財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)が発掘調査を行うこととなった。鳥取県から発掘調査の委託を受けた財団は、文化庁長官に発掘調査の実施を届け出た上、平成10年度に西部埋蔵文化財米子調査事務所日野分室を設置して2名の担当調査員を配置し上菅荒神原遺跡の調査を実施することになった。

# 第2節 調査の経過と方法

調査地は日野川右岸及び持ケ瀧川左岸に形成された河岸段丘上に位置する上菅荒神原遺跡である。日野町教育委員会が実施した試掘調査によって、縄文時代後期から弥生時代前期にかけての多数の土器片、土坑・溝状遺構・ピットなどが検出された。遺構面は2面が確認されたために2面調査が必要と判断された。調査予定面積は総計6,912㎡であり、発掘調査期間は平成10年の4月から10月までとなった。

調査地は便宜上北側をI区、南側をII区とした。

発掘調査は、4月6日に重機による表土剥ぎから開始した。表土剥ぎはII区から開始し続いてI区に移った。排土は調査区外の道路用地部分に搬出した。4月13日には作業員の稼働を始めた。日野町教育委員会による試掘調査はI区部分に2つのトレンチが設定されて掘り下げられていたため、土層の堆積状態は概略が分かっていたものの、II区部分にはトレンチが掘り下げられておらず堆積の様相が掴めていなかった。そのため、南北方向と東西方向に交差するトレンチを設定して掘り下げた。このトレンチを掘り下げた時点では明確な地山が確認できなかったが、幾度にも渡って礫を含む土砂が堆積したことが判明し、I区とは堆積状況が異なることが予想された。表土剥ぎ終了後、業者に委託して道路予定地のセンター杭に対応するグリッドを設定するための基準杭を設置した。そのため、グリッドは国土座標と対応していないが、調査区においては便宜上グリッド方位を使用して方位を記録した。第1遺構面の調査はII区から開始し、その後I区へと移った。第1遺構面の掘り下げは6月末で終了したため、業者に委託をしてラジコンへリコプターを使用した調査区の遺構全体写真を7月1日に撮影する予定とし準備をした。しかし、業者の不手際により撮影ができなかったためラジコンへリコプターの使用を断念し、代わりにクレーンを利用した遺構全体写真を7月8日に撮影した。その後、I区の掘り下げを開始し第2遺構面の調査に着手した。I区の調査がほぼ終了した段階で再度重機を使用してII区の土を剥ぎ、調査を実施した。そして、10月21日に全ての調査を終了した。調査の工程上現地説明会は開催できなかったが、見学は随時受け入れ、地元の菅福小学校児童の見学などがあった。

註1 『上菅荒神原遺跡試掘調査報告書』日野町教育委員会 1998

# 第3節 調查体制

〇調查主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長

田 渕 康 允(鳥取県教育長)

常務理事

大和谷 朝(鳥取県教育委員会事務局次長)

事務局長

岡山宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター

長 所

古 井 喜 紀(鳥取県埋蔵文化財センター所長)

次 長

八木谷 昇

調整係長

松 田 潔

調査員

小 谷 修  $-(4\sim6$ 月、退職)

主任事務職員

矢 部 美 恵

事務職員

大 川 秋 子

〇調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター 西部埋蔵文化財米子調査事務所日野分室

所 長

國 田 俊 雄

主任調査員

八峠 興

西川 徹

調査補助員

秦 美 香

整理員

杉 田 千津子

○調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター

日野町教育委員会 〇調査協力

発掘作業従事者

石田 茂雄 石田 進

石田 美知子 伊田 栄

稲田 茂 奥田春子

恩田 孝雄

金田 公子

小谷 佐枝子 後藤 多喜子

後藤 行永

柴田 博

谷口 千鶴子 西岡 恵美子 松本 寿美子

西村 かづ子 水谷 照美

西村 茂夫 矢田貝 茂

長谷川 省一郎 長谷川 由美子 矢田貝 富子 矢田川 重雄

前田 幸子 山根 一也

山根 忠良

山本 千寿美 山本 幸男

整理作業従事者

大角 展子(旧姓青木)

清水 房子

(敬称略、五十音順)

# 第2章 位置と環境

# 第1節 地理的環境

#### 鳥取県

鳥取県は、本州の西部、中国地方の北東部に位置する。東は兵庫県、西は島根県、南は岡山県・広島県とそれぞれ接し、北は日本海に面している。中国地方は、標高1200mを越える山々を擁する中国山地を隔てて、瀬戸内海に面する山陽地方と、日本海に面する山陰地方に分けられ、特に冬季の気候環境に大きな違いがみられる。晴れの日が多く乾燥している山陽地方に対し、山陰地方ではどんよりとした曇り空が続き積雪も多い。鳥取県はこのような山陰地方に属している。

鳥取県の県域は、東西約126km、南北約62km、面積約3,507k㎡である。県内は、鳥取市周辺を中心とする東部地域、倉吉市周辺を中心とする中部地域、米子市・境港市周辺を中心とする西部地域に大きく分けられる。各地域とも地勢は山がちであり、山地が県総面積の86.3%を占める。それぞれの地域には、県下を代表する三大河川である千代川(東部)、天神川(中部)、日野川(西部)が流れ、その下流域には、鳥取平野(東部)、倉吉・北条・羽合平野(中部)、米子平野(西部)が形成されている。各平野の海岸線には、全国的にも有名な鳥取砂丘をはじめとして、河川によって運ばれた多量の砂により大小の砂丘・砂州が発達している。

人々の生活領域は、山間の谷奥平野と海岸に開けた沖積平野に展開している。千代川下流域には、江戸時代に 鳥取池田藩三十二万五千石の城下町として発展し、現在は県庁所在地である鳥取市が位置する。その南東側には かつての律令時代には「因幡国」の国府が置かれていた国府町が位置している。天神川中流域には、かつての律 令時代には「伯耆国」の国府が置かれていた倉吉市が位置している。日野川下流域には、「山陰の商都」と呼ば れ商業の町として発展してきた米子市が位置し、現在も交通の要所として発展している。米子市の北西に延びる 弓ヶ浜半島の突端部には、国内有数の漁業基地である境港市が位置している。

現在鳥取県は、前述した4市を中心として39市町村により構成されている。人口は、615,418人(平成10年12月 1日現在)と47都道府県で最少であるが、自然の多い美しい景観を残している。

#### 日野町

日野町は、鳥取県の西部にある日野郡4町の中央部に位置し、東から南側にかけては岡山県と接し、西は日南町、北は溝口町・江府町と接している。

日野町域は、周囲を宝仏山・二子山・古峠山・鎌倉山などの標高500~1000m級の山々に囲まれているため、地勢は山がちであり、地目の9割以上を山林原野が占めている。そのため、緑豊かな美しい自然が残されており、河川にはオオサンショウウオの生息も確認されている。人々の生活領域は町を二分するように南西から北東方向に蛇行を繰り返して流れる日野川やその支流である板井原川・小川尻川などによってその流域に形成された点在する小規模な河岸段丘上に集中している。日野町は、東西約20㎞・南北約12㎞、面積約133.6㎢、人口は4,781人(平成10年12月31日現在)である。

#### 調査地

調査地は日野町と日南町の町境から約100m日野町に入った地点に位置し、日野川と東側の山中から日野川に向けて流れ下って合流する持ケ瀧川の影響によって日野川右岸に形成された細長い河岸段丘の南端部にあり、調査地の北側隣接部に持ケ瀧川が流れる。周囲は花崗岩を基盤とする地域であるため、花崗岩に由来する真砂土が厚く堆積している。日野川を挟んで荒神原集落西側にある国道181号と国道183号の合流地点からは約700m南側で、標高は約280mを測り、日野川との比高差は約10mである。

# 第2節 歴史的環境

上菅荒神原遺跡が所在する日野町、隣接する日南町とも日野川の流域をその町域として分け合っており、元来は1つの地域圏として捉えることができる地域であるが、現時点では偶然発見された遺物が僅かに知られるのみで、共に発掘調査がほとんど行われていないため歴史的な解明は余り進んでいない。

日野町・日南町域に限らず、鳥取県内では旧石器時代の確実な遺構は確認されていないが、大山山麓一帯を中心としていくつかの旧石器が発見されている。淀江町原畑出土の東山・杉久保型系統の黒曜石製ナイフ型石器、関金町野津三第1遺跡出土の茂呂型系統の黒曜石製ナイフ型石器、溝口町長山馬籠遺跡出土の細石刃様の石器などである。さらに、日南町上石見に隣接する岡山県神郷町野原の早風A地点遺跡から発掘調査によって水晶や黒曜石製のナイフ形石器や石核などが出土している。また、旧石器時代〜縄文時代草創期のものとされる有舌尖頭器は、黒曜石製のものが淀江町中西尾から、サヌカイト製のものが日野郡内の溝口町の代遺跡・三部野遺跡・忠魂碑原、江府町の山神脇遺跡などで発見されている。

鳥取県内から草創期の土器は発見されていないが、大山山麓の縁辺部で点々と有舌尖頭器が出土していることを考えると、今後この時期の遺構・遺物が大山山麓を中心に発見される可能性は高い。また、尖頭器では江府町袋原でサヌカイト製のものが出土している。江府町の佐川第1遺跡からは早期~前期・後期~晩期の土器が出土し、竜王遺跡からは前期や後期の土器が出土している。日南町折渡遺跡からは早期の押型文土器が出土し、印賀からは水田中から後期のものと推測される緑泥片岩製の石棒が出土。権現ノ前遺跡から後期の土器が出土し、生山桜原遺跡から縄文が施された土器の底部・突帯文土器が出土した。日野町野田から磨消縄文を持つ後期の土器が出土している。なお、土器が出土していないため時期が不明であるが、日南町宝谷で石斧、福万来で石匙、日野町下安井で石斧、江府町苦塔で石斧・石匙・石鏃などが出土している。

日野町・日南町において弥生時代の水田遺跡は検出されていないが、小規模な水田が形成されていた可能性は否定できない。日野町内で弥生時代の明確な遺跡は多くないが、岩田遺跡で中期の竪穴住居跡が1棟出土している。なお、遺構に伴うものではないが上菅荒神原遺跡で前期の土器、黒坂字久住原で磨製石斧が出土している。日南町でも明確な遺跡に伴って遺構・遺物が出土した例は多くないが、生山桜原遺跡からは前期の壺が出土。丸山大洞遺跡からは竪穴住居跡や中期から後期の土器溜りが検出された。偶然の機会に遺物が見つかる例はかなりあり、笠木字割石では土坑中から中期の壺が出土した。なお、福万来の字権現ノ前で中期の土器、同字杉ノ本道ノ下では赤彩されたものを含む後期の土器、同字山王塔や同字平ル林では太型蛤刃石斧などが出土している。また、出土地については不確実な点があるが新屋出土と伝えられる袈裟襷文銅鐸が存在する。

日野郡内では前期・中期段階の古墳は見つかっていない。しかし、後期になると他地域と同様に小規模な古墳から形成される群集墳が各地に出現する。日野町では遺物は不明ながら岩田古墳・榎市古墳などの両袖式の横穴式石室を持つ古墳が知られ、舟場字荒神田にあった古墳から須恵器・鉄刀・刀子・管玉などが出土している。日南町は見つかっている古墳の数が多く前方後円墳も存在する。生山・印賀・笠木・宮内などに古墳群があり、生山の田の原古墳群には横穴式石室や箱式石棺を主体部とするものがあり、圭頭の柄頭が出土した古墳もあるという。印賀古墳群中には箱式石棺から人骨・耳環・須恵器・鉄器類が出土したものがある。下石見8号墳は横穴式石室をもつ小円墳であるが須恵器・耳環・鉄器類・玉類が出土した。丸山2号墳からは須恵器・土師器・鉄刀などと共に馬具の轡・杏葉が出土。名土古墳からは珠文鏡が出土。また、内ノ倉山横穴群・霞横穴群<sup>(1)</sup>などの横穴墓が見つかっており、内ノ倉山横穴群からは人骨と共に須恵器・土師器・耳環・玉類・鉄器類が出土。なお、山上小学校に陶棺が所蔵されていたらしい<sup>(2)</sup>。

律令時代には現在の鳥取県域が西側の伯耆国と東側の因幡国の2国に編成されていた。伯耆国は六郡からなり、 現在の日野町・日南町域は日野郡に該当するが、郡衙跡と推測される遺跡は発見されていない。奈良・平安時代 の様相はほとんど分かっていないが、平安期以降鎌倉期までに石清水八幡宮の荘園である奈良原別宮が日野町内 に置かれていたようである。鎌倉期末に後醍醐天皇が船上山に行在所を構えた元弘の船上合戦の折りには日野町 に本拠をもつ日野義行・義泰父子や金持広栄の一党が馳せ参じたとされ、多くの一族郎党を抱えた武士階級が形成されていたことが分かる。日南町印賀には南北朝時代の南朝方の「正平十二年」銘をもつ宝篋印塔が残されており、伯耆国守護の山名時氏に従って戦に赴く南朝方の武士が自らの死後の冥福を祈って建立したものとされている。戦国時代の永禄8年には江府町にあった江尾城主の蜂塚氏が尼子方であったため毛利軍に攻められ破れている。詳細は不明であるが、日南町を中心とする山上に山城跡とされるものが数多く残されており、伯耆国から備中国・美作国に抜ける交通路をめぐって争いが繰り返されたようである。江戸時代になると黒坂の町政が鳥取藩家老の福田氏に委任され、独自の支配を受けている。また、砂鉄の産出が容易であった日野郡内では鉄山経営が盛んであり、未調査のものが多いため詳細は不明であるが、日野町の才ノ原たたら跡・持ケ瀧山たたら跡、日南町の阿太上東たたら跡・大畑たたら跡などの製鉄に関係すると推測される数多くの遺構が残されている。

#### 註

- (1) 1号墓と2号墓が離れているため、それぞれを田曽1号横穴墓、段1号横穴墓と分けて扱う考えもある。 中原斉「伯耆国・日野川上流域における横穴墓の様相」『北谷ヒナ横穴群』江府町教育委員会 1990
- (2) 亀井熈人「日野郡の古代遺跡」『郷土と科学』第14巻第1・2号 1969 山上小学校校長の澤田美紀人氏にお尋ねしたが、現在では所在不明とのことである。

#### 参考文献

『旧石器・縄文時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財センター 1988

梅原末冶『鳥取縣下に於ける有史以前の遺跡』 1921

稲田孝司・日野塚郎「鳥取県関金町野津三第1遺跡の石器群」『岡山大学文学部紀要』第19号 1993

『長山馬籠遺跡』溝口町教育委員会 1989

『野原遺跡(早風A地点)発掘調査報告』岡山県教育委員会 1977

『野原遺跡群 -早風A地点-』岡山県教育委員会 1979

安川豊史「先土器時代」『岡山県の考古学』 1987

『溝口町内遺跡発掘調査報告書 一代遺跡-』溝口町教育委員会 1990

『三部野遺跡発掘調査報告書』溝口町教育委員会 1990

根鈴輝雄「山陰の尖頭器」『考古学ジャーナル』Na435 1998

『佐川遺跡群』財団法人鳥取県教育文化財団 1986

『日南町史 - 自然・文化-』日南町 1984

『生山桜原遺跡試掘調査報告書』日南町教育委員会 1993

『日野町史』日野町 1970

『岩田遺跡発掘調査報告書』日野町教育委員会 1980

『丸山4号墳・丸山大洞遺跡・田の原2号墳』日南町教育委員会 1990

『丸山大洞遺跡発掘調査報告書』日南町教育委員会 1990

『下石見8号墳』日南町教育委員会 1993

『印賀古墳群 - 印賀6・7・26号墳の調査-』日南町教育委員会 1992

『内ノ倉山横穴群発掘調査報告書』日南町教育委員会 1986

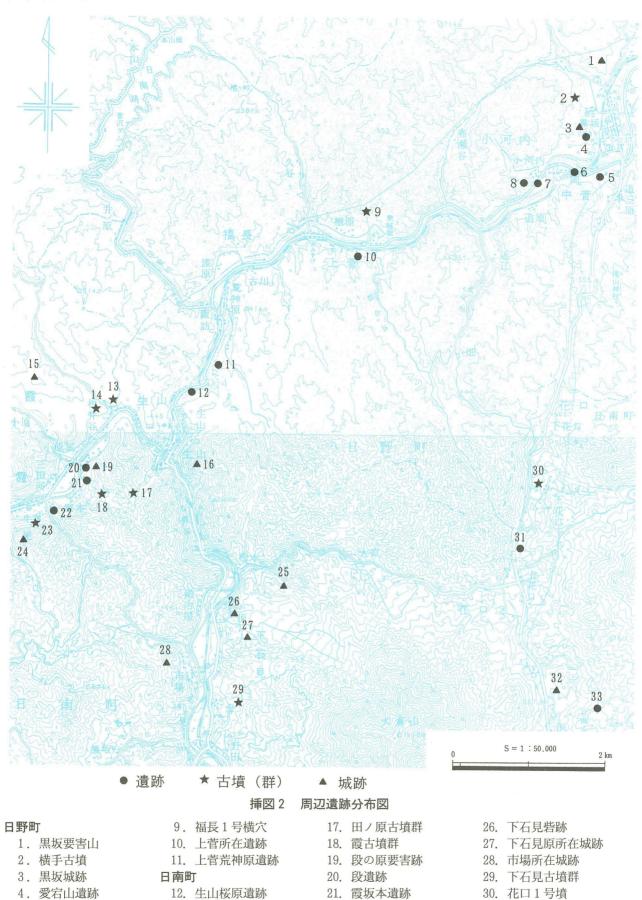
『内ノ倉山横穴群Ⅱ発掘調査報告書』日南町教育委員会 1989

『歴史時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財センター 1989

『鳥取県史2 -中世-』鳥取県 1973

内藤正中・真田廣幸・日置粂左ヱ門『鳥取県の歴史』 1997

『鳥取県生産遺跡分布調査報告書』鳥取県教育委員会 1984



5. 中畑所在遺跡

6. 中菅遺跡

7. 小河内所在遺跡1

8. 小河内所在遺跡 2

12. 生山桜原遺跡

13. 板井谷古墳

14. 内ノ倉山横穴群

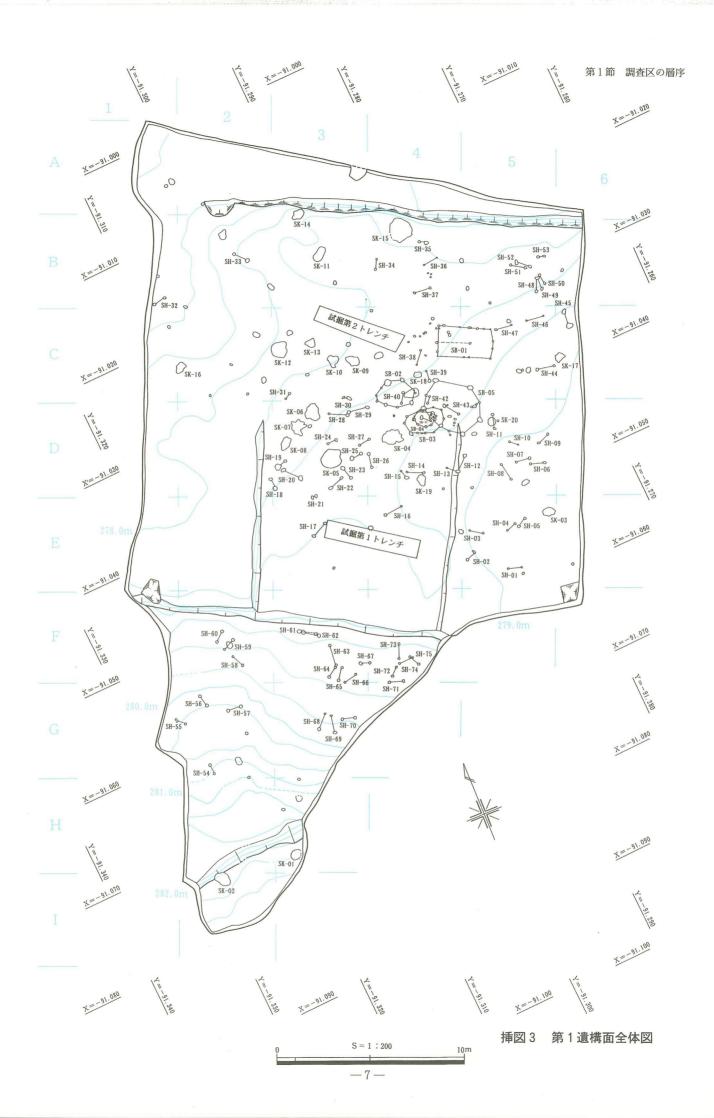
15. 板井谷所在城跡

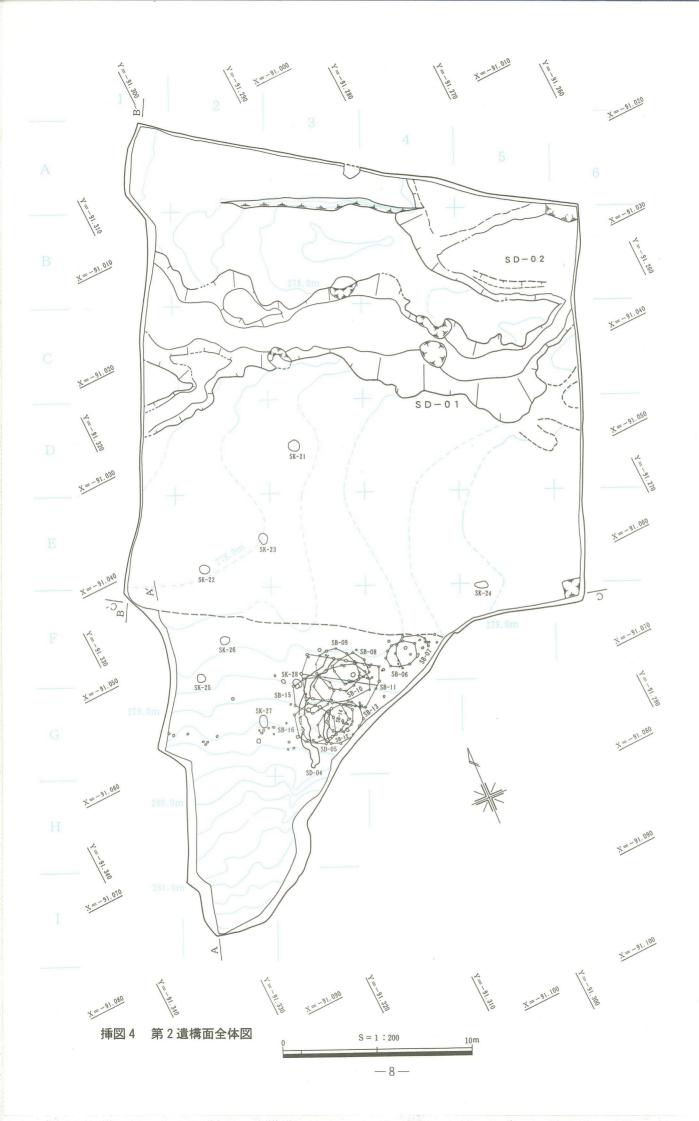
16. 亀井山城跡

- 21. 霞坂本遺跡
- 22. 霞牛ノ尾遺跡
- 23. 霞 1 号横穴
- 24. 霞所在城跡

25. 下石見松本所在城跡

- 30. 花口1号墳
- 31. 花口所在古墓
- 32. 神戸上所在城跡
- 33. 神戸上所在遺跡





# 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

# 第1節 調査区の層序

調査区は日野川の右岸にあり、調査区西際は日野川の東岸から約50~70m程東の中・低位段丘上に立地する。 調査区の北際から7~14m程北には持ケ瀧川が西流して日野川に流れ込んでおり、調査区はこの川が造り出した 扇状地の端付近に位置する。調査区がI区は東から西、II区は南から北に向かう棚田として使われており斜面の 上側は削平されるが、遺構の遺存状態は縄文時代の遺跡としては比較的よいと思われる。

調査区の土壌は基本的に真砂土で、いわゆる白真砂という花崗岩の風化したものである。真砂には良質な鉄分を多く含み、持ケ瀧川の上流でも近世以降たたらが行われ、調査区内や持ケ瀧川にも鉄滓が散見できた。調査区の南西側では日野川に向けて山が張り出しており、堆積物には河原石などはみられず、ほとんどが花崗岩の岩や大石、あるいは風化した角礫や粗粒花崗岩である。この中には半花崗岩(アプライト)も含まれる。周辺の地形、生山付近から日野川の下流域付近には岩が柱状に切り立っている地形が目立つが、これは花崗岩と半花崗岩の風化の時間差により形成されたものと考えられる。

調査区の南端は山裾で、北に向けて傾斜する地形である。ただし堆積状況は南側の山からの土砂に加え東側の 持ケ瀧川上流からの土砂も加わり非常に複雑である。調査の結果、遺構面を2面確認した。

西壁の土層をみると $\Pi$ 区では南側斜面部からの土砂により厚い堆積をしている。第1遺構面では住居・土坑・ピット、第2遺構面でも住居・土坑・ピット・落し穴・溝を検出した。遺構面の間には最低でも80cm、深いところでは1 mもの土砂の堆積がある。この土層の堆積はレンズ状堆積がほとんどで、安定した堆積状況を示している。 $\Pi$ 区では第1遺構面の上面が耕作のため掘削されており不明瞭であるが、第1遺構面と第2遺構面の差は $\Pi$ 区との境で約30cm程度である。北に向かい遺構面の差は徐々に小さくなり、約15m程で同一遺構面となる。また $\Pi$  の堆積をみると、東側に向かい遺構面の間の堆積は小さくなっていることがわかる。

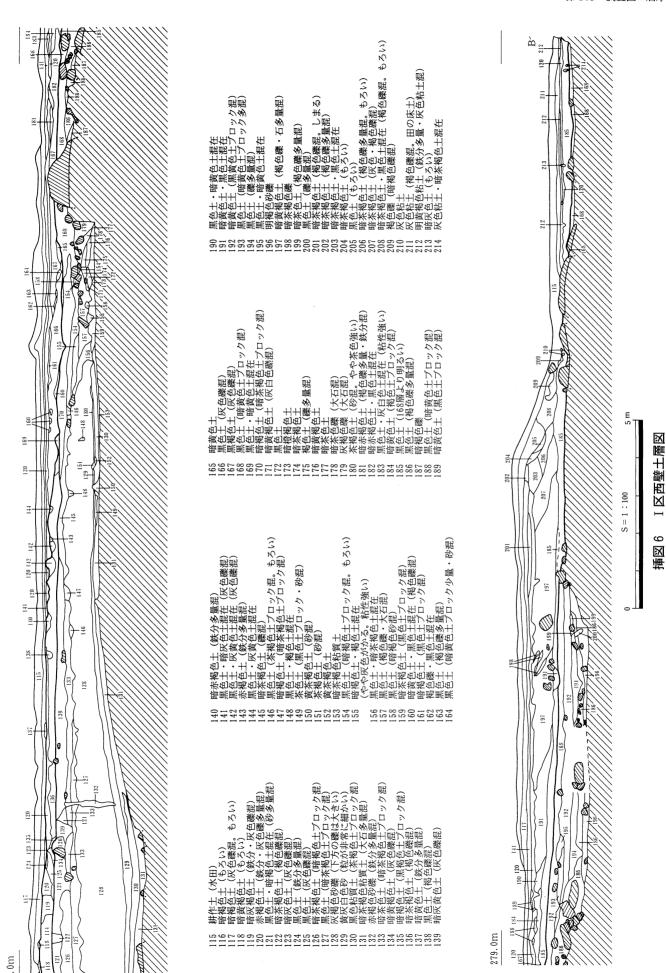
東壁の土層をみると、I区の南隅付近では耕作土を除去するとすぐに褐色の真砂が現れ、この面はすでに第1・第2 遺構面の同一面である。それが西壁とは逆に、15m程北から第1・第2 遺構面に分かれ、北の隅でまた同一遺構面となる。この原因は調査区を東西方向に横切る自然流路 SD-01によるものとみられる。SD-01にどの段階まで水が流れていたかは不明であるが、徐々に堆積していった過程があり、下方から第2 遺構面、暗茶褐色土包含層、第1 遺構面、黒色土包含層と明瞭に区分される。しかしこの範囲は川の上流方向から下流に向かうため、調査区の東壁付近では明確に高低差があるが西壁に向かい堆積は徐々に小さくなり、西壁付近では一つの遺構面しか検出できない。また東壁の北側では、C-6 グリッドから北側の黒色土包含層の上層部で斜め方向に入るいわゆるクサビ状の堆積がみられ、土石流のような堆積状況を示している。位置的にみると持ケ瀧川からのものとみられる。

次に遺構面よりも下層の堆積であるが、最終的に掘り下げた結果からみると、I 区の南東隅から北方向に向かい幅の広い流路が確認された。これをSD-03としているが、この底面にはきめの細かい砂の上に角礫や亜角礫が堆積する不自然な堆積状況を示しており、東側の山側付近を土砂の供給源とする大水があったものと考えられる。この遺構はSD-01の底面よりさらに深いため、時期的には遡ると考えられる。SD-03の西側の肩であるが、この部分の山土を削りとったものとみられる。つまり山が北側に舌状に張り出した部分に沿うように持ケ瀧川が南に振れたものと解釈したい。張り出し部の西側は緩やかに西方向に下るが、調査区の西壁手前で急激に日野川に向かって下る。原因は不明であるが日野川との関連を想定した方がよいように思われる。

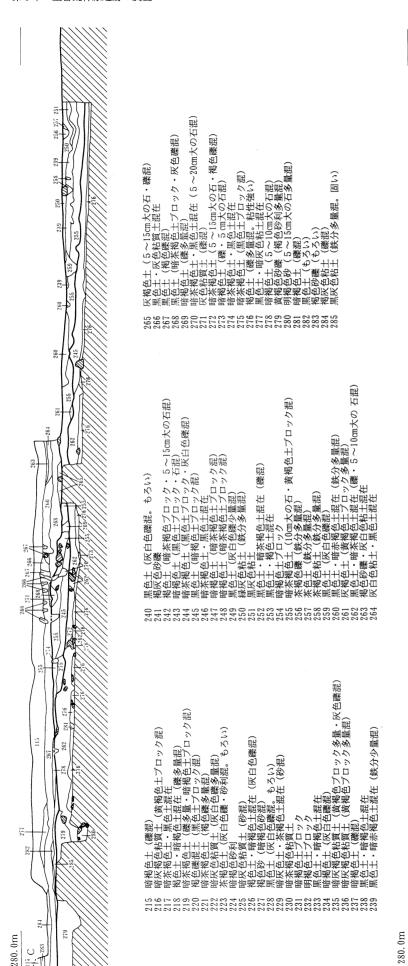
出土した遺物の時期は、縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期~弥生前期、弥生中期・後期とあり、少量ではあるが幅広い時期に認められた。遺構面の時期は不確定であるが、土層をみるかぎり遺構面付近は比較的安定しており、付近に自然流路もあることから、断続的ではあるものの縄文から弥生時代を通じて生活の場として利用されていたことがうかがわれる。

284.0m

**挿図5 II区西壁土層図** 



279.



0 223 239 251 |ZHZ /-250

挿図7 I-I区間土層図

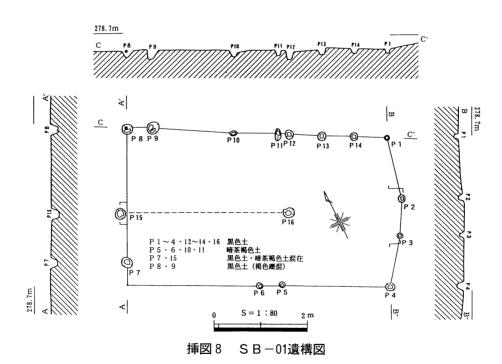
S = 1 : 100

# 第2節 平地住居

I 区第1遺構面、Ⅱ区第1・第2遺構面上でピット群が確認された。調査当初は周囲も含めて炉跡や焼土、壁間の溝や竪穴の痕跡等も確認できないことからピット群としていたが、東京国立文化財研究所の宮本長二郎氏により、平面形が円形および楕円形の壁立式平地住居14棟、平面形が方形の梁間1間型平地住居2棟、推定ではあるが平面形が円形の主柱2本型伏屋式平地住居が復元された。詳細については、第4章の宮本長二郎「上菅荒神原遺跡の住居遺構」を参照していただきたい。

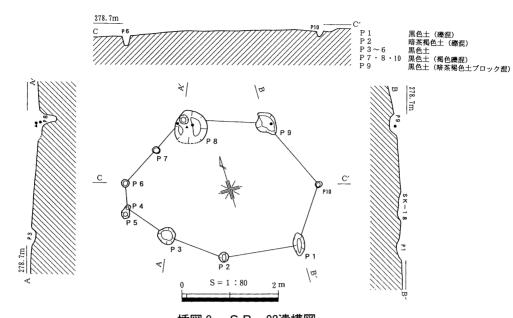
このうち壁立式平地住居と梁間 1 間型平地住居は、I 区第 1 遺構面から S B  $-01\sim05$ の 5 棟が、II 区では第 2 遺構面から S B  $-06\sim16$ の 11棟を復元した。主軸は S B  $-01\sim05$ では大きな差はみられないが、II 区では S B  $-06\cdot08\cdot10\cdot12\sim15$ と S B  $-07\cdot09\cdot16$ の主軸が直交しており、それぞれまとまりが想定できる。ただし S B -11は主軸を異にしている。円形平面の主柱 2 本型伏屋式平地住居は75棟で、S H  $-01\sim53$ までの53棟は I 区第 1 遺構面上、S H  $-54\sim75$ の22棟は II 区の第 2 遺構面上で検出され、調査区のほぼ全域に散在する。

次に各棟の概要について記述するが、円形平面の主柱 2 本型伏屋式平地住居については推定であるため遺構毎の説明は行わず、規模等は一覧表に記した。SB・SHともに一覧表の柱穴間距離については、基本的に次番号の柱穴との間の距離のことで、番号順でないものについては該当する柱穴名を( )内に記している。したがって出土遺物を中心に記述を進めるが、ここでいう粗製土器とは突帯文土器深鉢の体部または内外面無文の深鉢の体部のことである。その理由として両者が区別ができないためであるが、誤解を招くおそれもある。しかし体部片では縄文土器か弥生土器かという問題も含まれてくるが、ここでは突帯文土器の器形を甕ではなく深鉢としていることから、縄文土器の手法・焼成を踏襲する体部片という意味で粗製土器として記述しておく。



挿表 1 SB-01ピット一覧表

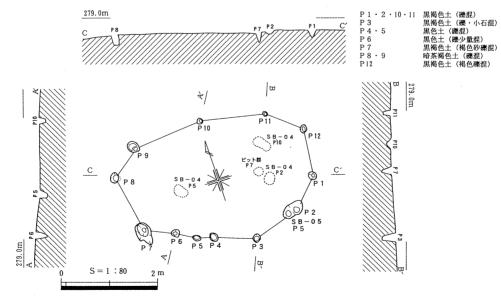
新番号	旧番号	長 軸	短軸	深さ	遺物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長軸	短軸	深さ	遺物	柱穴間距離
P1	P 215	12cm	11cm	10cm		1.34 m	P 9	P 224	27 cm	20cm	20cm		1.74 m
P2	P 213	16cm	14cm	11cm		0.79 m	P10	P 220	16cm	11cm	15cm		0.98 m
P3	P 212	13cm	12cm	11cm		1.10 m	P11	P 219	26cm	13cm	15cm		0.24 m
P4	P 211	20cm	17cm	16cm		2.32 m	P12	P 218	19cm	17cm	20cm		0.70 m
P5	P 221	13cm	12cm	8cm	,	0.48 m	P13	P 217	17cm	15cm	15cm		0.69 m
P6	P 222	14cm	13cm	27 cm		_	P14	P 216	17cm	16cm	12cm		0.71 m (P1)
P7	P 229	24cm	21 cm	15cm		2.85 m	P15	P 228	25cm	21 cm	15cm		3.57 m
P8	P 225	23cm	23cm	18cm	粗製土器	0.52 m	P16	P 210	24 cm	22cm	10cm		_
							平	均	19.1cm	16.1cm	14.9cm		1.29 m



挿図9 SB−02遺構図

挿表 2 SB-02ピット一覧表

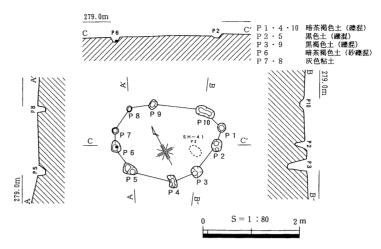
新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺物	柱穴間距離
P1	P 195	47 cm	24 cm	14cm			1.60 m	P 6	P 246	17cm	17cm	22cm		0.96 m
P2	P 199	22cm	22cm	11cm			1.29 m	P 7	P 245	19cm	15cm	20cm		0.87 m
Р3	P 132	38cm	35cm	9cm		-	1.01 m	P 8	P149	71 cm	66cm	46cm	粗製土器	1.72 m
P4	P 202	△11cm	11cm	7 cm			0.52 m (P6)	P 9	P 243	55cm	43cm	16cm	粗製土器	1.70 m
P 5	P 201	18cm	△15cm	13cm				P10	P148	15cm	12cm	15cm		1.32 m (P1)
								平	均	33.6cm	27.2cm	17.3cm		1.22 m



挿図10 SB-03遺構図

挿表 3 SB-03ピット一覧表

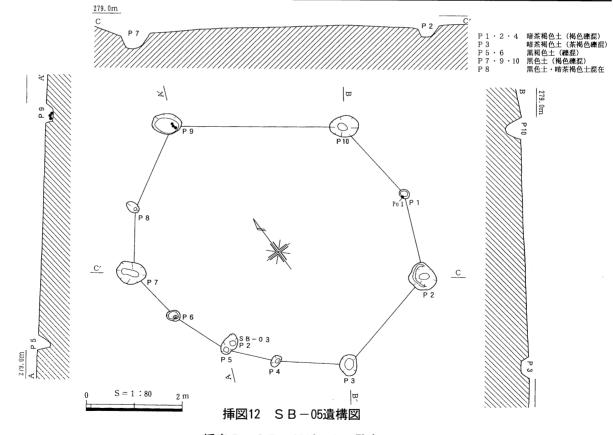
新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 106	19cm	16cm	16cm			0.80 m	P 7	P 124	51cm	30cm	23cm			1.23 m
P 2	P 105	27cm	△23cm	28cm			1.03 m	P 8	P 197	22cm	17cm	20cm			0.75 m
P3	P 109	16cm	15cm	16cm			0.91 m	P 9	P 196	27 cm	17cm	12cm			1.48 m
P4	P 121	19cm	16cm	32cm			0.34 m	P10	P119	13ст	12cm	14cm			1.37 m
P5	P 122	16cm	13cm	9cm			0.47 m	P11	P116	10cm	9ст	15cm			0.86 m
P6	P 123	17cm	17cm	23cm			0.66 m	P12	P 107	17cm	14cm	26cm			1.00 m (P1)
								平	均	21.2cm	16.0cm	19.5cm			0.83 m



挿図11 SB-04遺構図

挿表 4 SB-04ピット一覧表

新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長軸	短 軸	深さ	遺物	柱穴間距離
P1	184	20cm	16cm	29cm			0.35 m	P 6	P 192	25cm	19cm	13cm	粗製土器	0.37 m
P 2	112	27cm	22cm	12cm			0.76 m	P 7	P 191	14cm	12cm	13cm		0.54 m
P3	110	23ст	23cm	41 cm			0.49 m	P 8	P 190	13cm	12cm	18cm		0.49 m
_P4	187	28cm	14cm	25cm			0.86 m	P 9	P118	22cm	16cm	25cm		1.04 m
P 5	125	32cm	23cm	16cm			0.62 m	P10	P 185	40cm	22cm	9ст		0.57 m (P1)
								平	均	24.4cm	17.9cm	20.1cm		0.60 m

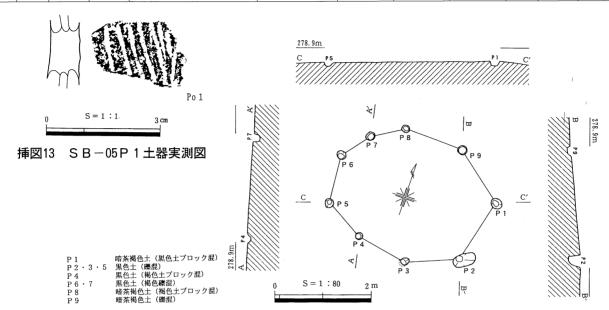


挿表 5 SB-05ピット**一**覧表

新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺物	柱穴間距離
P1	P 94	23cm	20cm	25cm	里木2式	1.79 m	P 6	P114	30cm	23cm	18cm		1.27 m
P2	P178	56cm	48cm	22cm		2.41 m	P 7	P 120	64 cm	48cm	40cm	黒曜石剥片	1.34 m
P3	P 99	45cm	37cm	22cm		1.52 m	P 8	P 233	29cm	18cm	25cm		1.90 m
P4	P 101	27cm	18cm	19cm		1.10 m	P 9	P144	64 cm	43cm	20cm	粗製土器	3.59 m
P5	P186	28cm	△23cm	30cm		1.27 m	P10	P 143	51 cm	45cm	35cm		1.90 m (P1)
							平	均	41.7cm	33.3cm	25.6cm		1.81 m

#### 插表 6 SB-05P1土器観察表

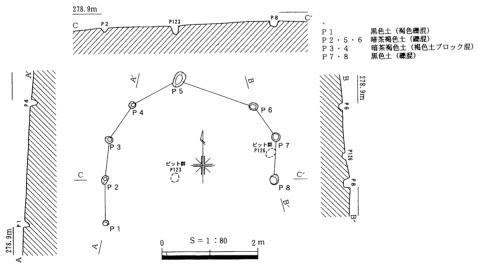
遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法量(㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 1 13 3	SB-05 P1	縄文中期 深鉢	① △ 1.7	1段Lの撚糸文を約3㎜間隔に施す。一部斜め方向に重なる。	横方向のナデ。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密・良好	1616	里木 2 式 旧番号 P94	清水-149



挿図14 SB-06遺構図

#### 挿表7 SB-06ピット一覧表

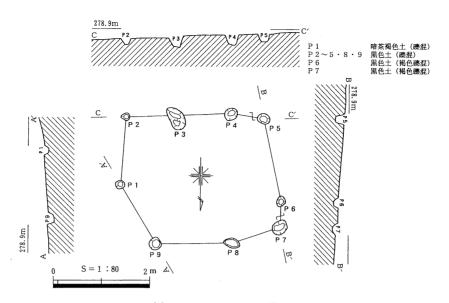
新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 295	25ст	20cm	13cm			1.41 m	P6	P 301	18cm	17cm	10cm			0.74 m
P 2	P 292	48cm	25cm	26cm			1.20 m	P7	P 300	22cm	17cm	14cm			0.77 m
Р3	P 304	18cm	15cm	12cm			1.09 m	P8	P 307	16cm	16cm	7 ст			1.26 m
P4	P 303	16cm	13cm	7 cm			0.94 m	P9	P 310	20 ст	19cm	9 ст			1.32 m (P1)
P5	P 302	20cm	18cm	8cm			0.98 m	平	均	22.6cm	17.8cm	11.8cm			1.08 m



挿図15 SB-07遺構図

挿表 8 SB-07ピット一覧表

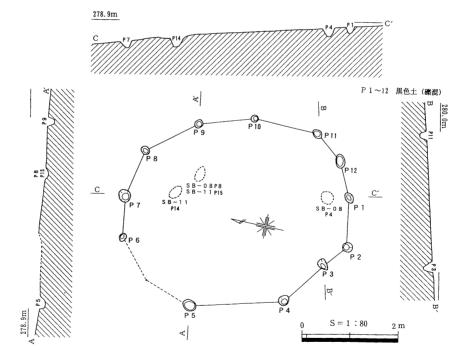
								-							
新番号	旧番号	長 軸	短軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 309	13cm	12cm	9ст			0.94 m	P5	P 311	44 cm	22cm	15cm			1.66 m
P2	P 305	19cm	14cm	9ст			0.84 m	P6	P 294	17cm	16cm	9ст			0.79 m
Р3	P 306	16cm	15cm	15cm			0.90 m	P7	P 291	19cm	18cm	7 cm			0.92 m
P4	P 299	14cm	14cm	6ст			1.08 m	P8	P 287	21 cm	18cm	14cm			
								平	均	20.4cm	16.1cm	10.5cm			1.02 m



挿図16 SB-08遺構図

挿表 9 SB-08ピット一覧表

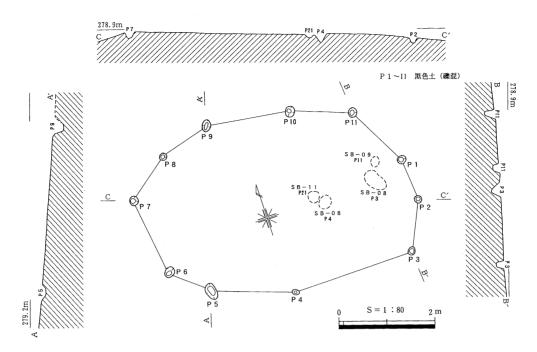
新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 374	21cm	18cm	11cm			1.44 m	P6	P 336	21 cm	19cm	11cm			0.55 m
P2	P 327	18cm	18cm	12cm			1.05 m	P7	P 337	32cm	26cm	13ст			1.06 m
P3	P 326	49cm	30cm	25cm			1.15 m	P8	P 338	25cm	21 cm	7 cm			1.60 m
P4	P 356	29 ст	25cm	23cm			0.71 m	Р9	P 344	25cm	24 cm	14cm			1.45 m (P1)
P 5	P 355	26cm	21 cm	20cm			1.78 m	平	均	27.3cm	22.4cm	15.1cm			1.20 m



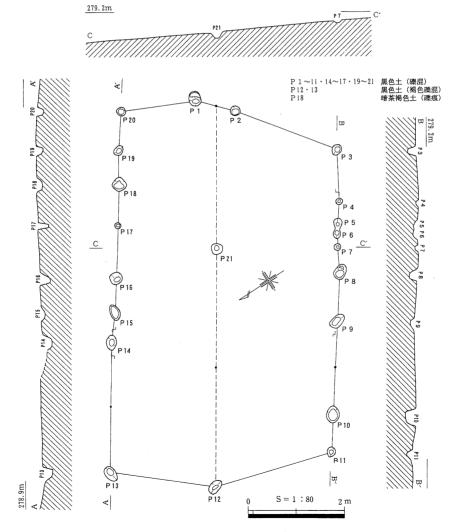
挿図17 SB-09遺構図

挿表10 SB-09ピット**一**覧表

新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 339	24 cm	18cm	15cm			1.04 m	P 7	P 361	27 cm	24cm	16cm			1.05 m
P 2	P 349	21cm	21 cm	22cm			0.63 m	P 8	P 345	20cm	19cm	13cm			1.26 m
P3	P 341	27cm	19cm	23cm			1.10 m	P 9	P 335	18cm	16cm	14cm	-		1.20 m
P4	P 348	23cm	20cm	25cm			1.99 m	P10	P 331	15cm	15cm	16cm			1.34 m
P 5	P 347	30cm	28cm	18cm			_	P11	P 343	22cm	17cm	15cm			0.74 m
P6	P 362	19cm	12cm	9ст			0.85 m	P12	P 325	29cm	20cm	26cm			0.78m(P1)
								平	均	22.9cm	19.1cm	17.7cm			1.09 m



挿図18 SB−10遺構図



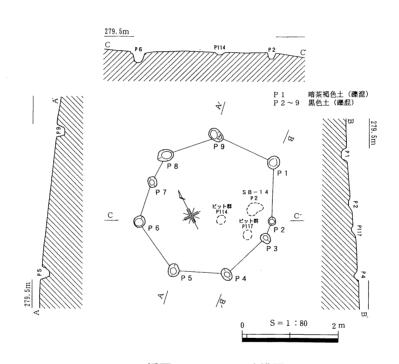
挿図19 SB−11遺構図

挿表11 SB-10ピット一覧表

新番号	旧番号	長 軸	短軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 328	18cm	17cm	14cm			0.91 m	P 7	P 358	19cm	18cm	14cm			1.12 m
P 2	P 322	16cm	16cm	12cm			1.10 m	P 8	P 365	17cm	16cm	6cm			1.12 m
P3	P 321	18cm	17cm	16cm			2.58 m	P 9	P 353	27cm	18cm	14cm			1.78 m
P4	P 401	15cm	11cm	6cm			1.77 m	P10	P 334	22cm	19cm	17cm			1.32 m
P 5	P 402	34 cm	20cm	7cm			0.98 m	P11	P 332	21 cm	18cm	22cm			1.43 m (P1)
P6	P 377	25ст	19cm	18cm			1.69 m	平	均	21.1cm	17.2cm	13.3cm			1.44 m

#### 挿表12 SB-11ピット一覧表

旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P 315	31 cm	26cm	16cm			0.85	P12	P 359	34 cm	20cm	12cm			2.23 m
P314	22cm	20ст	15cm			2.29 m	P13	P 364	35cm	21 cm	21 cm			2.72 m
P 392	23cm	20cm	19cm			1.09 m	P14	P 352	32cm	22cm	17cm			0.63 m
P 396	14cm	13cm	4 cm			0.49 m	P15	P 338	25cm	21 cm	7 cm			0.71 m
P 397	17cm	△15cm	10cm			0.18m	P16	P 351	28cm	25cm	23cm			1.15 m
P 398	△17cm	17cm	10cm			0.30 m	P17	P 330	15cm	14cm	24 cm		-	0.86 m
P 399	15cm	15cm	6cm			0.58 m	P18	P 342	30ст	29ст	15cm			0.72 m
P 384	33cm	23ст	20cm			0.99 m	P19	P 319	21 cm	17cm	14cm			0.84 m
P402	34 cm	20cm	7cm			1.98m	P 20	P 318	18cm	18cm	13cm	-		1.58 m (P1)
P 376	34cm	27cm	25cm			0.79 m	P 21	P 340	25cm	24 cm	15cm			_
P 372	22cm	20ст	12cm			2.54 m	平	均	25.4cm	20.6cm	14.5cm	_		1.18 m
	P315 P314 P392 P396 P397 P398 P399 P384 P402 P376	P315 31 cm P314 22 cm P392 23 cm P396 14 cm P397 17 cm P398 △17 cm P399 15 cm P384 33 cm P402 34 cm P376 34 cm	P315         31 cm         26 cm           P314         22 cm         20 cm           P392         23 cm         20 cm           P396         14 cm         13 cm           P397         17 cm         △15 cm           P398         △17 cm         17 cm           P399         15 cm         15 cm           P384         33 cm         23 cm           P402         34 cm         20 cm           P376         34 cm         27 cm	P315         31 cm         26 cm         16 cm           P314         22 cm         20 cm         15 cm           P392         23 cm         20 cm         19 cm           P396         14 cm         13 cm         4 cm           P397         17 cm         △15 cm         10 cm           P398         △17 cm         17 cm         10 cm           P399         15 cm         15 cm         6 cm           P384         33 cm         23 cm         20 cm           P402         34 cm         20 cm         7 cm           P376         34 cm         27 cm         25 cm	P315         31 cm         26 cm         16 cm           P314         22 cm         20 cm         15 cm           P392         23 cm         20 cm         19 cm           P396         14 cm         13 cm         4 cm           P397         17 cm         △15 cm         10 cm           P398         △17 cm         17 cm         10 cm           P399         15 cm         15 cm         6 cm           P384         33 cm         23 cm         20 cm           P402         34 cm         20 cm         7 cm           P376         34 cm         27 cm         25 cm	P315     31 cm     26 cm     16 cm       P314     22 cm     20 cm     15 cm       P392     23 cm     20 cm     19 cm       P396     14 cm     13 cm     4 cm       P397     17 cm     △15 cm     10 cm       P398     △17 cm     17 cm     10 cm       P399     15 cm     15 cm     6 cm       P384     33 cm     23 cm     20 cm       P402     34 cm     20 cm     7 cm       P376     34 cm     27 cm     25 cm	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	P315         31 cm         26 cm         16 cm         0.85         P12         P359         34 cm         20 cm         12 cm           P314         22 cm         20 cm         15 cm         2.29 m         P13         P364         35 cm         21 cm         21 cm           P392         23 cm         20 cm         19 cm         1.09 m         P14         P352         32 cm         22 cm         17 cm           P396         14 cm         13 cm         4 cm         0.49 m         P15         P338         25 cm         21 cm         7 cm           P397         17 cm         △15 cm         10 cm         0.18 m         P16         P351         28 cm         25 cm         23 cm           P398         △17 cm         17 cm         10 cm         0.30 m         P17         P330         15 cm         14 cm         24 cm           P399         15 cm         15 cm         6 cm         0.58 m         P18         P342         30 cm         29 cm         15 cm           P384         33 cm         23 cm         20 cm         0.99 m         P19         P319         21 cm         17 cm         14 cm           P402         34 cm         20 cm	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$					



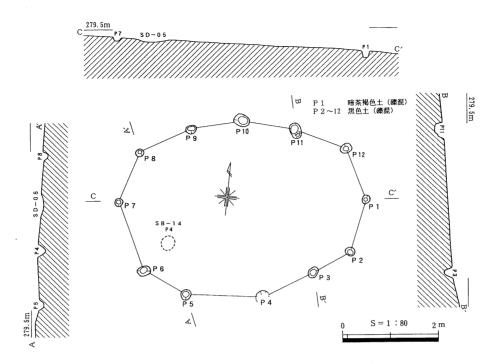
挿図20 SB−12遺構図

挿表13 SB-12ピット**一**覧表

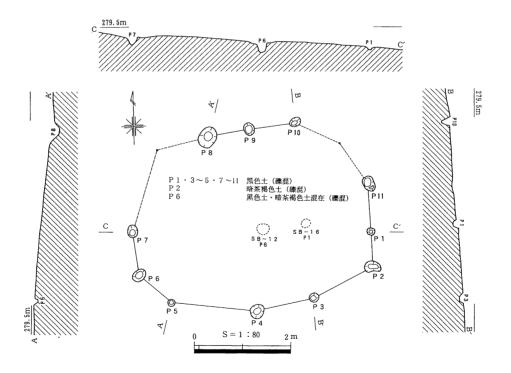
新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 391	28cm	25cm	13ст			1.25 m	Р6	P 387	26cm	24cm	20cm			0.89cm
P 2	P 390	18cm	16cm	15cm			0.37 m	P7	P 386	23cm	19cm	12cm			0.65cm
P3	P 415	24 cm	19cm	12cm			1.13 m	Р8	P 385	35cm	25cm	18cm			1.15cm
P4	P418	26cm	19ст	12cm			1.13 m	P9	P 384	33cm	23cm	20cm			1.30cm(P1)
P 5	P 388	27cm	23ст	19cm			1.25 m	平	均	26.7cm	21.4cm	15.7cm			1.01cm

#### 挿表14 SB-13ピット一覧表

新番号	旧番号	長軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 393	20cm	16cm	18cm			1.16 m	P 7	P 379	17cm	16cm	10cm			1.14 m
P 2	P 382	20cm	19cm	21 cm			0.88 m	P 8	P 427	17cm	17cm	11cm			1.20 m
P3	P416	23cm	18cm	18cm			△1.19 m	P 9	P 407	23cm	18cm	14cm			1.12 m
P4	P 381	△39ст	△11 cm	_			△1.61 m	P10	P 385	35cm	25cm	18cm			1.09 m
P5	P 422	23cm	21 cm	11cm			1.02 m	P11	P 384	33cm	23cm	20cm			1.16 m
P6	P 380	28cm	20cm	27 cm			1.53 m	P12	P400	25cm	20cm	16cm			1.15m(P1)
							-	平	均	23.9cm	19.4cm	16.7cm			1.15 m



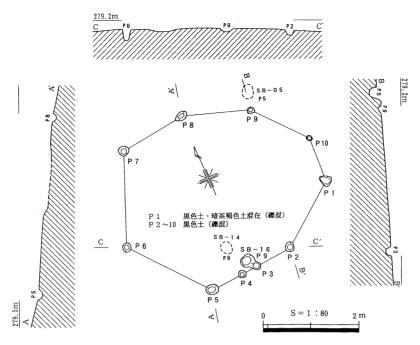
挿図21 SB−13遺構図



挿図22 SB−14遺構図

挿表15 SB-14ピット一覧表

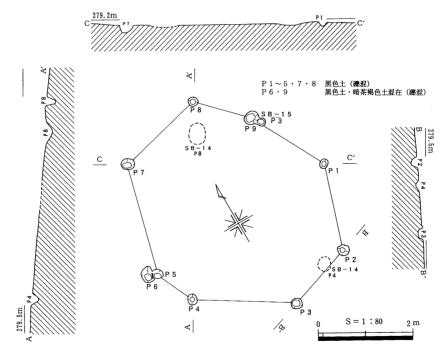
新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 409	17cm	17cm	7 cm			0.75 m	P 7	P 433	27 cm	21 cm	16cm			<u> </u>
P 2	P 410	36cm	23cm	9cm			1.42 m	P 8	P 430	45cm	35cm	19ст			0.85 m
P3	P419	20cm	19cm	12cm			1.20 m	P 9	P428	27cm	23cm	7 cm			0.96 m
P4	P 421	32cm	28cm	15cm			1.81 m	P10	P 377	25cm	19cm	18cm			_
P 5	P 424	15cm	14cm	8cm	ĺ		0.89 m	P11	P 384	33cm	23cm	20cm			△1.04 m
P6	P 431	30cm	23cm	12cm			0.92 m	平	均	27.9cm	22.3cm	13.0cm			1.10 m



挿図23 SB−15遺構図

挿表16 SB-15ピット一覧表

新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P 357	25cm	21 cm	21 cm			1.59 m	P 6	P 437	20cm	17cm	25cm			2.04 m
P 2	P 403	22cm	18cm	13cm			0.82 m	P 7	P 368	22cm	21 cm	10cm			1.41 m
P3	P 404	17ст	△16ст	15cm			0.35 m	P 8	P 370	28ст	17cm	7cm			1.48 m
P4	P 406	16cm	16cm	13cm			0.71 m	P 9	P 365	17cm	16cm	6cm			1.38 m
P5	P 378	28cm	22cm	11cm			2.00 m	P10	P 354	12cm	12cm	10cm			0.96m(P1)
							-	平	均	20.7cm	17.8cm	13.1cm			1.27 m



挿図24 SB−16遺構図

挿表17 SB-16ピット一覧表

新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離	新番号	旧番号	長 軸	短 軸	深さ	遺	物	柱穴間距離
P1	P408	20cm	16cm	14cm			1.84 m	P6	P 435	32cm	△19cm	22cm			_
P2	P 420	26cm	24 cm	14cm			1.49 m	P7	P 436	28cm	23cm	17cm			1.92 m
P3	P 423	23cm	23cm	11cm			2.19 m	Р8	P 429	21 cm	20cm	21 cm			1.25 m
P4	P 432	24 cm	19cm	14cm			0.88 m	P9	P 405	29cm	△20cm	18cm			1.83 m (P1)
P5	P 434	20cm	△19cm	17cm			2.39 m (P7)	平	均	24.8cm	20.8ст	16.4cm			1.72 m

住居番号	区名	検出面	グリッド名	主軸方向	標高	平面形	住 居 型	検出面規模 (m)	遺物	時期・備考
SB-01	Ι区	1面	$C - 4 \sim 5$	N-62° -W	278.2~278.5 m	方形	梁間1間型平地住居	5.8×3.3	粗製土器	縄文晩期~ 弥生前期か
SB-02	Ι区	1面	C – 4	N-71° -W	278.6 m	楕円形	壁立式平地住居	4.0×2.8	粗製土器 黒曜石	縄文晩期~ 弥生前期
SB-03	Ι区	1面	D - 4	N-71° -W	278.7~278.8 m	楕円形	壁立式平地住居	$4.0 \times 2.6$		
SB-04	Ι区	1面	D-4	N-82° -W	278.7~278.8 m	楕円形	壁立式平地住居	2.2×1.6	粗製土器	縄文晩期~ 弥生前期
SB-05	Ι区	1面	$ \begin{array}{c} C \sim D - \\ 4 \sim 5 \end{array} $	N-54° -W	278.4~278.9 m	楕円形	壁立式平地住居	6.0×4.9	里木2式・ 粗製土器、 黒曜石	縄文中期後 半~弥生前 期
SB-06	Ⅱ区	2面	F - 4	N-73° -E	278.5~278.7 m	楕円形	壁立式平地住居	$3.4 \times 2.6$		
SB-07	Ⅱ区	2面	F - 4	N-12° - E	278.5~278.7 m	楕円形	壁立式平地住居	△3.0×3.5		
SB-08	Ⅱ区	2面	F - 3	N-88° - E	278.5~278.8 m	楕円形	壁立式平地住居	$3.2 \times 2.7$		
SB-09	Π区	2面	F ~ G − 3	N-11° -W	278.4~278.9 m	楕円形	壁立式平地住居	4.5×3.8		
SB-10	Ⅱ区	2面	F ~ G − 3	N-72° -W	278.6~279.0 m	楕円形	壁立式平地住居	$5.9 \times 3.8$		
SB-11	ΙZ	2面	$F \sim G - 3$	N-55° -W	278.5~279.0 m	方形	梁間1間型平地住居	8.0×4.7		
SB-12	Π区	2面	G-3	N-43° - E	279.0~279.3 m	楕円形	壁立式平地住居	$3.0 \times 2.7$		
SB-13	Π区	2面	G - 3	N-83° - E	279.0~279.4 m	楕円形	壁立式平地住居	$5.1 \times 3.7$		
SB-14	Π区	2 面	G - 3	N-89° -W	279.0~279.5 m	楕円形	壁立式平地住居	$5.0 \times 3.8$		
SB-15	Ⅱ区	2面	$F \sim G - 3$	N-71° -W	278.8~279.1 m	楕円形	壁立式平地住居	$4.4 \times 3.5$		
SB-16	Ⅱ区	2 面	G - 3	N-61° -W	279.0~279.4 m	楕円形	壁立式平地住居	$4.5 \times 3.9$		

插表18 平地住居一覧表

#### SB-01~05 (挿図8~13 挿表1~6 ⋅ 18 図版2 ⋅ 3)

I区第1遺構面検出の壁立式平地住居は5棟である。SB-01は梁間1間型平地住居で、いずれの壁柱も暗茶褐色土包含層を掘り下げ中または後に確認した。北壁の壁柱は並んだ状態で検出できたが、南壁は斜面の上側にあるためか遺存状態は悪い。主柱はP15とP16の2本とみられ、距離は3.57mである。住居の西側についても遺存状況は悪いが、主柱の状況から住居の西側は東側と同様に中央が張り出す形態になると推測できる。壁柱中の遺物としてP8から粗製土器が1点出土した。内外面ともにナデである。

SB-02~05の壁柱は、暗茶褐色土の上面または掘り下げ後に検出できたものが混在する。暗茶褐色土の掘り下げ中または掘り下げ後に検出できたものは、SB-02はP1・2・4~7、SB-03はP8・9、SB-04はP1・4・6~8・10、SB-05はP2・8で、他はいずれも暗茶褐色土の上面からの検出である。

出土した遺物は、SB-02のP8から粗製土器が2点と黒曜石剥片1点、P9から粗製土器1点が出土した。粗製土器はこれ以外も含め、いずれも内外面ともにケズリ状のナデまたはナデである。SB-04のP6出土の粗製土器は、内面には炭化物が付着していた。時期の明らかなものは、SB-05のP1からP01が出土した。外面は1段Lの撚糸文を施し、内面は横方向のナデである。里木2式の土器と考えられる。またP7からは黒曜石、P9からは粗製土器3点が出土した。外面に煤が付着するものや、穿孔を試みた痕のあるものがみられた。

#### SB-06~16 (挿図14~24 挿表 7~18 図版 2)

II 区第 2 遺構面検出の壁立式平地住居は11棟である。SB-11は梁間 1 間型平地住居で、南北壁のピットは並んだ状態で検出できた。主柱はP21であるが、対応するとみられるもう 1 基の主柱は確認することができなかった。遺物は出土していない。

 $SB-06\sim10 \cdot 12\sim16$ についてはいずれの壁柱からも遺物は出土していないが、壁面で立ち上がりの確認できる SB-13の P4 について、埋土中に比較的多くの炭化物が含まれていたため炭素14年代測定を実施した。結果については考察に「上菅荒神原遺跡における放射性炭素年代測定」として掲載しているが、 $6780\pm70$  BP という結果が得られた。暦年代に換算するとBC5620年で、縄文時代早期後半となる。同時期に当てはまる遺物は出土していない。

これらの結果から、 $SB-01\sim05$ の住居は出土遺物から判断すると縄文時代中期後半〜縄文時代晩期〜弥生時代前期頃となるが、SB-01のように全ての柱穴が暗茶褐色土掘り下げ後に検出された比較的古い様相をもつものもみられる。 $SB-06\sim16$ は年代測定を積極的に解釈すると縄文時代早期後半で、層位的にもよいが、遺構内からの遺物の出土はなく上限を押さえるのに留まる。

#### SH-01~75 (挿図25~31 挿表19・20 図版3)

調査区の第1遺構面で75棟の住居跡を復元した。主軸方向を検討すると、I区では緩斜面に対し主軸が等高線に直交するもの、斜行するもの、平行するものがそれぞれみられたが、II区の比較的傾斜の強い付近では等高線に対し直交するものが目立つように思われる。

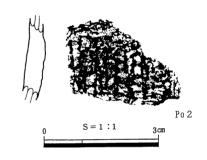
構造としては、基本的に 2 本一組の主柱をもつが、主柱の間にピットまたは土坑をもつものが 2 棟みられた。 SH-11は I 区第 1 遺構面、D-5 グリッド北西部にあり、SB-05の東に位置する。SK-20を跨ぐように主柱があり、SK-20の東隣にはピットがあり、まとまりのある配置をしている。SH-59は II 区第 1 遺構面、F-2 グリッドほぼ中央にあり、南にはSH-58、北にはSH-60がある。主柱の中間にP 3 があり、住居内のピットとみられる。しかしいずれの遺構からも焼土・炭化物を含め遺物は確認できなかった。

遺物は計13基のピットから黒曜石、粗製土器、弥生土器、縄文土器が出土した。

黒曜石はSH-12のP1とSH-13のP1から出土した。粗製土器は、SH-20のP1、SH-23のP1、SH-25のP1、SH-28のP1、SH-300P1、SH-350P2、SH-390P2、SH-450P1から各1点が出土した。内外面ともにナデ、粗いナデ、ケズリ状のナデ調整である。

弥生土器は、SH-23のP1から器壁が薄く外面が赤彩された弥生時代中期の土器1点が出土した。ただし検出面よりも浮いた状態で出土しており、上層の黒色土包含層のものである可能性が高い。SH-35のP2からは弥生土器が3点出土した。内1点は2m間隔で4点以上の櫛状工具の刺突が並ぶ。縄文土器はSH-45のP2からPo2が出土した。2段RL縄文の船元式で縄文時代中期後半頃である。

これらの遺物の時期は黒曜石については不明瞭ではあるが、概ね縄文時代 中期後半~弥生時代中期におよぶ。粗製土器が大半であるが、焼きは比較的 よく突帯文土器の体部と考えることも可能であろう。したがって縄文時代中



挿図25 SH−45P2土器実測図

插表19 SH-45P2土器観察表

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法量(㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土•焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 2 25 3	SH-45 P2	縄文中期 深鉢	① △ 2.2	2段RLの縄文が縦方向に重なる。 器壁は5mm程度で薄い。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	密(1~2 mm 大の石英を含 む)・良	1613	船元式 旧番号 P159	清水-187

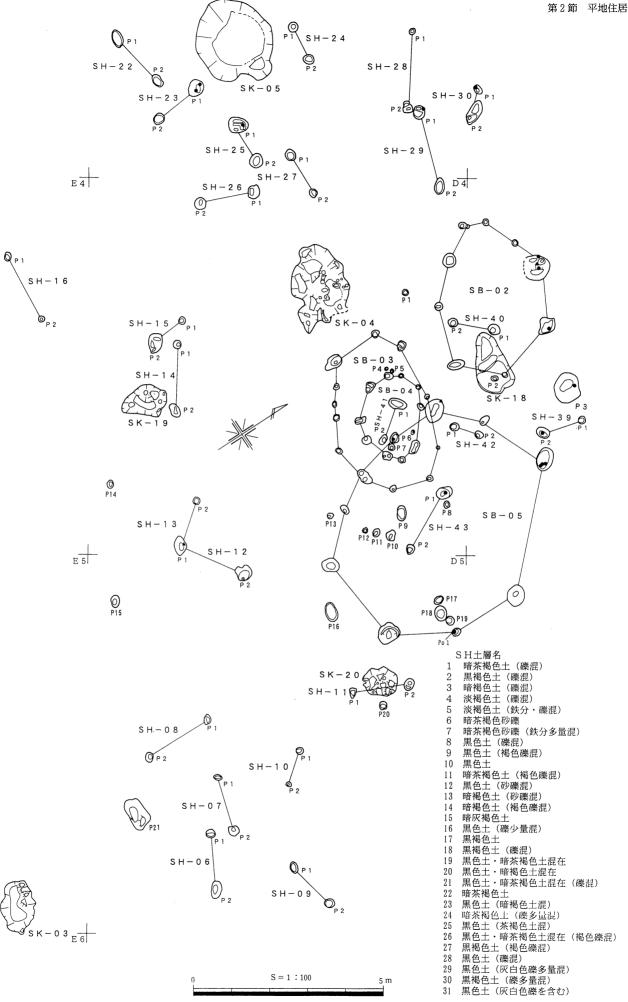
#### 插表20 主柱 2 本型伏屋式平地住居一覧表

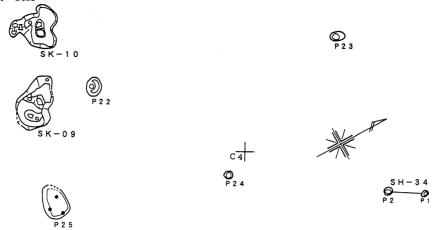
SH 番号	新 番号	旧 番号	グリッド名 主軸方向	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層	遺	物	柱穴間 距離(m)	SH 番号	新 番号	旧番号	グリッド名 主軸方向	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層	遺物	柱穴間 距離(m)
SH-01	1	55	E - 5 - 3	23	17	13	1			1.48	SH-10	1	89	D - 5 - 4	21	18	17	12		0.95
	2	54	N-71° -W	23	22	9	1					2	88	N-47° -W	13	13	16	10		
SH-02	1	57	E - 5 - 2	29	22	12	2			1.13	SH-11	1	91	D - 5 - 1	28	19	9	12		1.52
	2	56	N-70° -E	44	22	9	1			1.15		2	177	N-17° -E	32	25	10	11		
İ	3	284		21	△19	12	1				SH-12	1	96	D - 5 - 2	51	35	18	13	黒曜石	1.83
SH-03	1	64	E - 5 - 1	15	15	14	1			1.4		2	98	N-50° -E	43	43	18	14		
	2	63	N-53° -W	21	20	9	1				SH-13	1	96	D - 4 - 3	51	35	18	13	黒曜石	1.27
SH-04	1	62	E - 5 - 4	28	18	36	3			1.08		2	97	N-47° -W	19	19	6	13		
	2	61	N-71° -E	25	22	12	4				SH-14	1	127	D - 4 - 3	22	20	10	8		1.77
SH-05	1	60	E - 5 - 4	35	30	17	5			1.05		2	126	N-63°-W	39	25	21	9		
	2	59	N-61° -E	32	25	9	5				SH-15	1	128	D - 4 - 2	19	17	7	8		0.79
SH-06	1	85	D - 5 - 3	26	23	14	6			1.45		2	70	N-11° -W	54	37	26	8		
	2	84	N-69°-W	45	. 29	14	7				SH-16	1	72	E - 4 - 1	25	18	31	16		1.88
SH-07	1	87	D - 5 - 3	23	16	10	8			1.44		2	71	N-87° -E	18	17	8	16		
	2	175	N-80° -W	31	27	16	9				SH-17	1	74	E - 3 - 1	42	33	15	8		1.78
SH-08	1	90	D - 5 - 2	26	19	11	10			1.82		2	75	N-67° -E	31	28	13	2		
	2	66	N-7°-W	26	20	13	11				SH-18	1	83	D - 3 - 2	31	30	17	17		0.96
SH-09	1	86	D - 5 - 4	30	22	8	9			1.32		2	82	N-3°-W	47	39	17	17		
	2	174	N-70° -E	27	24	17	9													

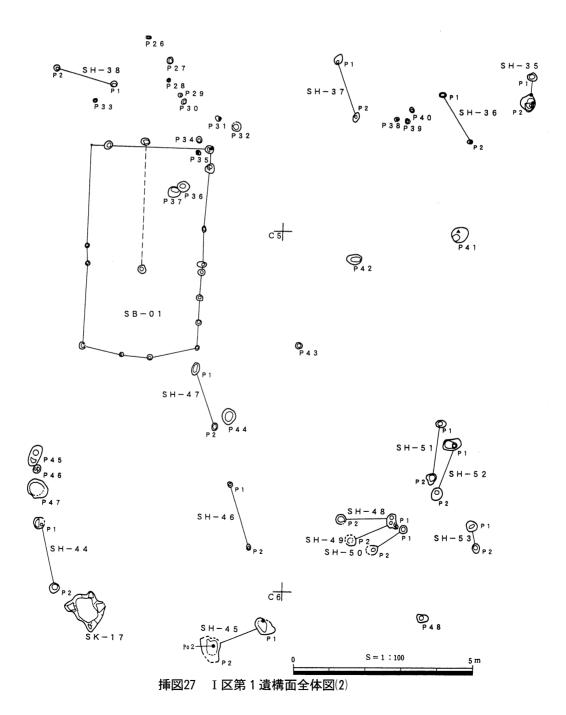
#### 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

期後半以降で、突帯文土器の時期が中心であると考えられる。遺構の時期については不明確ではあるが、上層の 黒色土包含層の遺物の割合では突帯文土器が最も多い。弥生時代中期の遺物も出土したが、住居の構造を考える と弥生時代中期は竪穴住居が中心と考えられるため、ここでは縄文時代晩期~弥生時代前期の突帯文土器の時期 を中心に考えておきたい。

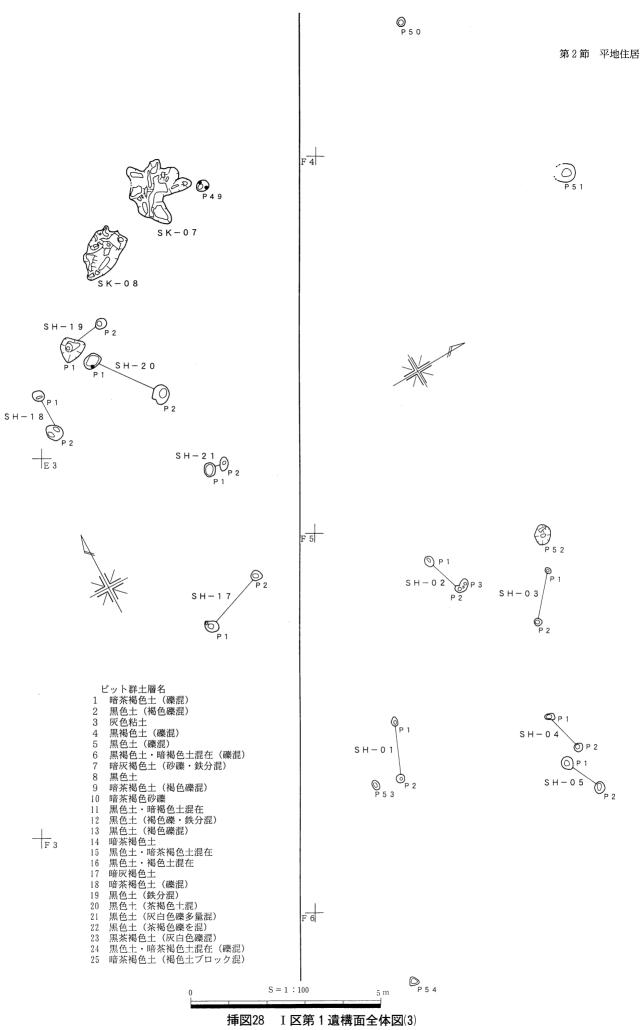
SH	新	IΒ	グリッド名	長軸	短軸	深さ			柱穴間	SH	新	旧	グリッド名	長軸	短軸	深さ				柱穴間
番号	番号	番号	主軸方向	(cm)	(cm)	(cm)	土層	遺物	距離伽	番号	番号	番号	主軸方向	(cm)	(cm)	(cm)	土層	遺	物	距離伽
SH-19	1	140	D - 3 - 2	63	58	13	17		1.04	SH-48	1	257	B - 5 - 3	22	△15	11	9			1.41
SH-20	2	141	$N-78^{\circ}$ -E $D-3-2$	30	28 33	49	18 20	粗製土器	2.04	SH-49	2	255 257	N-25° -E B - 5 - 3	29 25	28 △21	13	28 9			1,22
511-20	2	81	N-39° -W	52	44	12	19	性殺工品	2.04	511-45	2	254	N-3°-E	30	30	12	28			1,22
SH-21	1	77	E - 3 - 1	39	31	7	2		0.43	SH-50	1	256	B - 5 - 3	24	22	12	9			1.01
L	2	76	N-84° -W	39	21	13	2				2	253	N-8°-W	33	24	9	28			
SH-22	1 2	78 80	D - 3 - 3 N-73° -E	37	28 25	8	20		1.53	SH-51	1	282	B-5-3	27	21	16	22			1.55
	4	00	IV-19 -E	31	25	9	20	粗製土器		SH-52	1	265 266	N-56° -W B - 5 - 3	34 50	30	12	9			1.40
SH-23	1	136	D - 3 - 3	46	39	17	10	弥生中期	1.32	511 02	2	264	N-43° -W	38	25	15	9			1,10
	2	79	N-13° -W	30	30	6	20			SH-53	1	263	B - 5 - 4	31	30	19	9			0.60
SH-24	1	138	D - 3 - 4	27	27	15	21		0.95		2	262	N-75° -W	26	22	14	9			
SH-25	2	137 135	N-89°-E D-3-3	30 52	26 42	8 17	20	粗製土器	1.00	SH-54	2	33	G-2-2 N-4°-W	26	25 25	12 29	29 29			1.06
311-20	2	133	N-83° -E	40	35	12	8	性袋工品	1.00	SH-55	1	32	G - 2 - 1	40	28	15	29			1.09
SH-26	1	130	D - 4 - 2	35	29	12	16		1.37	011 11	2	31	N-43° -W	25	22	16	29			1.00
	2	129	N-14° -E	32	29	14	21			SH-56	1	30	G - 2 - 1	31	31	20	29			1.25
SH-27	1	134	D - 3 - 4	31	27	10	10		1.17		2	29	N-9°-W	28	24	17	29		_	
SH-28	2	204	N-84°-E D-3-4	24	20 15	7 20	18		2.02	SH-57	1 2	28	G - 2 - 4 N-84° -W	27	27 27	33 13	29 29			1.34
511-20	2	203	N-61° -W	31	24	14	22		2.02	SH-58	1	27 25	F - 2 - 3	31 26	22	13	29			1.36
SH-29	.1	173	D - 3 - 4	35	31	9	23	粗製土器	2.14	511 00	2	26	N-22° -W	30	25	13	29			1.00
	2	188	N-79° -W	43	25	8	24			SH-59	1	24	F - 2 - 3	27	23	17	29			1.28
SH-30	1	248	C - 3 - 3	25	19	5	22	粗製土器	0.76		2	22	N-67° -E	33	32	15	29			_
CII 91	2	247	$\frac{\text{N-51}^{\circ} - \text{W}}{\text{C} - 3 - 2}$	69	30	14	22	,	0.70	CII CO	3	44	T 0 0	77	60	18	29			1.04
SH-31	2	250 249	N-63° -E	19 34	18 26	7 5	22		0.72	SH-60	1 2	23	F - 2 - 2 N-52°-E	32	26 30	$\frac{14}{16}$	29 29			1.24
SH-32	1	168	B - 1 - 3	41	29	18	25		1.29	SH-61	1	14	F - 3 - 1	45	37	12	30			1.84
	2	167	N-80° -E	32	29	11	25				2	13	N-56° -W	30	18	13	30			
SH-33	1	279	B - 2 - 3	31	27	5	26	粗製土器	1.54	SH-62	1	47	F - 3 - 1	45	42	12	30			1.70
SH-34	2	278 275	$\frac{\text{N-38}^{\circ} - \text{W}}{\text{B} - 4 - 2}$	50	42	12	26 22		1.04	CII CO	2	12	$N-50^{\circ} - W$ F - 3 - 3	43	31	26	30			
511-04	2	164	N-28° -E	23	15 21	11	9		1.04	SH-63	2	48	N-9°-E	24	22	10	30 30			2.24
SH-35	1	281	B-4-4	26	22	8	19	******	0.81	SH-64	1	10	F - 3 - 3	33	30	21	30			1.20
	2	280	N-61° -W	49	40	31	19	弥生土器			2	19	N-60° -E	29	26	13	30			
SH-36	1	274	B - 4 - 3	18	13	7	22		1.54	SH-65	1	49	F - 3 - 3	27	24	22	30			1.34
SH-37	2	273 163	N-84°-E B-4-3	15 29	21	6 18	22 9		1.65	SH-66	2	9	N-41° -E F - 3 - 3	35 29	33 20	27	30 30		-	1.46
511-07	2	269	N-82° -W	27	16	18	10		1.00	511-00	2	18	N-79°-E	25	22	18	30			1,40
SH-38	1	237	C - 4 - 3	19	17	19	19	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	1.63	SH-67	1	50	F - 3 - 3	37	29	13	30			0.94
	2	235	N-43° -E	20	17	8	22				2	7	N-71° -E	35	27	13	30			
SH-39	1	234	C - 4 - 3	21	19	15	22	der Hol I de	1.06	SH-68	1	41	G - 3 - 4	33	32	10	31			1.70
SH-40	2	231	N-6°-E C-4-2	37	28 29	27	8	粗製土器	1 06	SH-69	2	39 45	N-48° -E G - 3 - 4	27 27	19 23	29 26	31 31			1.79
1511-40	2		N-36° -E	26	25	33	8		1.00	511-03	2		N-14° -E	38	32	10	31			1.75
SH-41	1		D - 4 - 4	48	26	10	48		1.03	SH-70	1	38	G - 3 - 4	35	27	22	31			1.39
	2	111	N-45° -W	29	17	26	8				2	37	N-70° -W	28	27	9	31			
SH-42	1	117	C - 4 - 3	24	21	29	2		0.68	SH-71	1	17	F - 4 - 2	29	24	10	30			1.51
SH-43	2	232 108	N-47° -E D-4-4	43	18 33	28	11 27	粗製土器	1 72	SH-72	2			34 28	28 22	16 12	30			1.10
011-40	2	181		28	22	15	9	1旦2≪上66	1.10	011-14	2		N-49°-E	24	20	13	30			1.10
SH-44	1	206	C - 5 - 3	31	29	8	22		1.76	SH-73	1	6	F - 4 - 2	28	24	20	30			1.57
	2			27	25	14	20				2		N-25° -E	28	27	14	30			
SH-45	1	160	C - 6 - 1	60	40	21		粗製土器	1.52	SH-74	1	3	F - 4 - 2	25	24	9	30			1.53
SH-46	2	159 259	N-4°-E C-5-4	49 16	30 14	23	9	突帯文	1 00	SH-75	2		$N-89^{\circ} - W$ F - 4 - 2	30	17 26	10	30			1.19
511-40	2	258	C = 5 = 4 N-81° -W	15	12	5	10		1.00	011-10	2		N-4-2 $N-20^{\circ}$ -W	25	26	9	30			1.19
SH-47	1	214	C - 5 - 1	34	21	15	10		1.72							<u> </u>	50			
	2	260	N-81° -W	20	17	14	10													

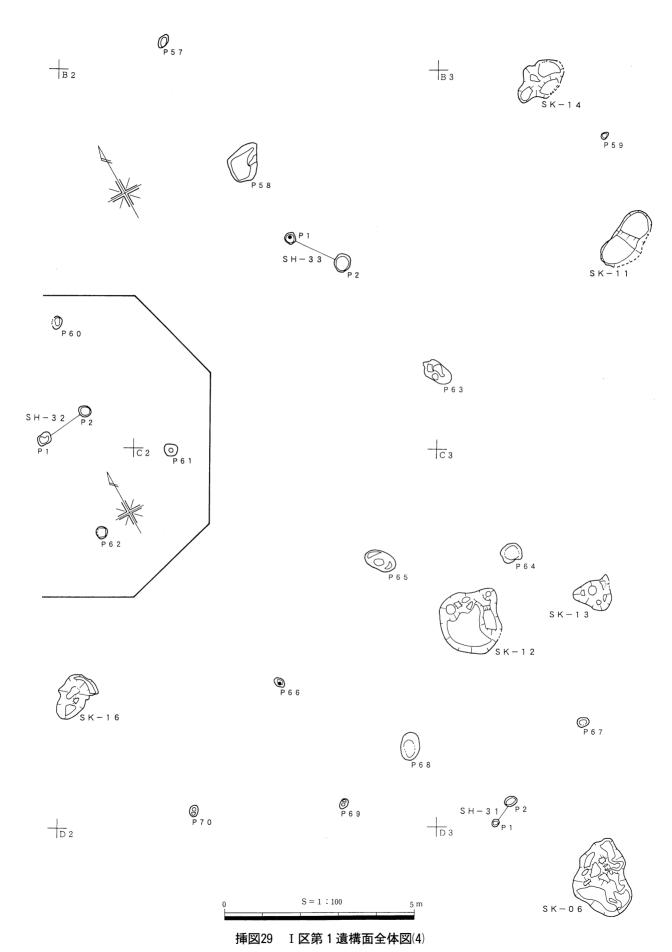


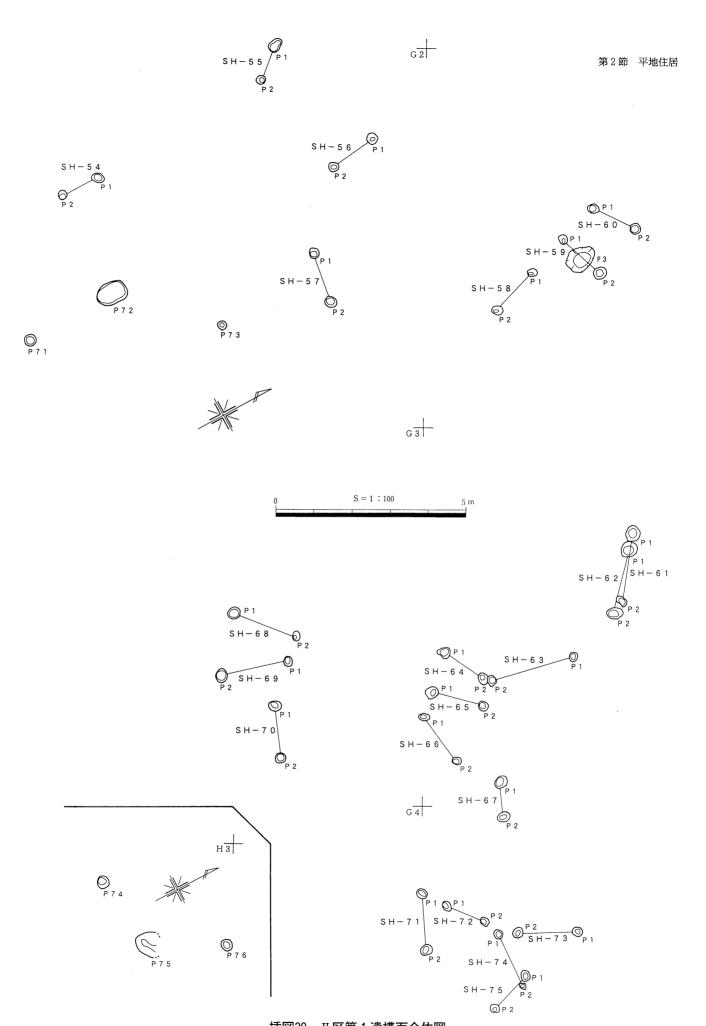




— 26 —



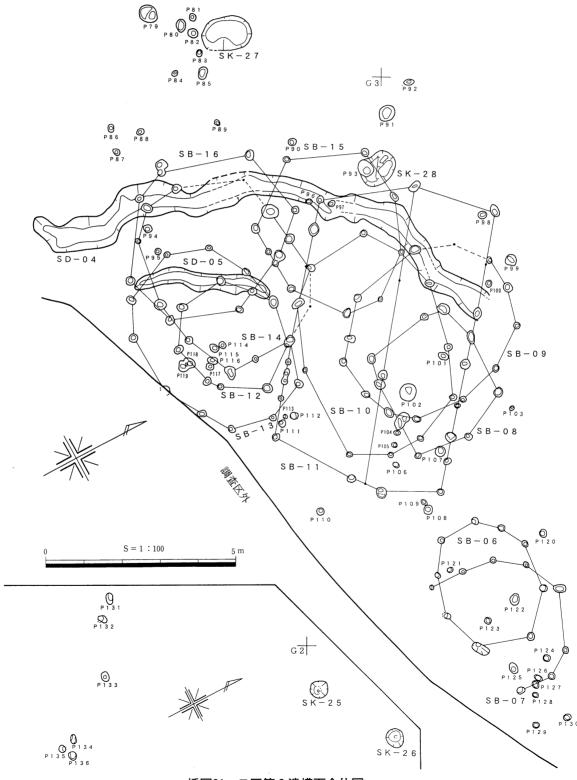




挿図30 Ⅱ区第1遺構面全体図

© P 7 7

O P 7 8



插図31 Ⅱ区第2遺構面全体図

挿表21 ピット群一覧表

							,,	表2   ヒ、	ット群	元4								
新番号	旧番号	区名	グリッド名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層	遺物	新番号	旧番号	区名	グリッド名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	土層	遺	物
1	200	Ι区	D - 4 - 1	17	17	23	1		69	156	Ι区	C - 2 - 3	30	20	11	2		
3	147 145	I 🗵	C-4-3 C-4-3	79	16 64	12 22	2 2	粗製土器	70 71	157 35	I 🗵	C-2-2 G-2-3	29 26	25 25	12 12	21		
4	194	Ι区	D-4-4	10	9	9	3	但殺上的	72	36	1区	G - 2 - 3	85	58	18	21		
5	193	Ι区	D - 4 - 4	11	10	9	3		73	46	IIZ	G - 2 - 3	25	24	14	21		
6	115	Ι区	D - 4 - 4	12	9	17	4		74	43	IΙ区	H - 3 - 1	35	32	13	21		
7	113	Ι区	D - 4 - 4	20	19	22	5		75	51	Ⅱ区	H - 3 - 1	67	△55	27	22		
8 9	183 182	IX	D - 4 - 4	19	17	18 22	1		76	42	Ⅱ区	H - 3 - 1	32	31	14	23		
10	104	I区	D-4-4 D-4-4	29	25 △16	16	6		77 78	451 450	II 🗵	G-2-1 G-2-3	31	19	18 12	1		
11	103	Ι区	D - 4 - 4	24	17	12	7		79	449	Ⅱ区	G - 2 - 3	50	46	16	1	-	
12	102	I区	D - 4 - 4	13	12	9	. 8		80	448	Π区	G - 2 - 4	35	26	15	24		
13	100	Ι区	D - 4 - 4	18	16	15	9		81	447	Π区	G - 2 - 4	20	18	12	24		
14	69 67	Ι区	D - 4 - 3	23	18	12	2		82	446	II 🗵	G - 2 - 4	28	24	13	24		
15 16	93	I区	D-5-2 D-5-1	31 50	25 32	10 13	10		83 84	445 444	11区	G - 2 - 4 G - 2 - 3	19 16	17 15	- 8 7	24 24		
17	95	Ι区	D - 5 - 1	28	22	12	4		85	443	11区	G - 2 - 4	34	25	10	24		
18	180	Ι区	D - 5 - 1	40	33	11	8		86	442	IΙ区	G - 3 - 2	21	16	7	24		
19	179	Ι区	D - 5 - 1	24	23	15	8		87	441	Π区	G - 3 - 2	20	17	9	24		
20	92	IZ	D - 5 - 1	21	21	11	11	Arl- Jetz	88	440	Ⅱ区	G - 3 - 2	20	17	15	24		
21 22	65 151	I区	D-5-3 C-3-4	82 52	49 42	25 15	12	鉄滓	89 90	439 438	Ⅱ区	G - 3 - 1 G - 3 - 1	18 23	15 19	12 10	25 24		
23	277	Ι区	B - 3 - 3	42	25	14	13		91	367	11区	F - 3 - 2	48	39	20	24		
24	276	Ι区	C - 4 - 1	25	22	21	14		92	366	II区	F - 3 - 2	27	16	8	24		
25	150	IΧ	C - 4 - 2	96	67	19		粗製土器	93	369	Ⅱ区	G - 3 - 1	43	36	24	24		
26	242	ΙX	C - 4 - 1	13	8	12	1		94	426	II区	G - 3 - 2	23	21	7	24		
27 28	241	I区	C - 4 - 4 C - 4 - 4	20	15 7	18 15	15		95 96	425 373	11区	G - 3 - 2 G - 3 - 1	19 21	18 18	9	24 24		
29	239	Ι区	C - 4 - 4	12	11	22	1		97	371		G - 3 - 1	21	15	11	24		
30	238	Ι区	C - 4 - 4	17	12	10	8		98	360	Ⅱ区	F - 3 - 2	24	22	28	13		
31	268	Ι区	C - 4 - 4	18	12	20	13	粗製土器	99	363	ΙΙ区	F - 3 - 2	33	30	23	24		
32	162	Ι区	C - 4 - 4	29	27	22	2		100	346	Ⅱ区	F - 3 - 3	18	17	10	13		
33 34	236 227	I区	C - 4 - 3 C - 4 - 4	11	10	14 21	13		101 102	333 350	Ⅱ区	F - 3 - 3 F - 3 - 3	27 48	18 42	5 28	24 24		
35	226	Ι区	C - 4 - 4	15	12	8	13	粗製土器	103	375	Ⅱ区	F - 3 - 3	15	11	17	8		
36	146	Ι区	C - 4 - 4	33	32	5	2		104	324	Π区	F - 3 - 3	19	14	11	24		
37	223	Ι区	C - 4 - 4	32	30	46	13		105	323	Π区	F - 3 - 3	15	14	11	24		
38	270 271	I 🗵	B - 4 - 3 B - 4 - 3	12 16	12 12	6 9	14		106	320	II 🗵	F - 4 - 2	17	14	14	24		
40	272	I 🗵	B - 4 - 3	15	12	4	14		107 108	329 317	Ⅱ区	F - 3 - 3 F - 4 - 2	29 26	28	7 12	24		
41	283	Ι区	B - 5 - 2	50	43	47	16	黒曜石	109	316	Ⅱ区	F - 4 - 2	18	14	10	24		
42	267	Ι区	B - 5 - 2	43	28	14	9		110	313	Ⅱ区	G - 4 - 1	20	20	18	24		
43	261	I区	B - 5 - 2	18	17	14	8		111	394	11区	G - 3 - 4	21	18	15	1		
44	161	$I\boxtimes$	C - 5 - 4	42	37	17	2	粗製土器 黒曜石	112 113	383	11区		12	19 12	10	24		
45	209	Ι区	C - 5 - 3	61	31	25	14	W. E []	114	411	II 🗵	G - 3 - 4	20	17	6	24		
46	208	Ι区	C - 5 - 3	23	22	11	14		115	412	IIX	G - 3 - 4	26	20	9	24	-	
47	207	Ι区	C - 5 - 3	59	50	13	14		116	413	IΙ区	G - 3 - 4	26	18	10	24		
48	252	Ι区	B - 6 - 2	32	23	19	9	平口 集川 Ⅰ. Q□	117	414	II 🗵		21	19	7	24		
49 50	142 58	I区	D - 3 - 1 E - 3 - 3	35 23	30 23	23 5	17	粗製土器	118 119	389 417	11区	G - 3 - 3 G - 3 - 3	31	△19 △27	24 12	24		
51	73	Ι区	E - 4 - 1	△42	51	29	5		120	312	II 🗵	F - 4 - 2	22	19	8	26		
52	68	Ι区	E - 5 - 1	53	43	32	18		121	296	Ⅱ区	F - 4 - 2	14	13	10	1		
53	53	Ι区	E - 5 - 3	26	19	8	18		122	298	Ⅱ区	F - 4 - 2	33	24	12	15		
54 55	52 172	I区	E - 6 - 2 A - 1 - 3	25 30	22	10 7	19		123	297	II 🗵	F - 4 - 2	18	17	21	24		
56	171	I区	A - 1 - 3 A - 1 - 3	79	49	17	2		124 125	293 308	11区	F-4-3 $F-4-3$	18 32	18 22	12	24		
57	230	Ι区	A - 2 - 2	37	25	16	16		126	290	IIZ	F - 4 - 3	22	14	- 8	24		
58	170	I区	B - 2 - 1	110	82	37	2		127	289	Ⅱ区	F - 4 - 3	21	17	10	24		
59	176	Ι区	B - 2 - 1	23	17	10	14		128	288	Π区	F - 4 - 3	15	13	7	24		
60 61	169 166	I区	B-1-3 C-2-1	33	25 33	18 19	20		129 130	285 286	11区	F - 4 - 3 F - 4 - 3	17 20	15	19 11	1 14		
62	158	I 🗵		34	30	19	2		131	457	11区	G - 1 - 3	28	17 17	25	14		
63	165	Ι区		85	50	22	2		132	456	IIZ	G - 1 - 3	25	17	25	1		
64	153	I区	C - 3 - 1	57	47	15	2		133	455	Π区	G - 2 - 2	26	22	12	1		
65	155	Ι区	C - 2 - 4	85	50	24	2	der Add 1 ee	134	453	Π区	G - 2 - 2	23	17	15	14		
66 67	251 152	Ι区	C - 2 - 3 C - 3 - 2	30	22 27	22		粗製土器	135	454	II 🗵	G - 2 - 2	20	18	11	14		
68	154	I 🗵	C - 3 - 2 C - 2 - 3	72	50	8	2		136	452	Ⅱ区	G - 2 - 2	21	23	13	14		
50	201	* K7	0 2 0		50	'	- 4											

# 第3節 ピット群

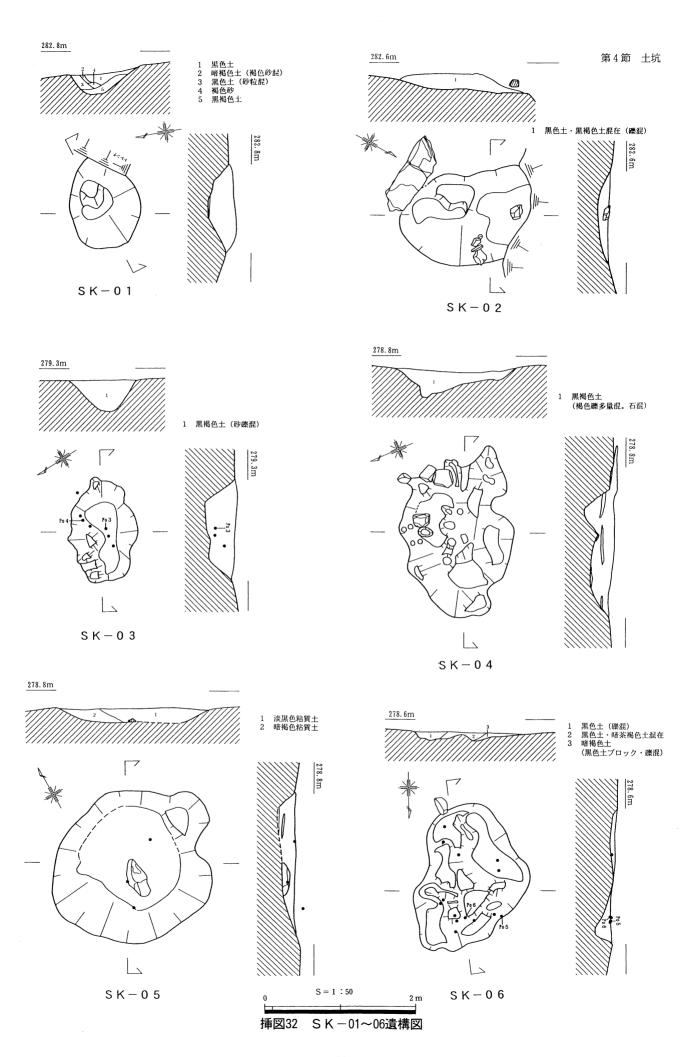
I区の第1遺構面で70基、I区の第1遺構面で6基、第2遺構面で60基、計136基のピットを確認した。このピット群は、壁立式平地住居・梁間1間型平地住居、主柱2本型伏屋式平地住居の柱穴としたピットを除いたもので、仮に全てを単なるピットとしてとらえると、I区第1遺構面では233基、I区第1遺構面で51基、第2遺構面では173基の総数で457基となる。第1遺構面ではI区中央付近に集中し、I区では南東隅を除き全体に散在するが、I~I区の間とI区の南西部では極端に分布密度は希薄になる。第2遺構面ではI区の北東側にピットが集中する傾向にある。

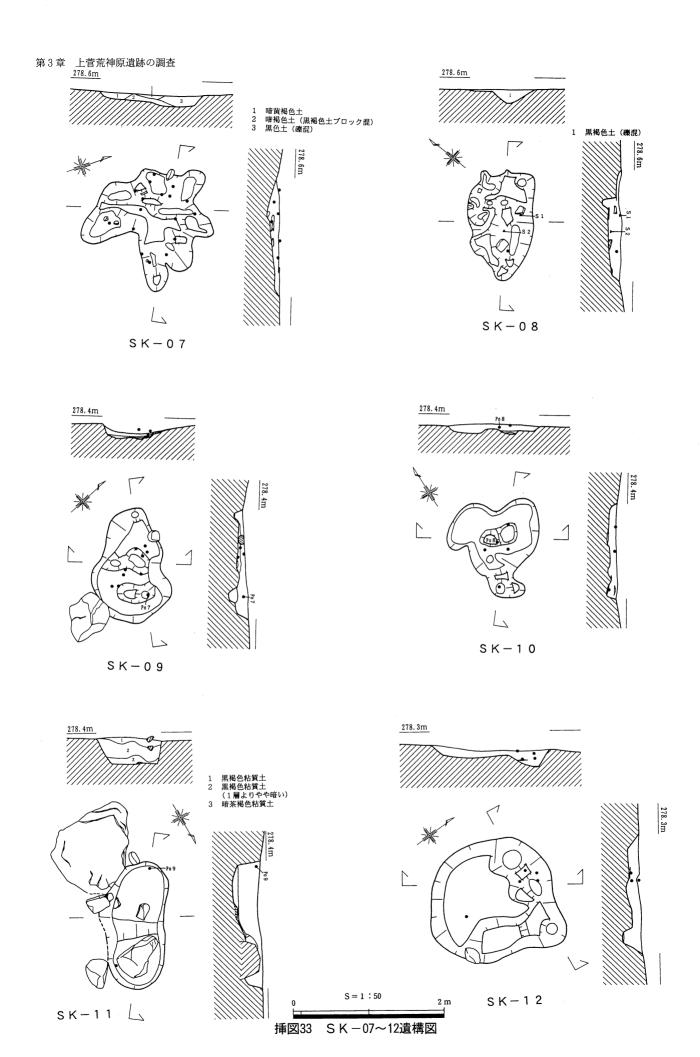
遺物は計9基のピットから粗製土器、鉄滓、黒曜石が出土した。粗製土器は、P3から1点、P25から3点、P31から1点、P35から1点、P44から1点、P49から2点、P66から1点出土した。内外面ともにナデ、粗いナデ、ケズリ状のナデを施す。外面に煤痕が顕著にみられるものもあった。P21からは鉄滓1点が立ち上がりの際で出土した。付近は耕作土除去後に第1・第2遺構面が同一面で確認されており、黒色土包含層からは近世の陶磁器片も出土していることから、P21は近世のものと考えられる。黒曜石剥片は、P41・P44から各1点出土した。遺物の時期は縄文時代晩期~弥生時代前期を中心としている。黒曜石剥片が出土しているが時期は不明である。遺構の時期についても、遺物からみる限り住居跡と同時期のものと考えられる。これらのピットには建物の一部でありながら復元できなかったものや、他の目的をもっていたものが含まれると推測する。

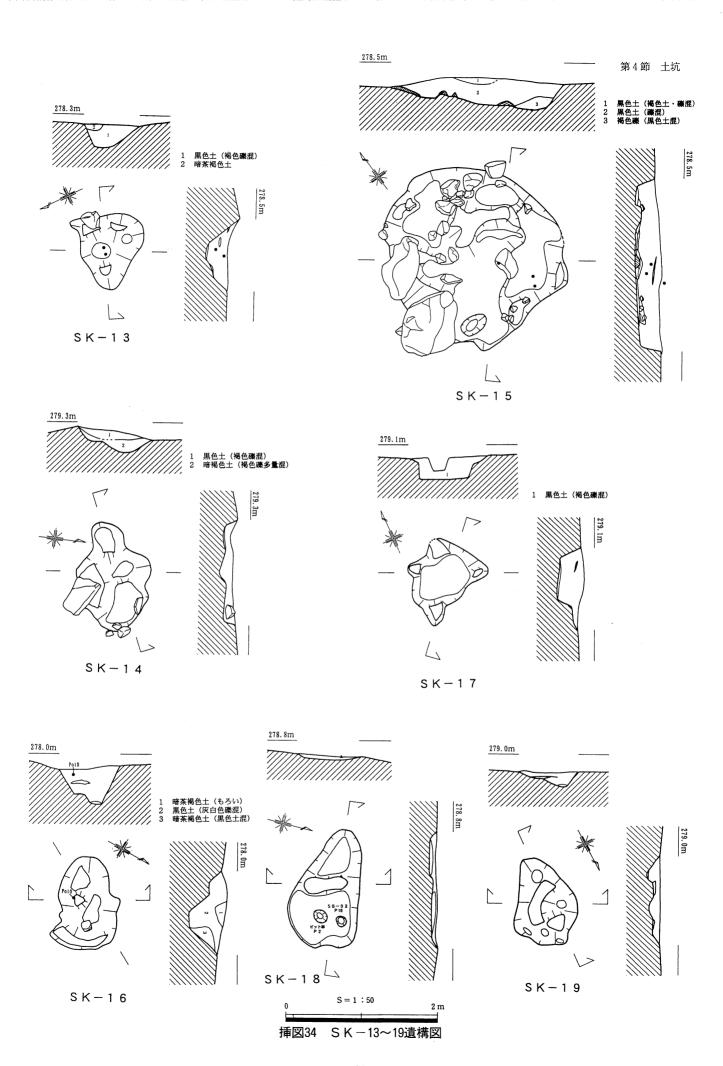
# 第4節 土坑

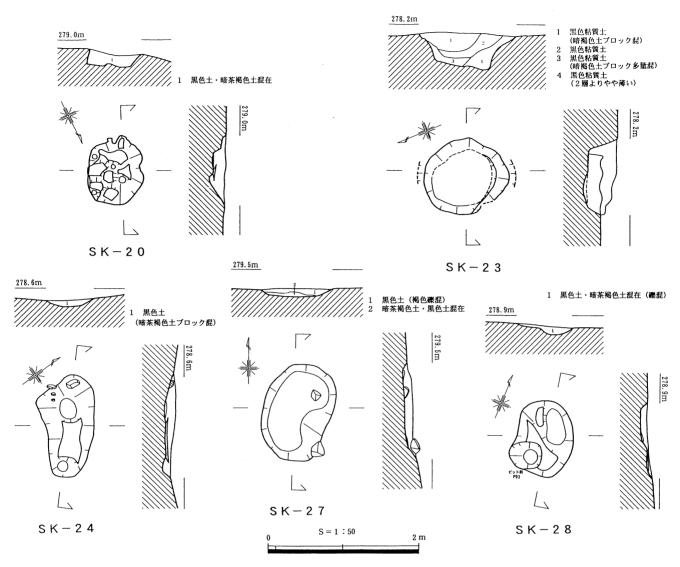
挿表22 土坑・落し穴一覧表

土坑番号	区名	検出面	グリッド名	標高(m)	形態	長軸×短軸-深さ (cm)	出 土 遺 物	時期•備考
SK-01	IΙ区	1面	H - 3 - 2	282.5~282.6	不整な円形	124× 96- 38		
SK-02	Ⅱ区	1面	I - 2 - 1	282.2~282.4	不整な楕円形	△171×120− 28		
SK-03	Ι⊠	1面	E - 5 - 4	279.1	不整な楕円形	140× 95- 46	Po3里木2式・Po4馬取式併行、 里木2式5点	縄文中期 後半
SK-04	Ι区	1面	D - 4 - 1	278.6	不整な楕円形	212×143- 48		
SK-05	I⊠	1面	D - 3 - 3	278.5~278.6	不整な円形	242×197- 24	粗製土器 3 点	縄文晩期~ 弥生前期
SK-06	Ι区	1面	D - 3 - 1	278.4~278.5	不整な楕円形	205×139- 31	Po 5 繊維土器、Po 6 突帯文深鉢、 粗製土器19点	縄文晩期~ 弥生前期
SK-07	Ι区	1面	D - 3 - 1	278.4~278.5	不整な形態	163×152- 21	弥生前期壺、粗製土器19点	弥生前期
SK-08	Ι区	1面	·D - 3 - 1	278.4	不整な楕円形	147× 85- 28	粗製土器5点、S1磨製石斧、 S2石錘	縄文晩期~ 弥生前期
SK-09	Ι区	1面	C - 3 - 3	278.2~278.3	不整な楕円形	155×106- 28	Po 7 弥生前期壺、粗製土器10点	弥生前期
SK-10	Ι区	1面	C - 3 - 3	278.2~278.3	不整な形態	123×118- 14	Po8底部、突带文深鉢、 粗製土器3点	縄文晩期~ 弥生前期
SK-11	Ι区	1面	B - 3 - 4	278.3	不整な楕円形	170× 87- 39	Po9繊維土器、繊維土器	縄文早期か
SK-12	Ι区	1面	C - 3 - 1	278.0~278.1	不整な円形	177×154- 34	突帯文深鉢、粗製土器 5 点	縄文晩期~ 弥生前期
SK-13	Ι区	1面	C - 3 - 1	277.9~278.2	不整な円形	101× 85- 37	粗製土器、弥生前期壺	弥生前期
SK-14	Ι区	1面	B - 3 - 1	279.1~279.2	不整な楕円形	140× 99- 27		
SK-15	Ι区	1面	D-4-1	278.1~278.2	不整な円形	253×223- 43	粗製土器 4 点、弥生中期甕□縁部、 弥生中期13点	弥生中期
SK-16	Ι区	1面	C - 2 - 2	277.7~277.8	不整な楕円形	125× 67- 49	Po10突帯文深鉢、粗製土器 3 点	縄文晩期~ 弥生前期
SK-17	Ι区	1面	C - 6 - 2	278.9~279.0	不整な方形	96× 72- 39		
SK-18	Ι区	1面	C - 4 - 2	278.6	不整な楕円形	162× 95- 13	粗製土器 3 点	縄文晩期~ 弥生前期
SK-19	Ι区	1面	D - 4 - 3	278.8	不整な楕円形	124× 89- 20		
SK-20	ΙZ	1面	D - 5 - 1	278.8~278.9	不整な円形	93× 73 31		
SK-21	Ι区	2面	D - 3 - 1	277.8	円形	$130 \times 120 - 102$		落し穴
SK-22	Ι区	2 面	E - 2 - 2	277.9	円形状	100× 94- 90		落し穴
SK-23	Ι区	2 面	E - 2 - 4	278.1	楕円形	114× 97- 49		
SK-24	Ι区	2面	E - 5 - 2	279.4~279.5	不整な楕円形	136× 78- 18		
SK-25	Ⅱ区	2面	F - 2 - 2	278.6	円形状	98× 91- 62		落し穴
SK-26	Ⅱ区	2面	F - 2 - 2	278.4	円形状	106× 92-108		落し穴
SK-27	Ⅱ区	2面	G - 2 - 4	279.2~279.3	不整な楕円形	129× 91- 19		
SK-28	Ⅱ区	2面	G - 3 - 1	278.7~278.8	不整な楕円形	101× 75- 16		





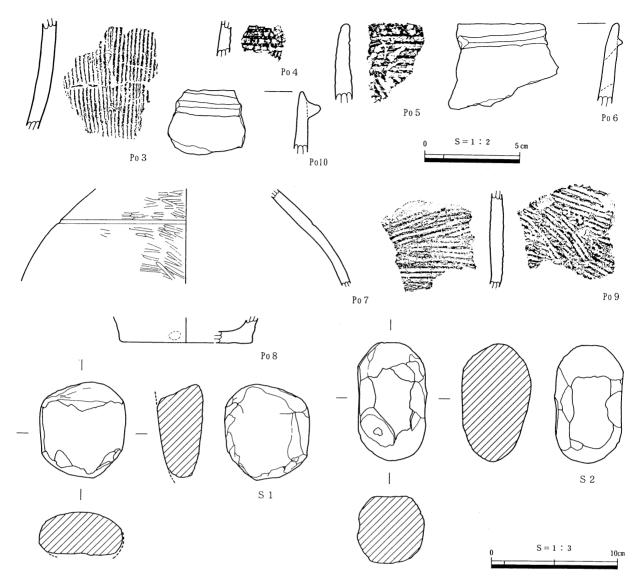




插図35 SK-20・23・24・27・28遺構図

### 挿表23 土坑出土土器観察表

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 3 36 3	SK-03	縄文中期 深鉢	① △ 5.8	1段Lの撚糸文を約3mm間隔に施す。	横方向のナデ。	褐灰色 10YR6/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	密・良好	1254	里木2式	清水-107
Po 4 36 3	SK-03	縄文後期 深鉢	① △ 1.8	凹線文系。3条以上の凹線とわず かに刻み部が残る。	丁寧な横方向のミガ キ。	灰黄色 10YR6/2~ 褐灰色5/1	灰黄色 10YR6/2~ 褐灰色5/1	密•良好	1230	馬取式併 行か	清水-185
Po 5 36 3	SK-06	縄文早期 深鉢	① △ 4.0	横方向の粗い条痕地に貝殻腹縁に よる縦方向の爪形文風の施文、口 縁端部は幅広の刻み目状に施文。	横方向の粗い条痕。 口縁端部はナデる。	浅黄色2.5Y	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(繊維はそれほど多くはない)・良好	1394	繊維土器 〜前期初 頭か。	清水-85
Po 6 36 3	SK-06	突帯文 深鉢	① △ 4.2	口縁部は外傾し丸い。三角形の小 さな無刻み目突帯をもつ。以下横 方向の粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下斜め方向の 粗いナデ。	浅黄色 2.5Y8/3	浅黄色 2.5Y8/3	密(1~3mmの 石英・5mm大 の礫有)・良	1397	II - B類 胎土分析 No.27	清水-54
Po 7 36 3	SK-09 C-3-3 C-4-1	弥生前期 壺	① △ 7.5	横方向のミガキ。肩部に1条の横 方向の沈線を施すが、つながらな い。	剥落が著しい。ナデ か。	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR7/8	密(1 mm大の 砂粒を多く含 む)・良好	1449 684 969	遠賀川系 胎土分析 No.37	清水-186
Po 8 36 3	SK-10	底部	① △ 2.0	底面および立ち上がり付近ナデ。 指頭圧痕。	立ち上がり付近に指 頭圧痕。	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	やや粗(2~3 mmの石英を多 く含む)・良	1452		清水-10
Po 9 36 3	SK-11 B-3-1	縄文早期 深鉢	① △ 7.4	横・斜め方向、やや斜格子状に条 痕がある。底に近いか。	横方向の条痕。	浅黄色 2.5Y7/4	橙色 5YR7/6	密(繊維はや や多い)・良 好	1464 1147	繊維土器	清水-164
Po 10 36 3	SK-16	突帯文 深鉢	① △ 3.2	口縁部は直立し丸い。端部付近に 三角形の大きな無刻み目突帯をも つ。以下比較的丁寧な横方向のナ デ。	比較的丁寧な横方向 のナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	密・良好	1606	II - D類 胎土分析 No.25	清水-59



挿図36 土坑出土遺物実測図

挿表24 土坑出土石器観察表

遺	物番号	挿図 番号	図版 番号	遺構名	種類	Ä		:m)			形態上の特徴	重 量	石 材	取上No.	実測者No.
5	5 1	36	3	SK-08	磨製石斧	⑤△7.6	6	6.8	7	3.7	刃部と基部を欠損する太型蛤刃石斧か。	△280 g	閃緑岩	1620	清水-120
5	5 2	36	3	SK-08	石錘	5 9.4	6	5.3	7	5.4	楕円形の礫に溝を打ち欠いている有溝石錘。	410 g	石英斑岩 球顆ができている	1621	清水-184

計28基の土坑を検出した。落し穴のように性格の明らかなものもあるが、ほとんどが性格不明である。中には木の痕跡の可能性のあるものもみられるが、明らかに風倒木痕であるものは除いている。

出土遺物から時期を考えると、SK-11からはPo9が出土しており、もう1点の土器も繊維土器とみられ、縄文時代早期の土坑の可能性がある。SK-03からは里木2式がPo3と底面付近からを合わせて6点と馬取式 Po4も出土しているがPo4はかなり浮いた状態で出土しているため、SK-03は中期後半の土坑と考えられる。SK-06のPo6とSK-16のPo10は突帯文土器、SK-09のPo7と図化していないがSK-07から頸部に突帯と楕円形の連続する抉りをもつ遠賀川系の壺の頸部、SK-09から段の下側が低まる肩部が出土している。いずれも良好な出土状況ではなく、突帯文土器あるいは粗製土器と遠賀川系土器の共伴関係は不明である。その他、SK-15から弥生時代中期の甕の口縁部が出土している。その他粗製土器が出土しているが時期は不明で、層位的にみてもSK-23・24を除き付近の住居跡やピット群と大きな時期差はないものと考えられる。

# 第5節 落し穴

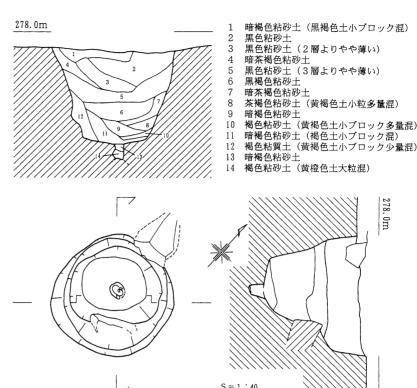
#### SK-21(挿図37 図版2)

D-3グリッドの西側に位置する遺構。 第2遺構面の標高277.80m付近から検出し た。上面を検出中に若干削平した可能性が 強く、元来はもう少し上部から掘り込まれ ていたと推測される。平面形は検出面・底 面形ともに円形を呈し、断面形は逆台形状 である。規模は検出面で長軸1.30m×短軸 1.20m、底面で長軸0.68m×短軸0.58m、 残存する部分での底面までの最大の深さは 1.02mを測る。底面の中央部分からピット を検出した。平面形は楕円形で、規模は長 軸0.20m×短軸0.15m、深さは最大で0.17 mを測る。本遺構は形態から落し穴と考え られるものであるが、土坑掘削中に南側か ら大きな礫が出土したためそれ以上掘り下 げることができず、北側に偏って掘削を継 続している。また、底面ピットも下に礫が 存在したため、そこで掘削を中止している。 埋土は土坑部分が12層、ピット部分が2層 に分層出来た。いずれも黒色系の埋土であ る。自然流入による堆積と推測される。

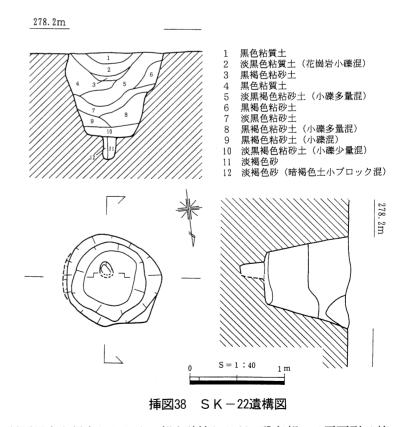
埋土中から小礫が若干出土したが、明確 な遺物の出土はない。そのため時期を特定 することは出来ないが、上部に存在する包 含層との関連から縄文時代晩期終末の突帯 文土器期には下限が押さえられる。

#### SK-22 (挿図38)

E-2グリッドの南西側に位置する遺構。第2遺構面の標高277.90m付近から検出した。畑地造成に伴って削平を受けており、元来はより上方から掘り込まれていたと推測される。平面形は検出面・底面形ともに円形状を呈し、断面形は逆台形状である。規模は検出面で長軸1.00m×短軸0.94m、底面で長軸0.59m×短軸0.55m、残存する部分での底面までの最大の深さは0.90mを



插図37 SK-21遺構図



測る。底面の南寄りからピットを検出した。断面調査を優先したため一部を破壊したが、残存部では平面形は楕円形状で、規模は長軸0.16m以上×短軸0.14m、深さは最大で0.26mを測る。本遺構は形態から落し穴と考えら

れるものである。埋土は土坑部分が10層、ピット部分が2層に分層出来た。このうちの第11層は底面ピットに設置された杭痕を示すものと推測される。自然流入による堆積と考えられる。

埋土中から明確な遺物の出土はない。そのため時期を特定することは出来ないが、上部に存在する包含層との 関連から縄文時代晩期終末の突帯文土器期には下限が押さえられる。

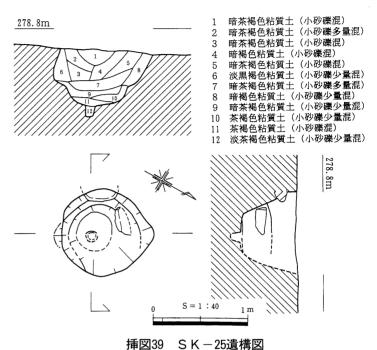
#### SK-25 (挿図39)

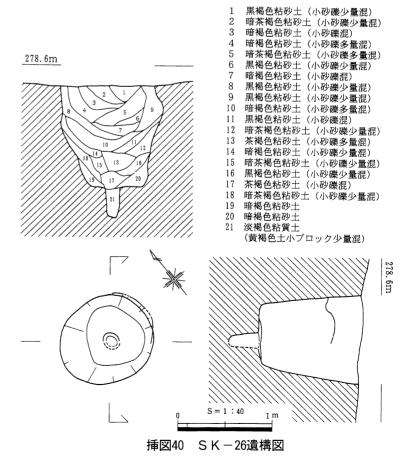
G-2グリッドの南西側に位置する遺構。第2 遺構面の標高278.60m付近から検出した。平面形は検出面・底面形ともに円形状を呈し、断面形はいびつな半円形状である。規模は検出面で長軸0.98m×短軸0.91m、底面で長軸約0.41m×短軸0.39m、残存する部分での底面までの最大の深さは0.62mを測る。底面の中央部分からピットを検出した。断面調査を優先したため一部を破壊したが、残存部から判断すると平面形は円形ないし楕円形状で、規模は長軸0.11m以上×短軸0.04m以上、深さは最大で0.12mを測る。本遺構は形態から落し穴と考えられるものである。埋土は土坑部分が11層、ピット部分が1層に分層出来た。埋土は茶色系統の色調を帯びた土が中心であった。自然流入による堆積と推測される。

埋土中から明確な遺物の出土はない。そのため時期を特定することは出来ないが、 上部に存在する包含層との関連から縄文時 代晩期終末の突帯文土器期には下限が押さ えられる。

### SK-26(挿図40 図版2)

F-2グリッドの中央付近に位置する遺構。第2遺構面の標高278.40m付近から検出した。平面形は検出面・底面形ともに円形状を呈し、断面形は逆台形状である。規模は検出面で長軸1.06m×短軸0.92m、底面で長軸0.67m×短軸0.64m、残存する部分での底面までの最大の深さは1.08mを測る。底面の中央部分からピットを検出した。断面調査を優先したため一部を破壊したが、残存部から判断すると平面形は円形ないし楕円形状で、規模は長軸0.17m×短軸0.10m以上、深さは最大で0.32mを測る。本遺構は形態から落し穴と考えられるものである。埋土は土坑部分が20層、ピット部分が





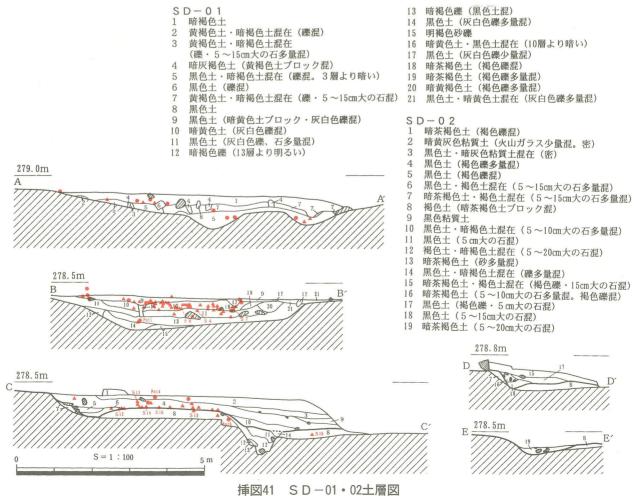
1層に分層出来た。埋土は暗茶色系統の色調を帯びた土が中心であった。自然流入による堆積と推測される。 埋土中から明確な遺物の出土はない。そのため時期を特定することは出来ないが、上部に存在する包含層との 関連から縄文時代晩期終末の突帯文土器期には下限が押さえられる。

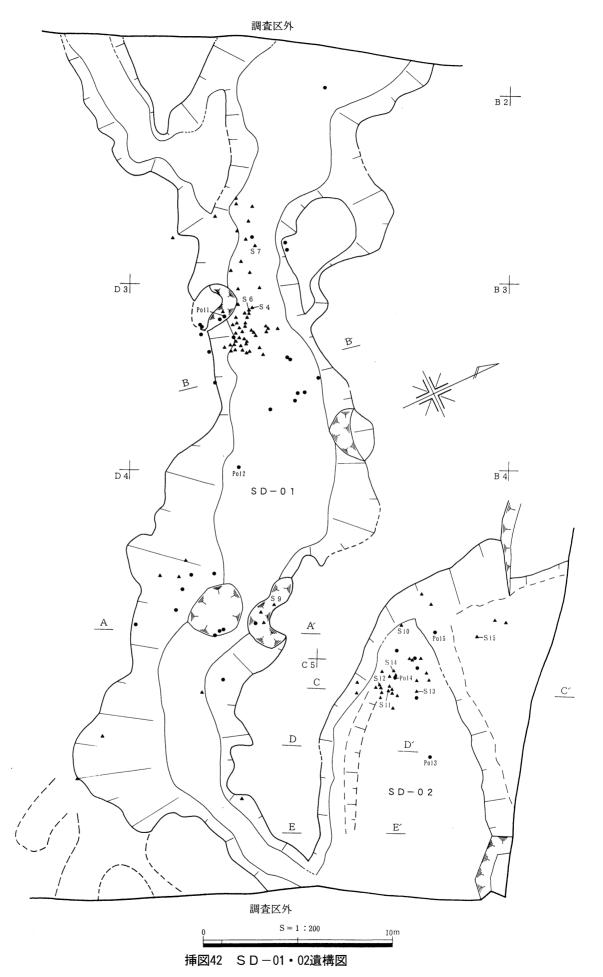
# 第6節 溝状遺構

#### SD-01 (挿図41~43 挿表25·26 図版2·3)

I区第2遺構面、B~D-1~6グリッドにかけて位置する。暗茶褐色土包含層の下で検出した。調査区を東西方向に横断し調査区外に続いている。東壁付近では4条の小流路が合流するが、西壁付近で再び2条の流路に分流する。一部東端でSD-02と重なるが、切り合い関係は確認できていない。規模は全長約46.6m以上、幅は最も狭いB-B′付近で5.3m、最も広い調査区西壁付近で約19.7mを測る。底面の標高は東壁付近で278.4m、西壁付近では276.7mを測り、約1.7mの高低差をもって東から西方向に下る。走向は中央付近でN-61°-Wを測る。埋土は21層に分層できた。A-A′をみると、黒色土と暗褐色土の混じりの層が底面付近にみられる。B-B′では第14層の黒色土があるが、これは一時流れの幅が狭くなったものとみられる。他はレンズ状の堆積で、この流路はある程度の時間をかけて堆積したものと考えられる。

遺物はPo11・12、S  $3\sim9$  が出土した。Po11は風倒木痕による攪乱層中にあり、Po12は底面から約30cm浮いているため時期判断の資料としては不十分であるが、いずれも貝殻腹縁による施文をもち、Po11は繊維を含む繊維土器、Po12は繊維は含まず口縁端部を肥厚させる羽島下層式に類似している。これらの土器は繊維土器から羽島下層式にかけて、縄文時代早期末から前期初頭頃のものと考えられる。石器はS  $3\sim5$  が黒曜石石鏃、S 6 は石核、S 7 は敲石、S  $8 \cdot 9$  は凹石である。黒曜石の多くはC -3 グリッド中央西側付近、B - B'より下流で集中している。産地同定の結果、S  $3 \cdot 4 \cdot 6$  が隠岐島久見産であった。





#### 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

黒曜石は掘り下げ中一括も含め74点出土した。この中には石核 2 点、母岩からの剥片が 4 点確認できた。主剥離面が縦方向のものと横方向のものはほぼ同じくらいであるが、1 cm角に満たない小剥片も15点ある。剥片の形態は三角形よりも四角形がやや多いが、縦長の剥片も8点ほどみられた。石の質は良いものが多くみられた。いずれもSD-01の底面からは浮いており流れ込みとも考えられるが、層位的にほぼ一定しており、SD-01が堆積しているある段階に付近で石器製作が行われていたものと推測したい。

土器は掘り下げ中一括出土も加えると繊維土器が25点出土した。縄文を施すものは、表裏縄文が7点、表が縄文で裏が条痕のもの3点、裏が不明のもの2点であった。縄文は2段RL縄文を主な原体とし、暗茶褐色土包含層出土のPo16~26に類似するものが多いが、中には胎土が異なり乱雑に縄文を施すものもみられた。条痕を施すものは、表裏条痕が6点、表が条痕で裏は条痕後ナデのもの4点、表裏ともに条痕後ナデのもの3点でいずれも横方向の条痕が主体であった。また繊維が確認できないものが6点あり、調整は表がナデまたは条痕後ナデ、裏がナデを主体としていた。器壁の非常に薄いものも2点みられた。それ以外に里木2式1点、弥生時代前期の体部1点が出土したがいずれも風倒木痕からで、この風倒木痕は弥生時代以降と考えられる。遺物の時期は全体

#### 插表25 SD-01土器観察表

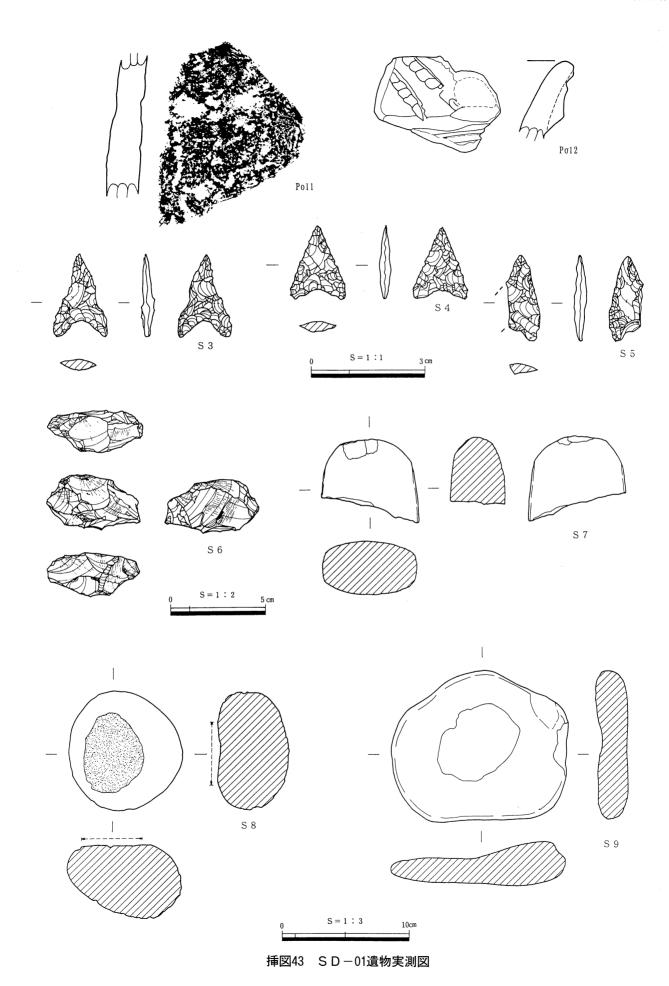
遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法量(㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 11 43 3	SD-01	縄文早期 深鉢	① △ 3.7	横方向の条痕地に貝殻腹縁による 縦方向の爪形文風の施文をする。	横方向の条痕。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	密(繊維は比 較的多い)・ 良	2163	繊維土器 〜前期初 頭か	清水-188
Po 12 43 3	SD-01	縄文前期 深鉢	① △ 2.0	口縁端部やや下がった位置を肥厚 させ、端部付近に貝殻腹縁による 斜め方向の施文をする。突帯の下 は横方向の条痕か。	横方向の条痕後ナデ。	灰褐色 5YR4/2	明赤褐色 5YR5/6	密(2 mm大の 石英を含む。 繊維は確認で きず)・良	2150	前期初頭か	清水-168

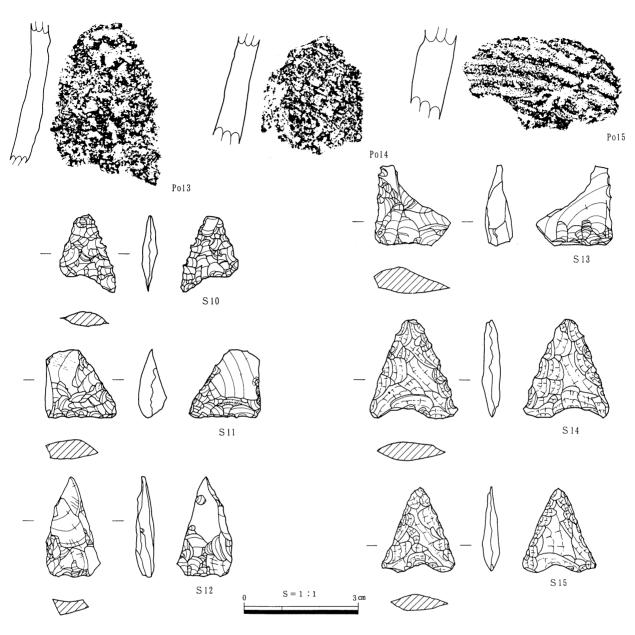
#### 挿表26 SD-01石器観察表

遺物番	<b>挿図</b>	図版番号	遺構名	種類	沒	(cm)	量	形 態 上 の 特 徴	重 量	石材	取上No.	実測者No.
S 3	43	3	SD-01	石鏃	(5) 2.2	<b>6</b> 1.4	⑦ 0.3	抉り長 2 mm/全長22mmで、抉りの深度は0.18、接点間は13mmである。断面はレンズ状で、調整は中央部までおよぶものの内外面ともに非連続の細部調整を施す。	0.5 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No.8	2091	大角-86
S 4	43	3	SD-01	石鏃	(5) 2.0	<b>⑥</b> 1.5	⑦ 0.3	抉り長 2 mm/全長20mmで、抉りの深度は0.10、接点間は13mmである。断面はレンズ状で、調整は中央部までおよび、内外面ともにほぼ連続する細部調整を施す。	0.6 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No.9	2115	大角-85
S 5	43	3	SD-01	石鏃未製品 か	⑤△2.3	⑥△0.9	⑦△0.3	左面は深度の深い非連続の調整、右面は一部連 続する細部調整を施すが、他は粗い調整である。	△ 0.6 g	黒曜石	2090	大角-87
S 6	3 43	3	SD-01	石核	5 4.9	<b>6</b> 2.9	⑦ 2.3	断面はやや長い三角形で、剥離軸は不規則である。	26.4 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No.10	2117	西川 6
S 7	43	3	SD-01	敲石	⑤△5.3	⑥ 7.7	⑦ 4.3	先端部に敲きによる窪みあり。	△250 g	石英閃緑岩	2168	清水-170
S 8	43	3	SD-01	凹石	⑤ 9.5	6 9.0	<b>7</b> 5.9	1ヶ所がわずかに窪み、磨滅する。	620 g	花崗岩	2193	清水-169
S 9	43	3	SD-01	凹石	<b>⑤</b> 11.9	<b>6</b> 13.8	⑦ 3.4	扁平な礫の中央部が窪む。	760 g	細粒花崗岩	2184	清水-116

#### 挿表27 SD-02土器観察表

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土•焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 13 44 3	SD-02	縄文早期 深鉢	① △ 3.3	山形の押形を横方向に施す。剥落 が著しいが3段程度は確認できる。 文様の下は条痕か。	横方向の条痕。	褐色 7.5YR4/3	褐色 7.5YR4/3	密・良	2196	黄島式直 前か	清水-189
Po 14 44 3	SD-02	縄文早期深鉢	① △ 2.8	繊維痕およびわずかに縄文の痕か。	ナデか。	暗褐色 10YR3/3	暗褐色 10YR3/3	密(1~3 mm の砂粒・繊維 をやや含む)・ 良	2206	繊維土器	清水-190
Po 15 44 3	SD-02	縄文早期深鉢	① △ 2.3	横方向の粗い条痕。底付近か。	横方向の粗い条痕。	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい <b>褐色</b> 7.5YR5/3	密(繊維をや や含む)・良	2220	繊維土器 菱根式か	清水-191





挿図44 SD−02遺物実測図

### 挿表28 SD-02石器観察表

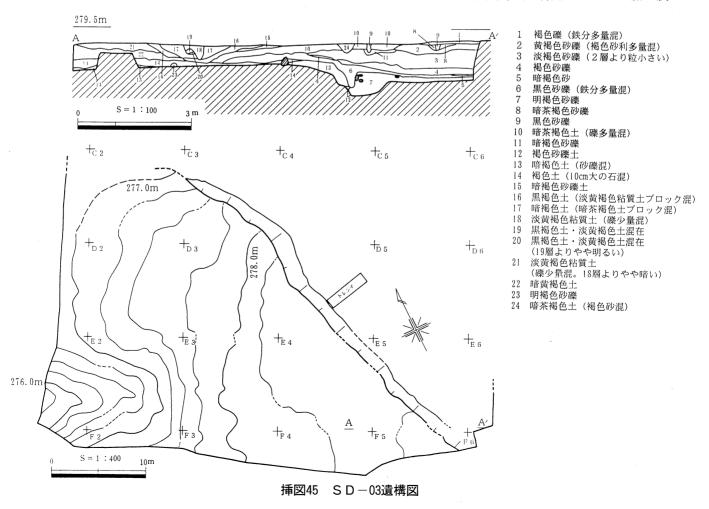
遺物番号	挿図 番号	図版 番号	遺構名	種 類	Ä	(cm)	量	形態上の特徴	重 量	石	材	取上No.	実測者No.
S 10	44	3	SD-02	石鏃	⑤△2.0	⑥△1.4	⑦ 0.4	抉り長4mm/全長20mm以上で、先端部が欠損しているが抉りの深度は比較的大きい。断面はレンス状で、調整は中央部後縁辺部に内外面ともにほぼ連続する細部調整を施す。調整が深いために一部鋸状となる。	△ 0.8 g	黒曜石		2219	大角-83
S 11	44	3	SD-02	石鏃未製品 か	⑤△2.8	⑥△1.9	⑦△0.7	断面は非常に厚い。左面は中央部までおよぶ連続する細部調整を行うが、右面は大剥離面先端 部付近をわずかに加工したに留まる。	△ 2.1 g	黒曜石		2204	西川10
S 12	44	3	SD-02	加工片	⑤△3.7	⑥△1.5	⑦△0.4	わずかに左の下側に二次加工の痕か。製品とは ならない。	△ 1.4 g	黒曜石		2199	大角-88
S 13	44	3	SD-02	加工片	⑤△2.1	⑥△2.0	⑦△0.7	断面は厚い。左面は中央からの調整を一部施す。 先端部付近にも調整痕。右面は一部に調整痕。 あるいは刃つぶしか。	△ 2.2 g	黒曜石		2216	大角-89
S 14	44	3	SD-02	石鏃	⑤ 2.6	⑥ 2.3	⑦ 0.5	抉り長 2 mm/全長26mmで、抉りの深度は0.08、接点間は14mmである。断面はレンズ状で、調整は中央部から縁辺部に向かい大剥離後非連続一部連続する細部調整を施す。	3.7 g	安山岩		2208	西川11
S 15	44	3	SD-02	石鏃	(5) 2.2	<b>6</b> 1.9	⑦ 0.4	抉り長 2 mm/全長22mmで、抉りの深度は0.09、接点間は10mmである。断面はレンズ状で、調整は丁寧で縁辺部には連続する細部調整を施す。	1.3 g	安山岩		2223	西川12

的に混入も少なく時期幅も狭い。遺構の時期は遺構の埋土上層からではあるが繊維土器Po11と前期初頭の土器 Po12が出土していることから、下限は縄文時代早期末~前期初頭と考えられる。

#### SD-02 (挿図41・44 挿表27・28 図版2・3)

I 区第 2 遺構面、 $A \sim C - 4 \sim 6$  グリッドにかけて位置する。暗茶褐色土包含層の下面で検出した。調査区の西方向から屈曲して北方向に向かい調査区外に続いている。北側はテラス状になり、さらに調査区際付近で一段下がる。流路の屈曲部の西側は周囲よりも標高が高く大きな花崗岩の岩石が多くみられ、流路はこれを避けるように北側に向きを変えたとみられる。またテラス部はある程度流れが止まる状況のために形成されたものと考えたい。規模は全長19.3m以上、幅10.8m以上で、底面の標高は西壁付近で278.3m、屈曲部付近では277.4mで約0.9mの高低差をもち南東から北西方向に向けて傾斜する。走向は概ね東側では $N-57^\circ-W$ から屈曲して $N-8^\circ-E$ に向きを変える。埋土は19層に分層できた。C-C'をみると、西端付近に第 5 • 6 層があり、D-D'、E-E'の断面でもみられることから、SD-01と同様、流れの幅が一時狭くなったことが想定できる。他は緩やかに北に下がる堆積で、特に第 2 層は暗黄色のきめの細かな層で火山灰に類似していた。岡山理科大学の白石純氏に観察していただいたところ、火山ガラスが含まれているがその量は少なく、層位的にも二次堆積の可能性が高いとの教示を受けた。また北側の一段下がった際付近が黒く溝状に検出できたために掘り下げたが、この層は三日月状にSD-02の底面よりさらに下に続いているため、北側に中心をもつ自然流路の南肩部と判断した。

遺物はPo13~15、S10~15が出土した。Po13はほぼ底面上、Po14は底から20cm以上浮いた状態で出土した。Po13は山形の押型文土器で黄島式の直前と考えられる。Po14・15は繊維土器で、Po14は表が乱雑で浅い縄文の痕跡、裏面はナデ、Po15は表裏条痕で器壁が厚く底部付近とみられる。Po13は縄文時代早期中葉頃、Po14・15は繊維土器で縄文時代早期末頃と考えられる。S10は黒曜石石鏃、S11~13が使用方法は特定できないが加工痕



をもつ剥片でいずれも黒曜石、S14・15は安山岩製の石鏃であった。安山岩の産地は特定できなかった。

黒曜石は掘り下げ中一括も含め55点が出土した。石核はみられなかったが母岩からの剥片が3点確認できた。石の質が悪く厚い剥片が目立ち、約30点は1 cmに満たない小剥片である。これらの剥片はほとんどが北西側の屈曲部付近からの出土で、SD-01と同様埋土上層から出土しており、SD-02が堆積しているある段階に付近で石器を製作していたと考えたい。

土器はPo13は底面上、Po14・15は第2層中でいずれも浮いた状態で出土した。その他5点出土しているが、1点は1段Lの乱雑な撚糸文で里木2式か。他4点は小片のため判断しにくいが内外面ともにナデを基本としており繊維は確認していない。いずれも第2層中付近からの出土である。遺構の時期は底面付近から押型文土器Po13が出土していることから、縄文時代早期中葉頃と考えられる。

#### SD-03 (挿図45)

I 区の南東付近では、第1遺構面と第2遺構面が同一面で検出されたが、その下から溝状遺構SD-03を確認した。F-6 グリッドからC-3 グリッドに向かい、西側の肩を検出したが東側の肩は確認することができていない。掘り下げた範囲では幅9 m以上、長さは40.8m以上で、北端は自然流路SD-01の底よりもさらに低い位置で終わる。走向は概ね $N-20^\circ-W$ を測るが、北端付近でやや西に向かうようである。溝の断面は、A-A'を

みると第  $2 \sim 7$  層まで砂を含む層が堆積し、中でも第 5 層は粒子の均一な砂で、その下に鉄分を多く含む第 6 層が堆積している。ただし第 5 層の上には粗い礫が堆積しており、一般的な堆積とは逆の様相を呈している。鳥取大学名誉教授の赤木三郎氏から、このような状況は逆グレーディング現象と呼ばれ、土石流や洪水時に典型的にみられる堆積との教示をいただいた。遺構の上流部は山の際に続いているとみられ、この付近の土砂を押し流したために起こったものと推察する。遺構の底についてであるが、第 7 層から下には明褐色砂礫の層が続いており、トレンチで確認したところ、底面から少なくとも 1.05 m 下まで明褐色の砂礫層が続いていた。その他、第  $15\sim 21$  層にかけて落ち込みがみられた。

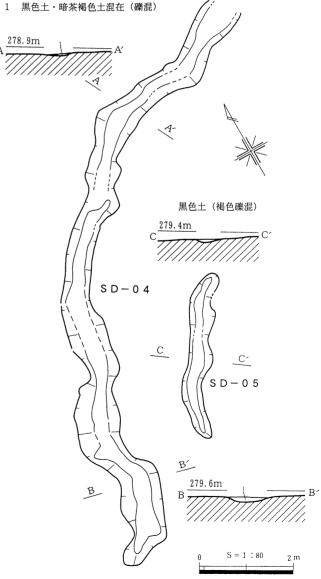
遺物は出土していない。層位的にはSD-01を遡るとみられることから下限は縄文時代早期末と考えられる。

#### SD-04 (挿図46)

II区第 2 遺構面、F-3 グリッドからG-3 グリッドにかけて西側に曲る弧状に検出できた。走向は概ねN-9° $\sim$ 68°-Eを測る。規模は全長12m以上、幅は最大で0.87m、残存する深さは最大で約10cmである。埋土は黒色土と暗茶褐色土が混じる単層である。遺物は出土していない。

#### SD-05 (挿図46)

II 区第 2 遺構面、G-3 グリッド中央付近で西側に曲る弧状に検出できた。走向は概ね $N-20^{\circ}\sim45^{\circ}-E$  を測る。規模は全長3.6m、幅は最大で0.6m、残存する深さは最大で6.2cmと浅い。埋土は黒色土の単層であった。遺物は出土していない。



插図46 SD-04・05遺構図

	B2				В3			В4			В5				C1	C2				С3				C4				C5			
	-1	-2	-3	-4	-2	-3	-4	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4
縄文早期										1			22	3						1			23	2	2	13		2	10		1
縄文前期					1			Ì																							
縄文中期				1						9	9	4	2	1						ĺ			1			3			3	1	
縄文後期										1																					
縄文晩期																ĺ												İ			
突 帯 文							1														1						1				
精製土器										1						ĺ				İ							_				1
粗製土器	1		1	5	1	6	1	2	4	13	5	11	3		2	1			3	9	13	1	22	14	6	13	2	3		1	4
弥生前期		1				1				1					1		1			1	1			1	2		2			-	•
弥生中期	1					2				6											1			-	-	2	-	1	3		
陶磁器															1													_	ŭ		
黒曜石		2	1					1	5	7	3	10				10	2	10	9	7	3				3	10	2	10	23	5	4
安山岩	1														1						1			1		1	ĺ		2		
石 製 品										1		1														1					

#### 挿表29 暗茶褐色土包含層出土遺物一覧表

	D3			D4		D5			合 計	dai V
	-1	-2	-4	-1	-4	-1	-2	-4	台刊	割合
縄文早期						1			81	26.2%
縄文前期									1	0.3%
縄文中期						1			35	11.3%
縄文後期									1	0.3%
縄文晩期										0.0%
突 帯 文									3	1.0%
精製土器									2	0.6%
粗製土器	4	1	2	1	2			1	158	51.2%
弥生前期									11	3.6%
弥生中期									16	5.2%
_陶磁器									1	0.3%
									309	100.0%
黒曜石				1	1	17	1	12	159	
安 山 岩									8	
石 製 品									3	
									170	-

# 第7節 暗茶褐色土包含層

黒色土包含層の除去後に暗茶褐色土包含層を検出した。この層には縄文時代早期から弥生時代中期までの遺物を包含している。SD-01が埋没する過程で形成された中央部分の低まりを覆うように西側から張り出しており、厚いところでも30cm程度である。この層を境にして上面は第1遺構面、下面は第2遺構面で、第2遺構面はSD-01・02の上層にあたる。

縄文時代早期末の土器はPo16~28の繊維土器で、

Po16~26の表裏縄文土器、Po27の表のみ条痕を施すもの、Po28の表裏条痕に分けられる。このうち表裏縄文は、島根県大社町の菱根遺跡に類例があるため菱根式としている。Po16は外傾する口縁部である。繊維土器はB-5-3・C-3-4・C-4-3・C-5-2グリッドからはそれぞれある程度まとまった状況で出土した。表裏縄文の中には内面ナデのものも認められたが、全面に縄文が隙間無く施されているのではなく部分的に消えているまたは消されている部分もあると考えている。条痕をもつものはPo27のように器壁の厚いものとPo28のように薄いものがある。口縁部は図化していないが表裏縄文と同様外傾してそのままおわる。縄文と条痕の組み合わせは確認していない。繊維の量には若干差が認められ、概して条痕をもつものは器壁に厚薄があり繊維量にも個体差が目立つが、表裏縄文土器は同一個体とみられるためか繊維の量はどれも一様で多くなく、焼きは良好で赤褐色を呈し器面は硬い。

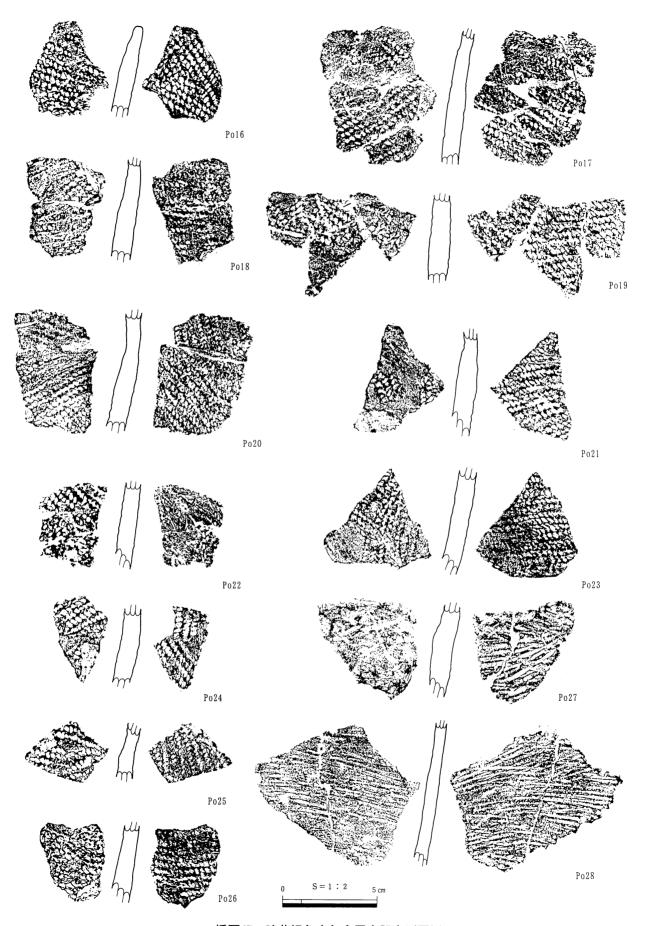
縄文時代前期初頭の土器はPo29の羽島下層 2 式で、「3」字状の連続する刺突をもち、胎土に繊維は含まない。縄文時代中期後半の土器として $Po30\sim38$ の船元式がある。このうち $Po30 \cdot 38$ は船元  $2\sim3$  式で、他は太い縄と細い縄が交互に認められ船元 4 式と考えられる。他に里木 2 式も認められたが図化できなかった。これら中期後半の土器は $B-4-4 \cdot B-5-1$  グリッド付近に集中して認められた。

縄文時代後期の北白川上層式とみられる土器が1点出土したが、図化できなかった。最も点数の多いのは粗製土器で、時期は不明であるが胎土には繊維を含んでいない。調整はほとんどがナデまたは粗いナデで、内面または外面に条痕をもつものも若干みられる。

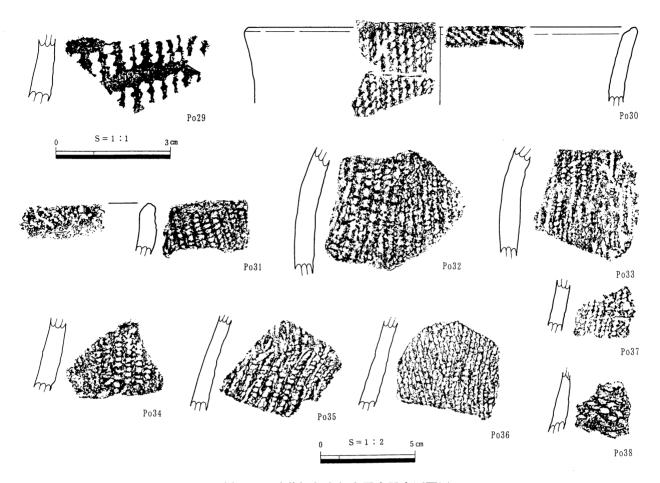
石製品は黒曜石および安山岩の石鏃が出土している。黒曜石石鏃・石核はいずれも隠岐島久見産で、特にC-2グリッドとC-4-3・ $C-5-1\sim2$ グリッドから黒曜石の剥片が集中して出土した。C-2グリッド付近はSD-01の西側の黒曜石出土地点と一致し、1 cm以下の小片は14点あり、石核は2点出土した。SD-01のものと同一時期のものと考えられる。C-4-3・ $C-5-1\sim2$ グリッド出土のものは小片が31点、母石からの剥片が13点あり、石核は3点出土した。下の第2遺構面との境付近からの出土で、広い範囲に剥片が散乱していた。

### 挿表30 暗茶褐色土包含層土器観察表

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類 器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 16 47 4	B-5-3	縄文早期深鉢	① △ 4.8	表裏縄文。2段のRL縄文を口縁 部付近は斜め、その下は横方向に 施す。	斜め方向に縄文を施 す。消えている部分 あり。	褐色 7.5YR4/4	褐色 7.5YR4/4	密(繊維はや や多い)・良 好	1691	繊維土器 菱根式	清水-82
Po 17 47 4	B-5-3	縄文早期深鉢	① △ 7.1	口縁部は外傾する。表裏縄文。 2 段のRL縄文を横方向に施す。繊 維痕が目立つ。	斜め方向に縄文を施 す。消えている部分 あり。繊維痕が目立 つ。	にぶい赤褐色 5YR4 / 3 ~ 明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密•良好	1689 1697 1860 1862 1864	繊維土器 菱根式	清水-135
Po 18 47 4	C-4-3	縄文早期深鉢	① △ 5.3	表裏縄文。2段のRL縄文を横方 向に施す。消えている部分あり。	斜め方向に縄文を施 す。消えている部分 あり。	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5 / 8 ~ にぶい褐色 7.5YR5/4	密・良好	1752 1833	繊維土器 菱根式	清水-138
Po 19 47 4	C-5-1 C-5-2 C-4-3	縄文早期 深鉢	① △ 4.5	表裏縄文。2段のRL縄文を横方向に施す。消えている部分あり。	斜め方向に縄文を施 す。消えている部分 あり。	にぶい褐色 7.5YR5/4	橙色 5YR6/6	密•良好	1707 1751 1835	繊維土器 菱根式	清水-139
Po 20 47 4	C-4-3	縄文早期 深鉢	① △ 6.3	わずかに内側に屈曲する体部。表 裏縄文。 2 段のRL縄文を斜め方 向に施す。不定方向の繊維痕。	屈曲部を境に斜め方 向に縄文を交互に施 す。	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	密(5 mm大の 礫有)・良好	1821 1825	繊維土器 菱根式	清水-134
Po 21 47 4	C-4-3	縄文早期 深鉢	① △ 5.5	表裏縄文。2段のRL縄文を斜め 方向に施す。表裏とも同じ位置に 指の痕あり。	斜め方向に縄文を施 す。指により消され る。	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	密•良好	1826	繊維土器 菱根式	清水-133
Po 22 47 4	B-5-3	縄文早期 深鉢	① △ 4.5	裏のみ縄文が目立つ。わずかに縄 の痕あるがナデが多い。	2段のRL縄文を斜 め方向に施す。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密・良好	1861	繊維土器 菱根式	清水-142
Po 23 47 4	C-4-3	縄文早期 深鉢	① △ 5.6	表裏縄文。2段のRL縄文を斜めまたは横方向に施す。	縦方向に縄文を施す。 消えている部分が多 い。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密・良好	1823	繊維土器 菱根式	清水-137
Po 24 47 4	B-5-3	縄文早期 深鉢	① △ 4.1	表裏縄文。 2 段のRL縄文を斜め 方向に施す。	斜め方向に縄文を施 す。一部剥落のため により不明瞭。	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	密・良好	1693	繊維土器 菱根式	清水-143
Po 25 47 4	C-5-2	縄文早期深鉢	① △ 2.9	表裏縄文。2段のRL縄文を縦方 向に施す。	横方向に縄文を交互 に施す。消えている 部分あり。	橙色 5YR6 / 6 ~ 灰褐色4/2	にぶい赤褐色 5YR4/3	密・良好	1734	繊維土器 菱根式	清水-141
Po 26 47 4	D-5-1	縄文早期 深鉢	① △ 3.1	表裏縄文。2段のRL縄文を縦方 向に施す。	縦方向に縄文を施す。 消えている部分あり。	明赤褐色 5YR5/6	赤褐色 5YR4/6	密・良好	1797	繊維土器 菱根式	清水-140
Po 27 47 4	B-6-2	縄文早期 深鉢	① △ 4.8	横または斜め方向の条痕。口縁部 付近か。わずかに炭化物付着。	繊維の剥落のため痕 が多い。指頭圧痕か。	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	密(繊維は表面付近に多い) ・良	2056 2057	繊維土器	清水-146
Po 28 47 4	C-3-4	縄文早期 深鉢	① △ 7.5	横もしくは斜め方向の交互に粗い 条痕を施す。器壁は5~7 mmと薄い。	横方向の粗い条痕。	にぶい黄橙色 10YR6/4~ 褐灰色4/1	にぶい黄橙色 10YR6/4~ 褐灰色4/1	密・良	2045	繊維土器	清水-160
Po 29 48 4	B-3-2	縄文前期 深鉢	① △ 1.7	「3」字状の3連刺突文を2段以上施す。口縁部付近とみられる。器 壁は4~6mmと薄い。	ナデか。	明黄褐色 10YR7/6	. 褐灰色 10YR4/1	密・良	1920	羽島下層2式	清水-166
Po 30 48 5	B-5-1 B-5-2	縄文中期深鉢	① △ 4.0 ② ※20.4		口縁端部に内傾面を もち、無節Rの縄文 を施す。体部横また は斜め方向のナデ。		にぶい黄橙色 10YR6/4	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良好	1646 1676 1677	船元2~ 3式	清水-62
Po 31 48 5	B-4-4	縄文中期深鉢	① △ 2.7	□縁部がやや内湾。キャリパー型か。 2段のRL縄文を縦方向に施す。 太い縄と細い縄が交互に重なる。	口縁端部に斜め方向 の縄文。下は横また は斜め方向のナデ。	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/4	密(1~2 mm の石英を多く 含む)・良	1661	船元4式	清水-61
Po 32 48 5	B-5-1	縄文中期深鉢	① △ 6.6	キャリパー型の頸部付近か。2段のRL縄文を縦方向に施す。	横または斜め方向の ナデ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	1655	船元4式	清水-132
Po 33 48 5	B-5-1	縄文中期深鉢	① △ 5.6	キャリパー型の頸部付近か。 2 段の R L 縄文を縦方向に施す。	横または斜め方向の ナデ。	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	1654	船元4式	清水-130
Po 34 48 5	B-4-4	縄文中期深鉢	① △ 3.7	内湾する体部。2段のRL縄文を 施す。一部剥落のために不明瞭。	横または斜め方向の ナデ。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密・良	2017	船元4式	清水-147
Po 35 48 5	B-4-4	縄文中期深鉢	① △ 5.0	わずかに外反する体部。2段のR L縄文を施す。	横または斜め方向の ナデ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密・良	1659	船元4式	清水-136
Po 36 48 5	B-5-1	縄文中期深鉢	① △ 4.6	内湾する体部。2段のRL縄文を 施す。一部剥落のために不明瞭。	横または斜め方向のナデ。	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	1654	船元4式	清水-131
Po 37 48 5	B-4-4	縄文中期深鉢	① △ 2.6	2段RLの縄文が縦方向に重なる。	横方向のナデ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良	1644	船元4式	清水-155
Po 38 48 5	D-5-1	縄文中期深鉢	① △ 3.2	きわめて撚りの粗い2段LRの縄 文を施す。	横方向のナデ後縦方 向のナデ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/2	密・良好	1777	船元2~ 3式	清水-152



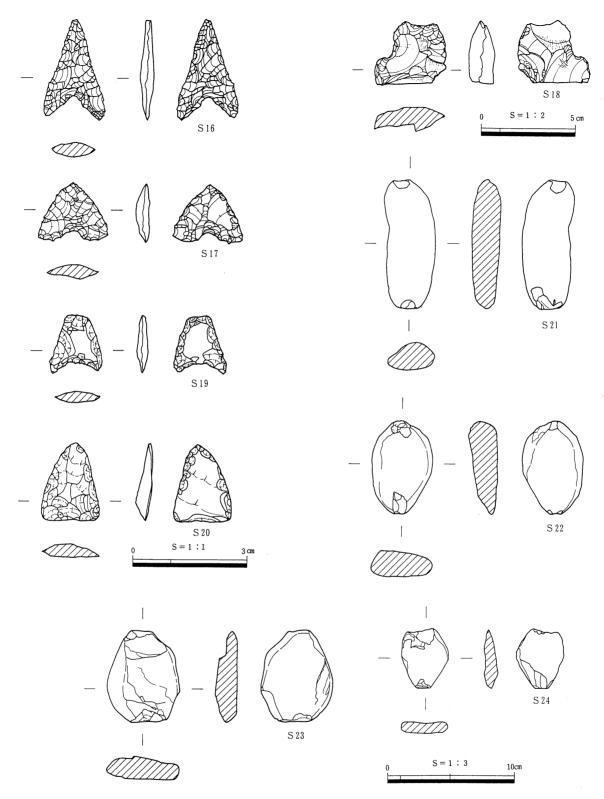
插図47 暗茶褐色土包含層土器実測図(1)



插図48 暗茶褐色土包含層土器実測図(2)

插表31 暗茶褐色土包含層石器観察表

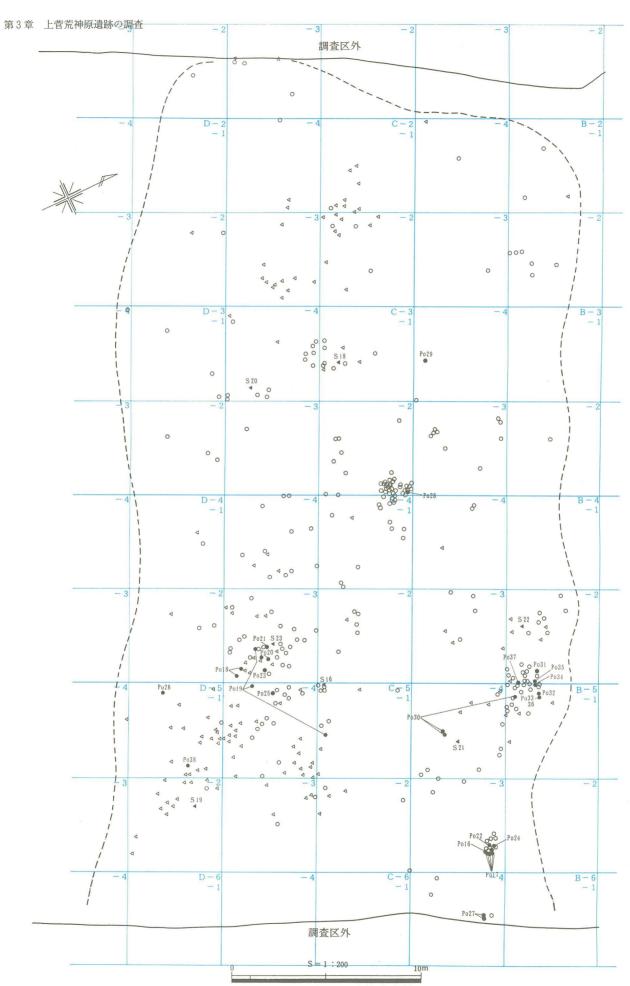
遺物番号	挿図 番号	図版 番号	遺構名	種	類		法 (i	em)	<b>量</b>		形態上の特徴	重 量	石材	取上No.	実測者No.
S 16	49	5	C-4-4	石鏃		(5) 2.7	6	1.6	T)	0.4	抉り長 6 mm/全長27mmで、抉りの深度は0.22、接点間は14mmである。断面はレンズ状で、調整は非常に丁寧で中央部から縁辺部には連続する細部調整を施す。	0.9 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No. 3	1702	大角-84
S 17	49	5	_	石鏃		(5) 1.8	6	1.5	7	0.4	快り長2mm/全長15mmで、快りの深度は0.13、 接点間は10mmである。幅が長さを上回る。断面 はレンズ状で、調整は左面は丁寧なのに対し、 右面は大剥離面を生かし縁辺部のみに細部調整 を施す。	0.7 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No. 7	2055	西川 9
S 18	49	5	C-3-1	石核		⑤△3.7	<b>6</b> 4	∆3.3	⑦△	1.4	断面は不整な三角形または菱形で、剥離軸は不 規則である。	△ 13.4 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No. 5	1924	西川4
S 19	49	5	D-5-4	石鏃		⑤△1.3	6	1.6	7	0.3	快り長2mm/全長20mm以上で、接点間は12mmである。断面はレンズ状で、調整は左面は雑であるが、右面は縁辺部に比較的丁寧な細部調整を施す。	△ 0.5 g	安山岩 産地不明 同定No. 4	1782	西川8
S 20	49	5	C-3-2	石鏃		\$ 2.0	6	1.5	7	0.4	快りはほとんどなく、全長20mmで、接点間は5 mmである。断面はレンズ状で、調整は左面は丁 寧な連続する剥離痕であるが、右面は大平坦面 を生かし縁辺部のみに細部調整を施す。	1.1 g	安山岩 産地不明 同定No. 6	1945	西川 7
S 21	49	5	B-5-2	石錘		⑤ 10.3	6	4.0	7	2.2	細長い礫に両面からの打ち欠きにより紐掛け部 をつくる。	120 g	石英斑岩	1678	大角-80
S 22	49	5	B-4-4	石錘		⑤ 7.4	6	4.8	7	2.0	片面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。	106 g	結晶片岩	1664	清水-175
S 23	49	5	C-4-3	石錘		⑤ 7.3	6	5.7	7	1.7	片面あるいは両面からの打ち欠きにより紐掛け 部をつくる。	103 g	石英斑岩	1812	清水-178
S 24	49	5	_	石錘		\$ 4.8	6	3.7	7	1.1	片面あるいは両面からの打ち欠きにより紐掛け 部をつくる。	25g	細粒閃緑岩	2055	大角-81



挿図49 暗茶褐色土包含層石器実測図

SD-01・02と同様に石器製作が行われていたと考えられ、SD-01・02も合わせ、剥片の出土した位置を第 2 遺構面と考えたい。安山岩剥片も出土したが、製品を合わせても 8 点で集中した傾向はみられない。

弥生時代前期・中期の土器も出土している。B-4-4グリッドから弥生時代中期の土器が集中して出土しているが、これは弥生時代中期の土抗S K-15の付近からの出土である。陶磁器も1 点出土しているがこれを含め 黒色土包含層の掘り残しとみられる遺物が若干ある。これらのことから暗茶褐色土包含層の時期は概ね縄文時代 早期と中期を中心としているといえよう。



插図50 暗茶褐色土包含層遺物出土状況図

# 第8節 黒色土包含層

表土除去後、東西方向に帯状の黒色土包含層を検出した。基本的には真砂土であるが有機物を多量に含んでいる。断面はレンズ状に堆積しており、暗茶褐色土よりも範囲は広い。縄文時代早期~近代の陶磁器までの幅広い 包含層である。

#### **1**. 縄文時代早期~後期(挿図51・52 挿表32・33 図版5・6)

縄文時代早期末~前期初頭の土器はPo40で、繊維をわずかに含み屈曲部には貝殻による文様を施す。

縄文時代中期の土器は船元  $2 \sim 4$  式、里木 2 式とあり、暗茶褐色土と同じく B-5 グリッド付近から集中して出土している。Po44は地文が撚糸であるが、沈線と貼り付けにより装飾を施す。窪み底Po48もみられる。

縄文時代後期前半の土器としていわゆる縁帯文系の土器が出土している。いずれも破片は大きく残りもよい。 Po53~55は布勢式とみられるが、Po55は津雲A式・彦崎K1式の可能性もある。また後半のPo57の宮滝式や凹線文系の土器も出土しているがいずれも小片で点数も少ない。

#### **2. 縄文時代晩期~弥生時代前期**(挿図51·53~59 挿表32~34 図版 6~10)

突帯文土器の分類にあたり、本来は器種、形態、手法の順に大分類から小分類を行うところであるが、いくつかの変更点がある。まず器種は口縁端部付近の小片が多数を占めるため、突帯の形状と位置についての分類を優先し、最後に口縁部の傾きによる器形の傾向をみること。次に突帯に刻み目をもつか否かは当地における突帯文土器分類の重要な要素ではあるが、これを手法の一つとして解釈し、刻みの有無を割合として理解するという点である。次に具体的な分類基準について記すが、大きな破片を見る限り同一個体内にも口縁部の傾き、突帯の位置・形状・刻み目の間隔や深さなどには部分ごとに差が認められ、あくまでも大まかな傾向を示すに留まる。本遺跡出土の突帯文土器は全て1条突帯で、2条突帯は確認していない。接合方向は全て内傾接合である。なお分類基準の作成にあたり、家根分類(家根1981)と目久美遺跡の分類(濵田1998)を参考にした。また、分類毎の突帯の位置と高さについては考察「上菅荒神原遺跡の遺物と遺構」の図1に示した。

#### 分類

- 0類 端部付近に接する突帯をもつ。
- I類 突帯が口縁端部よりもわずかに下がった位置に付く。口縁部と突帯を別々に成形する。
- Ⅱ類 突帯と口縁端部を同時に成形することにより口縁端部は外反する。突帯の位置は口縁端部に近い。
- Ⅲ類 突帯が口縁端部より大きく下がった位置に付く。突帯と口縁部は別々に成形される。
- A類 突帯の断面形が半円状を呈する。口縁端部を押さえるものをA'とする。
- B類 断面三角形の突帯。口縁端部を押さえるものをB'とする。
- C類 断面下さがりの突帯をもつ。
- D類 突帯が大きく突出する。

さらに刻み目の有無と口縁部の傾きにより細分される。刻みにはa工具により深い「V」字状の刻みを施すもの、b工具による切り目状の刻みを施すもの、c 貝殻腹縁による刻みを施すものがみられた。刻みをもつものにはある程度傾向があり、I-A類では「V」字状の刻みをもつものが主流で、I-C類では貝殻腹縁による刻みを施すものが1点みられる。I類では無刻み目突帯が多いが、I-D類では少数ではあるが切り目状の刻み目をもつ。I1類ではII-A類に刻みをもつものが多い。

また突帯の形状と口縁端部までの長さにはある程度器種ごとにまとまりがみられる。断面が半円形の突帯A類

は口縁端部を押さえる0類と $\blacksquare$ 類の一部があり刻み目はもたないが、 $I \sim \blacksquare$ 類には刻み目をもつものが多くみられる。断面三角形のB類はほぼ無刻み目突帯で、口縁部の形態や距離にかかわらずまとまりがあるようにみえる。下さがり突帯のC類は、口縁端部と突帯を同時に成形する $\blacksquare$ 類が多数を占め無刻み目突帯が多い。突帯が高いB類は少数であるが、切り目状の刻み目をもつものが多い。

以上のことから黒色土包含層内の突帯文土器の傾向をみると、大きな傾向として1. 突帯の位置が下がり、刻み目がV字状から切り目状の刻み目となる。2. 刻み目の有無は時期差よりも突帯文土器の多様性として考えておきたい。

口縁部の傾きは、①内傾するもの、②直立するもの、③外傾するもの、④外反するものがあり、①は体部上半が張り出し、②・③はやや緩やかに張り出すもの、④はそのまま窄まりながら底部に続くとみられるものに分けられるが、小片であるため全体の傾向をとらえることはできなかった。

次にこれを他地域の様相と比較してみると、突帯の位置が下がるのは西日本に一般的にみられる現象で、大まかな流れとしては合致している。0類は近畿では長原、九州では夜臼並行の可能性があるが、これが  $I \cdot II$  類あるいはIII類のどちらか、あるいは両方に並行するのかは不明である。また刻み目の有無であるが、刻み目をもつものは外来的な様相が強く、刻み目を持たないものは在地的な様相が強いとみられる。これらは突帯文土器成立期からある程度共存していたことが指摘されている(濵田1998)。貝殻腹縁による刻み目を施すもの、大きく突出する突帯を貼り付け体部が大きく外側に張り出すもの、底部の接地面が大きく外側に突出しているものについては北部九州的な様相がうかがえよう。

遠賀川系土器には肩部に下側が低まる段をもつ壺の肩部Po174や、口縁端部に刻み目をもち体部に3本の沈線をもつ甕Po181などがあるが、全体的に在地色が強い。文様としては木葉文・重弧文・斜格子文などがみられ、遠賀川式土器によくみられるモチーフが多く用いられる。これらの時期は概ね弥生時代前期後葉頃とみられ、中葉までは遡らないものと考えられる。したがって遠賀川系土器については時期の幅は少ないものと考えたい。

本遺跡では突帯文土器と遠賀川系土器の良好な一括資料はみられないが、土坑内においては遠賀川系土器と粗製土器としている体部片がともに出土しており、実測可能な口縁部点数をみても分かるようにこの粗製土器としているものの中には突帯文土器の体部片がかなり含まれていることが予想できる。したがって土坑内の資料を積極的に評価すれば、弥生時代に突帯文土器が使用されていたとも考えられる。また突帯文土器と遠賀川系土器の胎土分析を行ったが、どちらも胎土に火山ガラスを含み、在地の材料で焼かれたものという結果が得られている。詳細については考察に「上菅荒神原遺跡出土土器の胎土分析」として掲載されている。

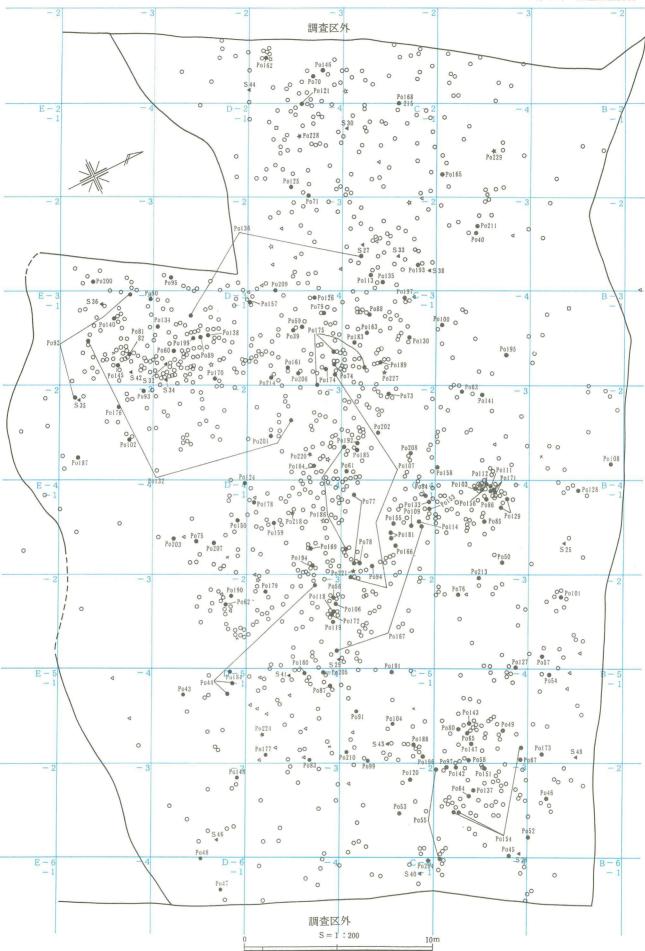
このように本遺跡出土の突帯文土器と遠賀川系土器は形態・手法において分類可能であるもののこれはあくまでも技術的な差に留まり、出土状況をみるかぎり共伴している可能性が高いとみられる。ただし突帯文土器にはある程度の時期幅が想定されており、新しい様相をもつものに遠賀川系土器が伴うことが予想される。

まとめると、本遺跡出土の突帯文土器は瀬戸内よりもむしろ北部九州との共通性が見いだされ、在地的な要素の強い突帯文土器から遠賀川系土器にかけてある程度継続的に北部九州の影響を受けていたことが指摘できる。 この北部九州からの影響は水系の造り出す平野毎にある程度の傾向が想定され、日野川下流の米子平野地域からの傾向が及んだものと推察したい。

また本遺跡出土の突帯文土器は弥生時代の土器の可能性があるものの、その形態・手法においてはあくまでも 縄文土器の延長上にあり、土器としては縄文土器(粗製土器)と突帯文土器の区別はできないが、遠賀川系土器 との区別は可能である。したがって弥生時代の土器であるとしても突帯文土器から弥生前期土器の過渡期に相当 する、縄文色の強い土器ということができよう。

#### 参考文献

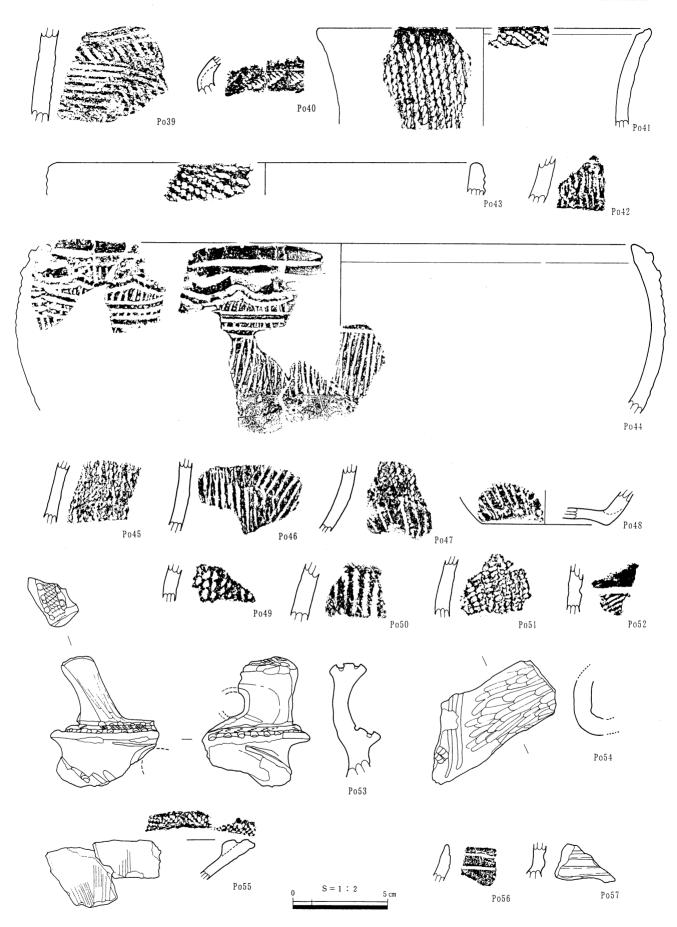
家根祥多 1981 「近畿地方の土器」『縄文土器の研究』 4 雄山閣 濵田竜彦ほか 1998 『目久美遺跡 V・VI』 財団法人 米子市教育文化事業団



插図51 黑色土包含層遺物出土状況図

### 挿表32 黒色土包含層土器観察表

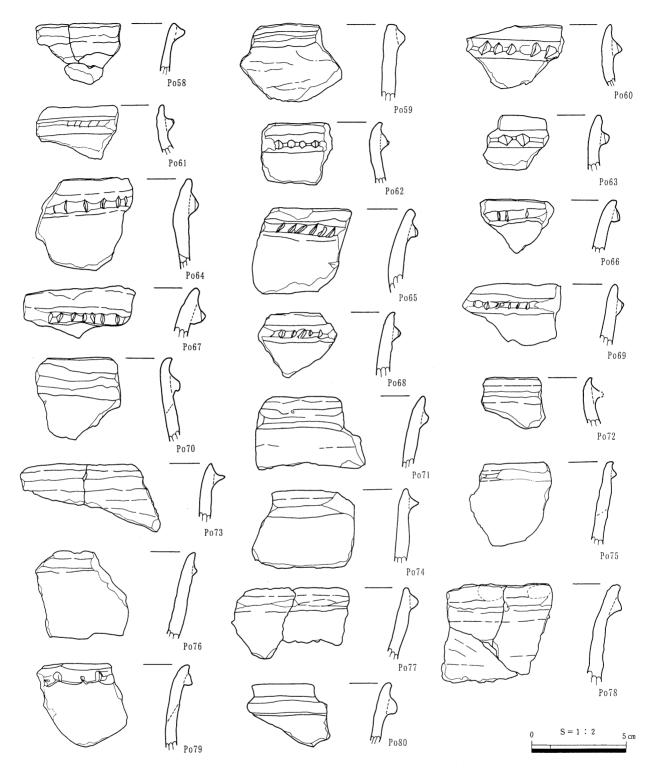
遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 39 52 5	C-3-2	縄文早期深鉢	① △ 4.8	斜め後横方向に幅広の条痕を施す。 条痕のくぼみに煤付着。	横方向の条痕後ナデか。	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	密(繊維の量 は多くない)・ 良	1263	繊維土器 菱根式か	清水-144
Po 40 52 5	B-2-3	縄文早期 ~前期 深鉢	① △ 1.9	口縁部付近の屈曲部。横方向の粗 い条痕がわずかに残る。貝殻腹縁 による縦方向の爪形文風の施文を する。	屈曲部上下ともに粗 い斜め方向のナデ。	黒褐色 2.5Y3/2	黄灰色 2.5Y5/1	密(繊維の量 は少ない)・ 良	1051	繊維土器 〜羽島下 層式か。	清水-167
Po 41 52 5	=	縄文中期深鉢	① △ 5.2 ② ※17.5	口縁部がやや外反する。撚りの粗 い2段のRL縄文を縦方向に施す。 器壁は比較的厚い。	口縁端部に内傾面を もち、斜め方向の縄 文を施す。体部横方 向のナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/4	密(1 mm大の 砂粒を含む)・ 良好	413	船元2~ 3式	清水-49
Po 42 52 5	_	縄文中期 深鉢	① △ 2.4	比較的細い2段のRL縄文を縦方向に施す。器壁は8~9mmと厚い。	横方向のナデ。	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	密•良好	61	船元4式	清水-156
Po 43 52 5	D-5-1	縄文中期 深鉢	① △ 1.8 ② ※22.0	口縁端部はやや内湾する。無節L の縄文を斜め方向に施す。	口縁端部内面には施 文はなく、斜め方向 のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2~ 7/3	密•良好	431	船元式併 行か	大角-50
Po 44 52 6	D-5-1 C-4-3	縄文中期鉢	① △ 9.0 ② ※30.6	口縁部は内湾する。細い粘土紐を水平・波状に貼り付け、その上下に貼り付け帯に平行に、波の下には水平方向に沈線状の施文をする。地文は縦方向の1段Lの撚糸文。体部下半は横方向の粗いナデ。	口縁端部付近は横方 向のナデが周回する とみられる。その下 は丁寧な様方向の大 デまたはミガキ、 部下半は粗い斜め方 向のナデ。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密(1 mm大の 石英を含む)・ 良好	9 61 79 80 428 522	里木2式 併行	清水-198
Po 45 52 5	B-6-2	縄文中期 深鉢	① △ 3.1	撚りの粗い1段Lの撚糸文を縦方 向に施す。	斜め方向の粗いナデ。	にぶい黄色 2.5Y6/3	黄灰色 2.5Y4/1	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良好	1512	里木2式	清水-151
Po 46 52 5	B-5-4	縄文中期深鉢	① △ 3.7	底部付近か。1段Rの撚糸文が斜め方向に交互に重なる。	斜め方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/4~ 褐灰色 10YR5/1	にぶい黄橙色 10YR6/4~ 褐灰色 10YR5/1	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良	862	里木2式	清水-129
Po 47 52 5	D-6-1	縄文中期 深鉢	① △ 2.8	底部付近。1段Lの撚糸文が基本であるが、一部に撚糸を引きずる痕跡あり。	斜め方向の比較的丁 寧なナデ。	橙色 5YR6 / 6 ~ 褐灰色 5YR4/1	にぶい赤褐色 5YR5/3	密(1㎜大の 石英を含む)・ 良好	457	里木2式	清水-153
Po 48 52 5	D-6-1	縄文中期 深鉢	① △ 1.8 ③ ※ 6.6	くぼみ底。底付近まで1段Rの撚 糸文を施す。	底面は放射状、立ち 上がりは斜め方向の 丁寧なナデ。	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/3	密(1 mm大の 砂粒を多く含 む)・良好	1179	里木2式	清水-19
Po 49 52 5	B-5-2	縄文中期 深鉢	① △ 1.8	撚りの粗い2段のRL縄文?を縦 方向に施す。	横方向のナデ。	明赤褐色 5YR5/6	赤褐色 5YR4/6	密(1 mm大の 砂粒を含む)・ 良好	1317	船元2~ 3式	清水-157
Po 50 52 5	B-4-2	縄文中期 深鉢	① △ 2.9	比較的縄目の詰まる2段のRL縄 文を縦方向に施す。	横または斜め方向の ナデ。	橙色 7.5YR6/8	橙色 7.5YR6/8	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	34	船元4式	清水-148
Po 51 52 5	_	縄文中期 深鉢	① △ 3.0	縄目の詰まる2段のRL縄文を縦 方向に施す。	横または斜め方向のナデ。	灰黄褐色 10YR5/2~ にぶい黄橙色 10YR6/4	橙色 5YR6/8	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	67	船元式	清水-150
Po 52 52 5	B-5-4	縄文後期深鉢	① △ 2.4	沈線で区画し、細い無節Lの縄文 を施す。	横方向の粗いナデ。	黄褐色 2.5Y5/3	黄褐色 2.5Y5/3~ 橙色 7.5Y6/6	密(0.5~1 mm 大の砂粒を含 む)・良	809	後期前葉 中津式併 行か	清水-194
Po 53 52 6	C-5-4	縄文後期深鉢	① △ 7.0	緑帯文系の突起部。円状の張り出し部から柱状に突出する。柱部に 円形の透かし状の孔がみられ、貼 り付け部下側には斜めの2本の沈 線と張り出し部下に途切れるが沈 線を1本もつ。沈線内には連続す る円孔をもつ。縁および突出部上 面には主に2段RL縄文を施文す る。	内面はナデ。外面に ついても縄文地以外 はナデが主であるが 柱部は一部縦方向に ミガく。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(0.5~1 mm 大の砂粒を多 く含む)・良 好	366	布勢式か	清水-196
Po 54 52 6	B-5-1	縄文後期 注口土器	① △ 6.8	注口土器で、下側の接合部付近に 2 本の沈線がみられる。沈線の下 には模様の一部が確認できる。 放方向のミガキを丁寧に施す。接合 部下付近にごくわずかに煤付着。	指頭圧痕またはナデ。 罅割れが目立つ。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1 mm大の 砂粒を含む)・ 良好	1323	布勢式か	清水-197
Po 55 52 5	B-5-3 B-6-2	縄文後期深鉢	① △ 2.1	横方向の粗いナデ後縦方向の細密な条痕を施す。	口縁端部からやや下がったとのでは、 がったよる突には、 突帯がのはは、 突帯がのはは、 はながのはは、 はながは、 傾面をもち、2段 しの縄文を施す。	明黄褐色 10YR7/6	明赤褐色5Y R5/8	密(2~4 mm の砂粒を含む) ・良好	847 1385	布勢式	清水-89
Po 56 52 5	C-4-3	縄文後期 深鉢	① △ 1.9	口縁端部は内湾する。水平方向に 間隔の狭い2本の沈線があり、そ の間を赤彩する。沈線より下側に 煤付着。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密・良好	1223	縄文後期か	清水-84
Po 57 52 5	B-4-4	縄文後期 深鉢	① △ 1.7	凹線文系。幅約5~6 mmの凹線が 2 本以上認められる。	横方向のナデ。	黒褐色 2.5Y3/1	黒褐色 2.5Y3/2	密(1~2 mm 前後の砂粒を 含む)・良	1361	凹線文系 宮滝式	清水-195



插図52 黒色土包含層土器実測図(1)

### 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種類器種	法量(㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 58 53 6	B-5-3	突帯文深鉢	① △ 2.5	口縁端部は外傾し押さえる。端部 に接する半円形の無刻み目突帯を もつ。	横・斜め方向のナデ。	明黄褐色 10YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	密・良	844	O-A類 胎土分析 No.4	大角-52
Po 59 53 6	C-3-2	突帯文 深鉢	① △ 3.8	口縁端部は直立し押さえる。端部 に接する半円形の無刻み目突帯を もつ。以下横方向のナデ。	横・斜め方向の比較 的粗いナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/3	明褐色 7.5YR5/6	密(2~5 mm の石英を含む) ・良	717	O-A類 胎土分析 No.5	大角-40
Po 60 53 6	D-3-1	突帯文 深鉢	① △ 3.2	口縁端部は外反し尖る。半円形の 突帯に貝殻腹縁による刻み目を施 す。以下横方向のナデ。	横方向の粗いナデ。 あるいは条痕か。	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(6 mm大の 礫有)・良好	1243	I-A類	清水-42
Po 61 53 6	C-3-4	突帯文 深鉢	① △ 2.4	口縁端部は外反し尖る。半円形の 突帯にごく浅い切り込み状の刻み 目。	縦方向のナデ。	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/4	密・良	1550	I-A類	清水-87
Po 62 53 6	D-4-4	突帯文 深鉢	① △ 3.1	ロ緑端部は外反し面取り気味に尖 る。半円形の突帯に浅い∇字状の 刻み目。以下横方向のナデ。	横方向のナデを幅約 4~5mmの帯状に施 す。	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 7.5YR5/6~ 2.5YR	密(1~3 mm大 の砂粒を含む) ・良好	424	I-A類	清水-70
Po 63 53 6	B-3-3	突帯文 深鉢	① △ 2.9	口緑端部はやや外反し丸い。半円 形の突帯に深いV字状の刻み目を 施す。以下斜め方向のナデ。	横方向の比較的粗いナデ。	明黄褐色 10YR7/6	明赤褐色 5YR5/6	密(1 mm前後 の石英を含む) ・良	1155	I - A類 胎土分析 No. 2	清水-71
Po 64 53 6	B-5-3	突帯文 深 <b>鉢</b>	① △ 4.8	口縁端部は外傾し丸い。やや波状 口縁気味か。半円形の突帯に浅い 切り込み状の刻み目を施す。以下 横方向のナデ。	横方向の比較的粗いナデ。	橙色 7.5YR6/6	明黄褐色 10YR6/6	密・良好	871	I — A類 胎土分析 No. 6	大角-22
Po 65 53 6	B-5-2	突帯文 深鉢	① △ 4.4	口緑端部は外反し丸い。半円形の 突帯に切り込み状の刻み目を斜め に施す。以下縦方向のナデ。	斜め方向の比較的丁 寧なナデ。	にぶい赤褐色 5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR5/6	- 密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	829	I - A類 胎土分析 No. 8	清水-41
Po 66 53 6	_	突帯文 深鉢	① △ 2.7	口緑端部は外傾し丸い。半円形の 突帯に切込み状の刻み目を乱雑に 施す。以下横方向のナデ。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	密・良好	413	I-A類	大角-43
Po 67 53 6	B-5-3	突帯文 深鉢	① △ 2.6	口縁端部は外反し丸い。半円形の 突帯にV字状の刻み目を施す。	縦または斜め方向の 比較的丁寧なナデ。	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	密•良好	841	I-A類	大角-24
Po 68 53 6	_	突帯文 深鉢	① △ 3.3	口緑端部は外傾し尖る。半円形の 突帯に切り込み状の刻み目を斜め に施す。以下横方向の粗いナデ。	縦方向の比較的丁寧 なナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	密(1~3 mm 前後の石英を 含む)・良	271	I-A類	清水-67
Po 69 53 6	_	突帯文 深鉢	① △ 3.2	口縁端部は外傾し尖る。やや上あがりの突帯に浅いV字状の刻み目を施す。以下横方向のナデ。	横または斜め方向の 比較的丁寧なナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/4~ にぶい橙色 7.5YR7/6	密(1~2 mm の石英を多く 含む)・良	271	I-A類	清水-69
Po 70 53 6	C-1-3	突帯文 深鉢	① △ 4.4	口縁端部は外反し尖る。半円形状 の無刻み目突帯をもつ。以下横方 向のナデ。	横方向の粗いナデ。 内傾接合痕あり。	にぶい黄色 2.5Y6 / 4 ~ 橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	密(1~2 mm 前後の石英を 含む)・良	763	I-A類	清水-36
Po 71 53 6	C-2-3	突帯文 深鉢	① △ 3.7	口縁端部は外傾し丸い。半円形状 の無刻み目突帯をもつ。以下横方 向のナデ。	横方向の比較的粗い ナデ。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密(1~2 mm の石英有)・ 良	741	I-A類	清水-44
Po 72 53 6	_	突帯文 深鉢	① △ 2.5	口縁端部は外反し尖る。三角形状 の無刻み目突帯をもつ。以下横方 向のナデ。	横方向のナデ。	浅黄色 2.5Y7/3	明黄褐色 10YR7/6	密・良	271	I - B類	大角-36
Po 73 53 6	C-3-4	突帯文 深鉢	① △ 3.0	口縁端部は外傾し尖る。端部近く に三角形の鋭い無刻み目突帯をも つ。以下横方向のナデ。	横方向の丁寧なナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/2	密・良好	1120	I-B類 もしくは O-B類	大角-34
Po 74 53 6	C-3-2	突帯文 深 <b>鉢</b>	① △ 3.8	口縁端部は直立し尖る。端部近く に三角形の鋭い無刻み目突帯をも つ。以下横方向のナデ。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y1 / 6 ~ 淡黄色 2.5Y8/4	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	709	I-B類 もしくは O-B類 胎土分析 No.24	清水-86
Po 75 53 6	D-4-1	突帯文 深鉢	① △ 4.4	口縁端部は外傾し丸い。三角形の 小さな無刻み目突帯をもつ。以下 横方向のナデ。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(1~2 mm 前後の石英を 含む)・良好	95	I-B類	清水-66
Po 76 53 6	B-4-3	突帯文深鉢	① △ 4.6	口緑端部は外傾し尖る。三角形の 小さな無刻み目突帯をもつ。以下 横方向のナデ。	剥落のため不明。	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	密(1~5 mm の砂粒を含む) ・良好	906	I-B類	大角-33
Po 77 53 6	C-4-1	突帯文 深鉢	① △ 3.7	口緑端部はやや内湾し丸い。端部 近くに三角形の無刻み目突帯をも つ。以下横方向のナデ。	横方向の比較的粗い ナデ。	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	密(2~4 mm の石英を含む) ・良好	941 1335	I - B類 あるいは O - B類	大角-25
Po 78 53 6	C-4-1	突帯文 深鉢	① △ 5.2	口縁端部は外反し押さえる。三角 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向のナデ。	横方向の粗いナデ。	明赤褐色 5YR5/6~ 褐灰色 5YR4/1	黒褐色 7.5YR3/1	密(2~3 mm の石英を含む) ・良好	943	I-B′ 類	大角-26

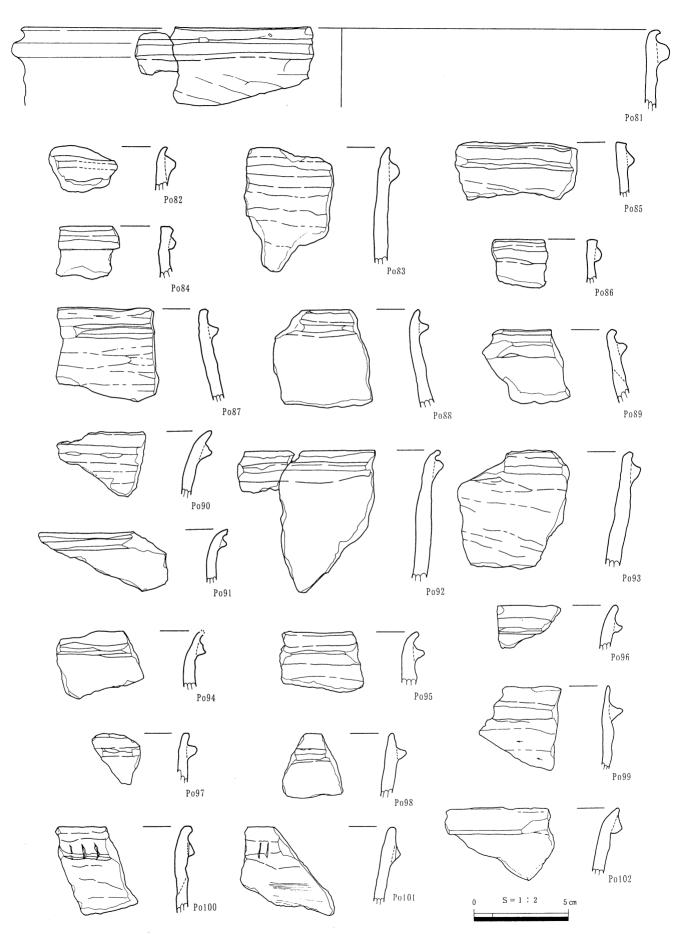


插図53 黒色土包含層土器実測図(2)

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法量(㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 79 53 6	C-3-2	突帯文 深鉢	① △ 4.3	口縁端部は外反し丸い。下さがり の突帯に貝殻腹縁による刻みを施 す。以下横方向のナデ。		明黄褐色 10YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密•良	1938	I - C類 胎土分析 No.23	清水-58
Po 80 53 7	B-5-2	突帯文 深鉢	① △ 3.1	口縁端部は外傾し丸い。半円形状 の無刻み目突帯をもつ。以下横方 向のナデ。		橙色 5YR6/8	明黄褐色 10YR7/6~ 黄橙色 10YR7/8	密(1~3 mm 大の石英を含 む)・良	826	II — A類	清水-55

### 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法量 (㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 81 54 7	D-3-2	突帯文 深 <b>鉢</b>	① △ 4.2 ② ※33.4	口縁端部は直立し外側に尖る。半 円形の無刻み目突帯をもつ。以下 横方向のナデ。	端部付近を強く横に ナデる。以下斜めの 指頭圧痕後横方向の 粗いナデ。	明 <b>黄褐色</b> 10YR7/6	橙色 5YR6/6~ 6/8	密(1~2 mm 前後の石英を 含む)・良好	14 413	II — A類 胎土分析 No.14	清水-35
Po 82 54	D-3-2	突帯文 深鉢	① △ 2.3	口縁端部は直立し外側に尖る。半 円形の無刻み目突帯をもつ。	端部付近を強く横に ナデる。以下横にナ デる。	明褐色 7.5YR5/6	明褐色 7.5YR5/6	密•良好	14	Ⅱ-A類	清水-57
Po 83 54 7	C-5-3	突帯文 深鉢	① △ 6.0	口縁端部は直立し尖る。半円形の 無刻み目突帯をもつ。以下横方向 のナデ。	横方向の比較的丁寧 なナデ。	褐灰色 7.5YR4/1~ 橙色 6/6	橙色 5YR6/6	密(2~4 mm の石英を含む) ・良好	466	Ⅱ-A類	大角-32
Po 84 54 7	C-4-1	突帯文 深 <b>鉢</b>	① △ 2.7	口縁端部は外傾し押さえる。半円 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向のナデ。	横方向の粗いナデ。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密(1~2 mm の石英を含む 一部4 mm大の 礫有)・良好	974	II — A' 類 胎土分析 No.15	清水-48
Po 85 54 7	B-4-2	突帯文 深 <b>鉢</b>	① △ 2.8	口縁端部は直立し押さえる。半円 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向のナデ。	横方向の筋状のナデ。	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR4/1~ にぶい赤褐色 5YR5/4	密・良好	987	II — A' 類 胎土分析 No.16	大角-27
Po 86 54 7	B-4-2	突帯文 深鉢	① △ 2.2	口縁端部は直立し押さえる。半円 形の無刻み目突帯をもつ。	横方向のナデ。	黒褐色 5YR3/1~ にぶい赤褐色 4/4	黒褐色 5YR3/1~ にぶい赤褐色 4/4	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	963	II — A′ 類	清水-47
Po 87 54	C-5-2	突帯文 深 <b>鉢</b>	① △ 5.0	口縁端部はやや内傾し丸い。三角 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向の比較的粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。突帯の裏側が浅 く凹線状にくぼむ。	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良好	488	II - B類 胎土分析 No.26	清水-29
Po 88 54 7	C-3-1	突帯文 深鉢	① △ 5.2	口縁端部はやや内傾し丸い。三角 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向のナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向の条 痕後ナデか。	にぶい黄橙色 10YR6/3~ 黒褐色 3/1	にぶい黄橙色 10YR6/3	密・良好	1085	II - B類 胎土分析 No.13	清水-30
Po 89 54 7	D-3-1	突帯文 深鉢	① △ 3.9	口縁端部はやや内傾し外側に尖る。 三角形の無刻み目突帯をもつ。以 下横方向のナデ。	端部付近を横にナデ る。以下は横方向の 比較的粗いナデ。	・にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい <b>橙色</b> 7.5YR6/4	密(2~4 mm の石英を含む) ・良好	641	II-B類	清水-33
Po 90 54 7	D-3-2	突帯文 深鉢	① △ 3.4	口縁端部は外反し丸い。三角形の 無刻み目突帯をもつ。以下横方向 の比較的粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下は横方向の 比較的粗いナデ。	にぶい赤褐色 5YR4/4	橙色 7.5YR6/6	密•良好	646	Ⅱ-B類	大角-37
Po 91 54 7	C-5-1	突帯文 深鉢	① △ 2.7	口縁端部は外反し外側に尖る。三 角形の無刻み目突帯をもつ。以下 横方向のナデ。	端部付近を横に強く ナデる。以下は横方 向の丁寧なナデ。	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	密・良好	811	II - B類 胎土分析 No.11	清水-56
Po 92 54 7	D-3-3 D-3-2	突帯文 深鉢	① △ 6.7	口縁端部は直立し外側に尖る。三 角形の無刻み目突帯をもつ。以下 横方向の比較的粗いナデ。	端部付近を横に強く ナデる。以下横方向 の粗いナデ。	明褐色 7.5YR5/6	明褐色 7.5YR5/6	密(1~2 mm 大の石英を含 む)・良好	581 662	II - B類 胎土分析 No.10	清水-50
Po 93 54 7	D-3-3	突帯文 深鉢	① △ 6.0	口縁端部は外傾し丸い。三角形の 無刻み目突帯をもつ。以下横方向 の粗いナデ。	横方向の粗いナデを 施す。	橙色 7.5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	密・良好	575	II - B類 胎土分析 No.12	大角-23
Po 94 54 7	C-4-1	突帯文 深鉢	① △ 3.0	口縁端部は外反し尖る。三角形の 無刻み目突帯をもつ。以下横方向 のナデを施す。		オリーブ黒色 7.5Y3/1	にぶい黄橙色 10YR6/4	密・良	936	II - B類	清水-52
Po 95 54 7	D-2-4	突帯文 深鉢	① △ 2.8	口縁端部は直立し外側に尖る。三 角形の鋭い無刻み目突帯をもつ。 以下横方向のナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向の筋 状のナデ。	灰褐色 7.5YR4/2	褐灰色 10YR4/1	密・良好	666	Ⅱ-B類	大角-28
Po 96 54 7	_	突帯文深鉢	① △ 2.3	口縁端部は外傾し丸い。三角形の 無刻み目突帯をもつ。	横方向の比較的粗いナデ。	明赤褐色 5YR5/6	黒褐色 5YR3/1~ 明赤褐色 5/6	密•良好	67	Ⅱ-B類	清水-60
Po 97 54	B-5-3	突帯文 深鉢	① △ 2.7	口縁端部は直立し丸い。三角形の 無刻み目突帯をもつ。	斜め方向の丁寧なナ デ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密・良	846	Ⅱ-B類	大角-51
Po 98 54 7	_	突帯文深鉢	① △ 3.3	口縁端部はやや内湾し丸い。三角 形の無刻み目突帯をもつ。以下丁 寧なナデ。	横または斜め方向の 丁寧なナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰褐色 7.5YR4/2	密・良好	69	II-B類	大角-39
Po 99 54 7	C-5-4	突帯文深鉢	① △ 4.5	口縁端部は直立し尖る。三角形の 鋭く大きな無刻み目突帯をもつ。 以下横方向の粗いナデ。器壁は薄 い。突帯および体部に薄く煤付着。	縦または斜め方向の 丁寧なナデ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密•良好	796	Ⅲ-B類	大角-38
Po 100 54 7	B-3-2	突帯文 深鉢	① △ 4.5	口緑端部は直立し外側にわずかに 肥厚する。下さがりの突帯に貝殻 腹縁による切り込み状の深い刻み を施す。以下横方向の粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下は横または 斜め方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	密・良好	1142	II - C類 胎土分析 No.21	大角-21
Po 101 54 7	B-4-4	突帯文深鉢	① △ 4.0	口縁端部は外傾し丸い。下さがり の突帯に切り込み状の深い刻みを 施す。以下横方向の粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向の比 較的丁寧なナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR6/6	密(1~2 mm の砂粒を多く 含む)・良好	898	II — C類	大角-45
Po 102 54 7	D-3-3	突帯文 深鉢	① △ 3.5	口縁端部は外傾し丸い。下さがり の無刻み目突帯をもつ。以下斜め 方向の粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向のナ デ。指頭圧痕あり。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	密・良	568	Ⅱ-C類	清水-63



插図54 黒色土包含層土器実測図(3)

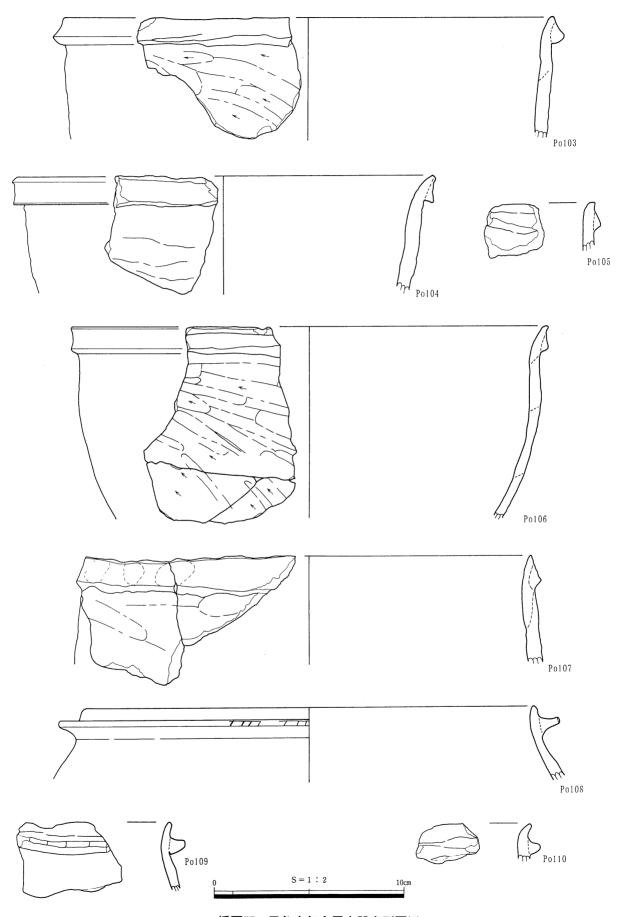
### 挿表33 黒色土包含層出土遺物一覧表

	A3	В1	B2				ВЗ				В4				В5				В6		C1		C2				C3			
	-2	-3	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4
縄文早期		Ť					<u> </u>																					1		
縄文前期					1																l									
縄文中期					-						٠.	1			1	4	2	1		1										
縄文後期					1							-		3	1	•	1	1	1	1										
縄文晩期					_									Ü	1		_	_		_										
突带文							1	3	1	1	1	7	1	1		3	6	1			2		3	4	3	5	4	6	1	3
精製土器							*	Ü	_	-	1	1	-	-		Ü	Ŭ	_	-		_			_		-	_	1		
粗製土器	1	8	2	11	7	2	3	6	22	14	9	48	9	11	8	33	49	10	2	7	19	17	26	40	17	34	40	54	34	43
弥生前期	1	1		3	•		"	2	1	1	"	8	v	11	1	1	3	1	-	1	10		6	3		1	8	7	5	9
弥生中期		1	1	2	4			2	3	1	2	6	6	5	1	4	0			-	1		2	1		4	11	4	3	10
弥生年期   弥生後期		1	1	4	**			4	J			U	U	U	1	-					1		"		1	2	**	•	Ü	10
							1																	1	1	- 4				
				1			1									1					1			1	1	2	1		2	1
陶磁器	L			1												1					1									
黒曜石	1				- 1				1		1		3		2		-		Г	1	Т		1		5	3	1	1		
	1				1				1		1		Э		4					1	1		1		J	2	1	1		
石製品	1									1											1		. 1			4				
鉄 関 係										1	L								<u> </u>		L		L							

	C4				C5				C6		D1	D2				D3				D4				D5			D6	E3	E4	合計	割合
	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-1	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-3	-4	-1	-2	-4	-1	-4	-1	台町	剖台
縄文早期																	1													2	0.1%
縄文前期									i																					1	0.1%
縄文中期		1	3		ļ																			4		1	2			21	1.4%
縄文後期			1					1										1	1											12	0.8%
縄文晩期																															0.0%
突带文	7	1	3	3	3	4	1	3							1	2	8	4		4			1							102	6.7%
精製土器	1																1													4	0.3%
粗製土器	44	53	58	31	16	25	10	11	6	7	6	3	1	6	4	90	50	12	28	17	1	1	20	4	1	6	1	1	2	1101	72.0%
弥生前期	14	9	3	5		5		1		1	1	-				7	2	2	2					2		2				118	7.7%
弥生中期	4	10	2	5	11	3	1	1	2		1			1		6	8	2	1	2	2		4	1		1		2	1	144	9.4%
弥生後期	-																													3	0.2%
須恵器																														2	0.1%
陶磁器		3	1	1	ĺ	1										1	1										1			19	1.2%
HA																														1529	100.0%
黒曜石		2	1		1	9	2	1										~		1			2		2					42	
石製品			1		1	1			1							2	2	1								1				14	
鉄関係					2												1			1			1							6	
2. Pd Pit																														62	•

### 插表34 黑色土包含層土器 · 陶磁器観察表

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土·焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 103 55 7	B-4-2	突帯文 深鉢	① △ 6.5 ② <b>※</b> 25.8	口縁端部は直立し丸い。口縁端部 付近に下さがりの無刻み目突帯を もつ。以下斜め方向のケズリ状の ナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向のナ デ。	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(1~3 mm の砂粒を含む 5 mm大の <b>磔</b> 有) ・良好	1182	II - C類 もしくは O - C類 胎土分析 No.19	清水-25
Po 104 55 7	C-5-1	突帯文 深鉢	① △ 6.3 ② <b>※</b> 21.6	口縁端部はやや外傾し丸い。口縁 端部付近に下さがりの無刻み目突 帯をもつ。以下横方向の粗いナデ。	横方向の比較的粗い ナデ。	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	密•良好	779	II - C類 もしくは O-C類 胎土分析 No.18	大角-20
Po 105 55 7	_	突帯文 深鉢	① △ 2.5	口縁端部は直立し丸い。下さがり の無刻み目突帯をもつ。	横方向のナデか。	にぶい黄橙色 10YR6/4	褐灰色 10YR4/1	密(2~3 mm の砂粒を少し 含む)・やや 不良	1617	Ⅱ-C類	清水-79
Po 106 55 7	C-4-3	突帯文深鉢	① △15.3 ② ※37.8	口縁端部は外反し丸い。下さがり の無刻み目突帯をもつ。以下横ま たは斜め方向のケズリ状のナデ。 煤が多く付着。	端部付近を横にナデ る。以下横方向の粗 いナデ。内傾接合痕 あり。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(1~3 mm 大の石英を多 く含む)・良	359 1233	Ⅲ-C類 胎土分析 No.17	清水-26
Po 107 55 7	C-3-2 C-4-4	突帯文 深鉢	① △ 6.9 ② ※23.5	口縁端部は直立し尖る。下さがり の無刻み目突帯をもつ。以下横方 向のナデ。	横にナデる。内傾接 合痕あり。	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	密•良好	708 940	Ⅱ-C類	大角-19
Po 108 55 7	B-3-4	突帯文 深鉢	① △ 3.9 ② <b>※</b> 23.6	口縁端部は内傾して直立し丸い。 大きく突起する突帯にきわめて浅 い切り込み状の刻み目をもつ。以 下横方向のナデ。	斜め方向の比較的丁 寧なナデ。	明黄褐色 10YR7/6	オリーブ黒色 5Y3/2	密・良好	1910	Ⅱ-D類	大角-59
Po 109 55 7	C-4-1	突帯文 深鉢	①△ 4.0	口縁端部はやや外反し丸い。大きく突起する突帯にきわめて浅い切り込み状の刻み目をもつ。以下横方向のナデ。	端部付近を強く横に ナデる。以下横方向 の丁寧なナデ。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1~2 mm の石英を含む) ・良好	954	II - D類 胎土分析 No. 7	清水-32
Po 110 55 7	_	突帯文 深鉢	①△ 2.0	□縁端部は直立し外側にやや尖る。 大きく突起する無刻み目突帯をも つ。	端部付近を強く横に ナデる。以下横方向 の丁寧なナデ。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	68	Ⅱ-D類	清水-73



挿図55 黒色土包含層土器実測図(4)

#### **3**. **弥生土器**(中期以降)(挿図51 • 59 • 60 挿表33 • 34 図版10)

壺Po183・184、甕Po185~196が出土した。壷は大きく外反しやや下垂する端面に格子状の文様をもつ。甕はいわゆる逆L字状の口縁部である。これらは概ね弥生時代中期後半のものと考えられる。また後期の土器Po198も出土している。後期はわずかであるが、中期の土器は全体の9.4%にのぼる。C-3-1・4、C-4-2、C-5-1グリッドから多く出土しているが、付近から弥生時代の遺構は検出できなかった。その他、工具による連続刺突文をもつものや赤彩を施すもの、体部片に穿孔する紡錘車の可能性があるものなどが出土した。

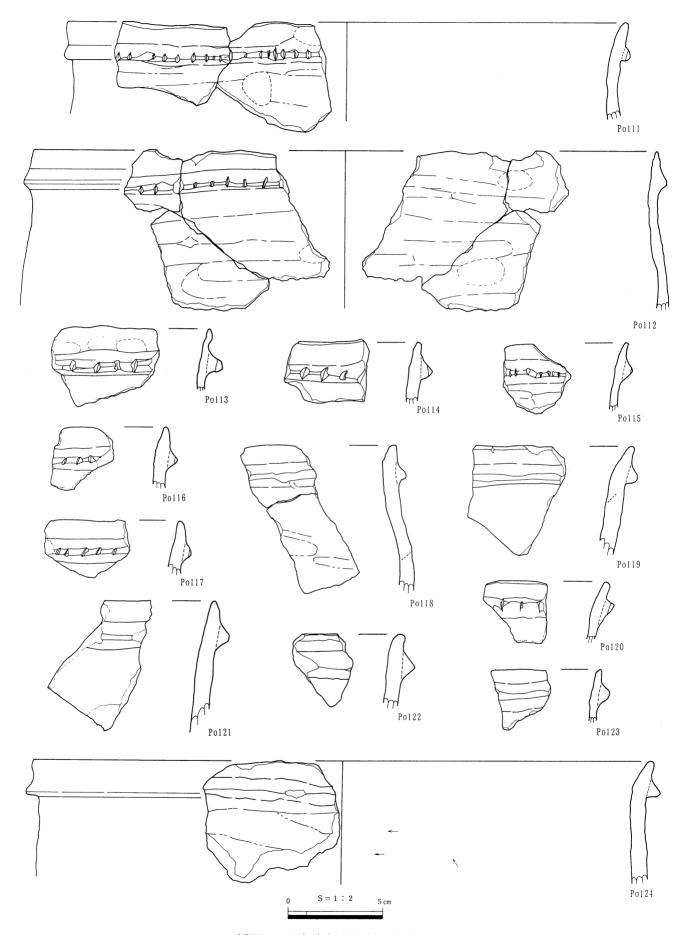
#### 4. その他の土器 (挿図51・61 挿表33・34 図版12)

須恵器が2点出土している。いずれも体部片で外面はタタキ、内面には当て具痕が残る。一括出土を加えても3点のみである。古墳時代の土師器類は出土していない。また古代から中世・近世前半まで遺物は全く出土していない。

近世後半以降の土器陶磁器は19点出土した。この中にはPo216・217のような近世土師器の灯明皿も含んでいる。 灯明皿はこの他Po218のような施釉陶器のものも出土した。中央に重ね焼きの砂が付着する。

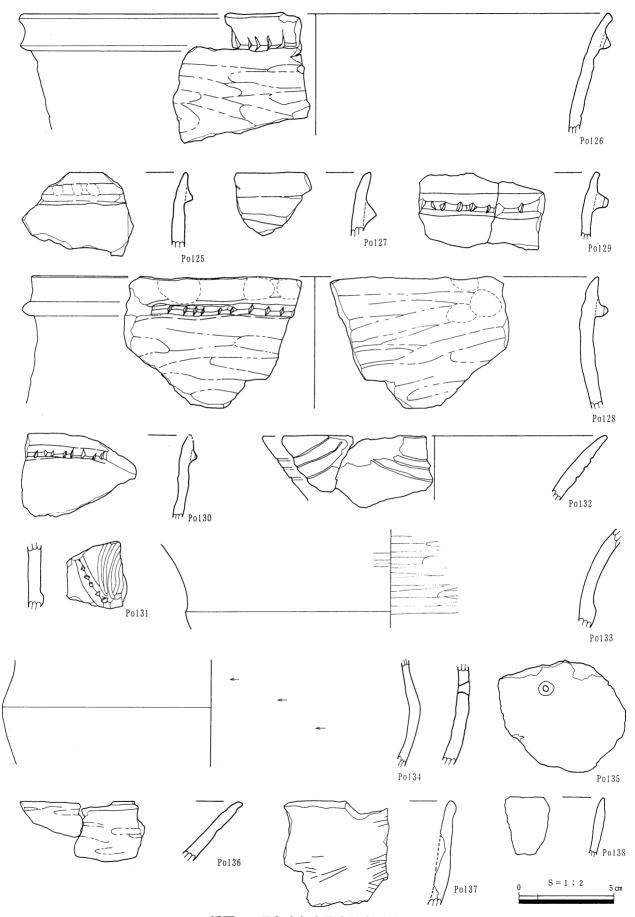
この他の陶器は、胎土が灰色で陶器質のPo222・223が肥前で18世紀頃。Po219は産地不明。Po220・221はいず

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 111 56 8	F-4-2 (Ⅱ⊠) B-4-2	突帯文 深鉢	① △ 5.8 ② <b>※</b> 29.4	口縁端部はやや外反し丸い。わず かに波状口縁気味。半円形の突帯 に深いV字状の刻み目をもつ。以 下斜め方向のナデ。薄く煤付着。	端部付近を横にナデ る。以下横方向のナ デ。指頭圧痕あり。	にぶい橙色 7.5R6/4	にぶい橙色 7.5R6/4	密(1 mm前後 の石英を含む) ・良好	56 1214	Ⅲ-A類	清水-24
Po 112 56 8	B-4-2	突帯文 深鉢	① △ 8.5 ②※32.8	口縁端部は直立しやや尖る。半円 形の突帯に深いV字状の刻み目を もつ。以下横方向のナデ。	横または斜め方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/3~ 赤褐色 5YR4/6	にぶい黄褐色 10YR5/4	密(1~2 mm の石英を多く 含む雲母有) ・良好	1185 1213 1617	Ⅲ — A類 胎土分析 No.22	清水-23
Po 113 56 8	C-2-4	突帯文 深鉢	① △ 3.3	口縁端部は直立し丸い。半円形の 突帯にV字状の刻み目をもつ。突 帯の上側には指頭圧痕が顕著にみ られる。以下横方向のナデか。	横方向の粗いナデ。 条痕後ナデか。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(1~2 mm の砂粒を多く 含む)・良好	1070	Ⅲ-A類	清水-64
Po 114 56 8	C-4-1	突帯文 深鉢	① △ 3.2	口縁端部は直立し丸い。三角形~ 半円形の突帯にV字状の刻み目を もつ。やや波状口縁気味。以下横 方向のナデ。	横方向の粗いナデ。	にぶい赤褐色 5YR4/4	にぶい赤褐色 5YR4/3	密(1 mm大の 砂粒を多く含 む)・良好	955	Ⅲ — A類 胎土分析 No. 1	清水-37
Po 115 56 8	_	突帯文深鉢	① △ 3.5	口縁端部は外傾し丸い。半円形の 突帯に浅い切り込み状の刻み目を 施す。器壁は4mm程度で薄い。以 下横方向のナデ。	横方向の条痕。	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい赤褐色 5YR5 / 4 ~ 灰褐色 7.5YR4/2	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良好	215	Ⅲ-A類	清水-81
Po 116 56 8	_	突帯文 深鉢	① △ 3.2	口縁端部は直立し丸い。半円形の 突帯に浅いV字状の刻み目を施す。	端部付近を横にナデ る。以下横方向の条 痕。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	密(1~2 mm の石英を多く 含む)・良	1618	Ⅲ-A類	清水-80
Po 117 56 8	_	突帯文 深鉢	① △ 2.9	口縁端部は直立しやや尖る。半円 形の突帯に浅いV字状の刻み目を 斜めに施す。	横方向の条痕。	明 <b>黄褐色</b> 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密(1~2 mm 前後の石英を 含む)・良好	67	Ⅲ-A類	清水-68
Po 118 56 8	C-4-3	突帯文 深鉢	① △ 7.7	口縁端部は直立し丸い。半円形の 無刻み目突帯をもつ。以下横方向 の粗いナデ。	端部付近を強く横に ナデる。以下横方向 の粗いナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	密・良好	508	Ⅲ-A類	清水-65
Po 119 56 8	C-4-3	突带文 深鉢	① △ 5.8	口縁端部はやや外反し丸い。半円 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向の粗いナデ。	端部付近を強く横に ナデる。以下横方向 の粗いナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(1~2 mm 大の石英を多 く含む)・良	20	Ⅲ-A類	清水-31
Po 120 56 8	C-5-4	突帯文 深鉢	① △ 3.1	口縁端部は外傾し丸い。三角形の 突帯に深い切り込み状の刻み目を もつ。以下横方向の粗いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向のナ デ。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密•良好	797	Ⅲ-B類	大角-46
Po 121 56 8	C-2-2	突帯文 深鉢	① △ 6.7	口縁端部は直立し丸い。三角形の 無刻み目突帯をもつ。以下横また は斜め方向の条痕。	横方向の条痕。	浅黄橙色 10YR8/3~ 8/4	浅黄橙色 10YR8/3~ 8/4	密(1 mm前後 の石英を含む) ・良好	1596	Ⅲ-B類 胎土分析 No.3	清水-39
Po 122 56	_	突帯文 深鉢	① △ 3.8	口縁端部は直立し丸い。三角形の やや鋭い無刻み目突帯をもつ。	横方向の条痕。	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(2~4 mm の石英を含む) ・良好	413	ш−В類	大角-35
Po 123 56 8	_	突帯文 深鉢	① △ 2.7	口縁端部は外傾しやや尖る。三角 形の無刻み目突帯をもつ。器壁は 5 mm程度で薄い。突帯下側以下に 煤付着。	横方向の粗いナデ。	橙色 5YR7/8	にぶい黄橙色 10YR6/4	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良好	413	ш−В類	清水-75
Po 124 56 8	D-4-1	突帯文 深鉢	① △ 6.6 ② ※32.6	口緑端部は外反しやや尖る。三角 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向の比較的丁寧なナデ。	端部付近を強く横に ナデる。以下横方 向の比較的丁寧なナ デ。	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR7/4	密・良好	1535	Ⅲ-B類	大角-18



挿図56 黒色土包含層土器実測図(5)

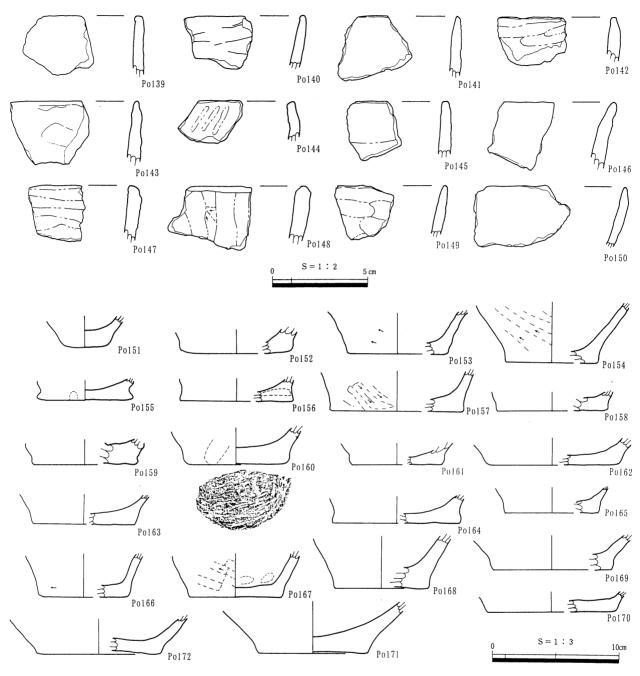
遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法量(㎝)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 125 57 8	C-2-2	突帯文 深鉢	① △ 3.9	口縁端部はやや外傾し尖る。三角 形の無刻み目突帯をもつ。以下横 方向の丁寧なナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向のナ デ。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密(1~2 mm 大の石英を含 む)・良	743	Ⅲ-B類 胎土分析 No.9	清水-51
Po 126 57 8	C-3-2	突帯文 深鉢	① △ 6.9 ② <b>※</b> 30.6	口縁端部は外傾し丸い。下さがり 〜三角形の突帯に切り込み状の深 い刻み目を施す。以下横方向の粗 いナデ。	端部付近を横にナデ る。以下横方向のナ デ。指頭圧痕あり。	橙色 7.5YR6/6	灰黄褐色 10YR4/2	密(1~2 mm 大の石英を多 く含む)・良 好	724	Ⅲ-C類 胎土分析 No.20	清水-28
Po 127 57 8	B-5-2	突帯文 深鉢	① △ 3.3	口縁端部は外反し丸い。下さがり 〜三角形の無刻み目突帯をもつ。	端部付近を横にナデ る。以下不定方向の ナデ。	浅黄色 2.5Y7/4	浅黄色 2.5Y7/4	密(1~2 mm 石英を含む) ・良好	889	Ⅲ-C類	清水-34
Po 128 57 8	B-4-1	突帯文 深鉢	① △ 7.0 ② ※30.0	口縁端部は外反しやや尖る。大きく突起する突帯に切り込み状の刻 み目を施す。以下横方向のケズリ 状のナデ。体部~口縁端部に煤付 着。	横方向のケズリ状の ナデを交互にする。	明赤褐色 5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR4/4	密・良好	39	Ⅲ-D類	清水-22
Po 129 57 8	B-4-2	突帯文 深鉢	① △ 3.4	口縁端部は外反しやや尖る。大き く突起する突帯にV字状の刻み目 を施す。以下横方向のナデ。	横方向の条痕。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1~2 mm の石英を多く 含む)・良好	405 1332	Ⅲ-D類	清水-43
Po 130 57 8	C-3-1	突帯文 深鉢	① △ 4.3	口縁端部は外傾しやや尖る。半円 形の突帯にV字状の刻み目を施す。 波状口縁か。以下丁寧なナデ。	横方向の条痕かまた は後ナデ。指頭圧痕 あり。	にぶい黄褐色 10YR5/4〜 黒褐色 3/1	にぶい黄褐色 10YR5/4〜 黒褐色 3/1	密・良	1096	胎土分析 No.30	清水-46
Po 131 57 8	_	突帯文の 装飾部か	① △ 3.3	三角形の突帯にV字状の刻み目を施す。突帯を弧状に貼り付け、内側にヘラ描きの直線的な文様を施す。	横方向の丁寧な筋状 のナデ。	灰黄褐色 10YR4/2	黒褐色 10YR3/1	密・良好	215		清水-193
Po 132 57 8	C-3-3 D-3-2	精製浅鉢 もしくは 波状口縁 の深鉢	① △ 3.5 ② <b>※</b> 18.3	口縁端部は外傾し丸い。3本の沈 線を波状に施文する。欠けている 部分が波状か。	横方向のナデ。一部 剥落のため著しい。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	密(1~3 mm 大の石英を多 く含む)・良 好	677 1431		清水-90
Po 133 57 8	C-4-1	精製鉢	① △ 5.3	屈曲部。丁寧な横方向のミガキま たはナデ。	横方向のミガキ。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密・良好	971		清水-127
Po 134 57 8	D-3-1	精製鉢	① △ 5.6	屈曲部上下とも丁寧な横方向のナ デ。	横方向の比較的粗い ナデ。	明黄褐色 2.5Y7/6	明黄褐色 10YR7/6	密・良	649		清水-128
Po 135 57 8	C-2-4	粗製深鉢 体部	① △ 5.2	横方向の比較的丁寧な条痕地に外 面から円孔を穿つ。補修孔か。	横方向の条痕。	明褐色 7.5YR5/6~ 黒褐色 2.5Y3/1	黒色 2.5Y2/1	密(1~2 mm の砂粒を多く 含む)・良好	1072		清水-108
Po 136 57 8	C-2-4 D-3-1	粗製浅鉢 もしくは 波状口縁 の深鉢	① △ 3.2	口縁端部は外傾し丸い。横方向の やや粗いナデ。	横方向の比較的粗いナデ。	明赤褐色 5YR5/6~ 橙色 7.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6~ 褐色 10YR4/4	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	245 642	胎土分析 No.28	清水-53
Po 137 57 8	B-5-3	粗製深鉢	① △ 5.5	口縁端部は外傾し丸い。横または 斜め方向の条痕後一部ナデ。煤付 着。	横方向の粗いナデ施 す。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密(3 mm大の 石英を少量含 む)・良好	870	胎土分析 No.29	清水-40
Po 138 57 8	D-3-1	粗製深鉢	① △ 3.1	口縁端部は外傾しやや尖る。横方 向のナデ。器壁は約5mmで薄い。	横方向のやや粗いナ デ。	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	密(1 mm前後 の石英を含む) ・良好	630		清水-76
Po 139 58 8	_	粗製深鉢	① △ 3.0	口縁端部は直立し丸い。横方向のナデ。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/4	橙色 2.5YR6/8~ 7.5YR7/6	密(2~3 mm の砂粒を含む) ・良好	64		清水-74
Po 140 58 8	D-3-2	粗製深鉢	① △ 2.7	口縁端部はわずかに内湾し丸い。 横方向のナデ。	剥落のため不明。	明褐色 7.5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密・良好	652		清水-77
Po 141 58 8	B-3-3	粗製深鉢	① △ 3.1	口縁端部は直立し丸い。横方向のナデ。	縦または横方向のナ デ。	にぶい黄褐色 10YR5/4	にぶい黄褐色 10YR5/4	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	279		大角-44
Po 142 58 8	B-5-3	粗製深鉢	① △ 2.3	口縁端部は直立し丸い。ごくわず かに波状。横方向のナデ。一部に 煤付着。	横方向のナデ。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	384		清水-78
Po 143 58 8	B-5-2	粗製深鉢	① △ 3.2	口縁端部は直立し丸い。縦方向の 条痕後横方向のナデか。指頭圧痕 あり。煤付着。	横方向のナデ。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1~2 mm 大の砂粒を含 む)・良好	824		清水-38
Po 144 58	_	粗製深鉢	① △ 2.0	口縁端部はわずかに内傾し丸い。 ナデか。	剥落のため不明。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	密・良好	413		大角-42
Po 145 58 8	D-3-2	粗製深鉢	① △ 3.1	口縁端部は直立し丸い。横方向の 比較的粗いナデ。	横または縦方向のナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	589		大角-41
Po 146 58 8	C-1-3	粗製深鉢	① △ 3.5	口縁端部はわずかに外反し丸い。 横方向のナデ。	横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/4~ 6/3	橙色 7.5YR6/6~ 6/8	密(1~2mmの 石英、5mm大の 礫有)・良好	320		清水-45
Po 147 58 8	B-5-2	粗製深鉢	① △ 2.9	□縁端部はわずかに内湾し丸い。 横方向の粗いナデ。	横方向の粗いナデ。	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	密(1~5 mm の砂粒を多く 含む)・良好	1374		清水-83
Po 148 58 8	D-5-4	粗製深鉢	① △ 2.9	口縁端部はわずかに外傾し丸い。 横方向のナデ後縦方向のナデ。	端部付近面取り状に ナデる。以下横方向 のナデ。	黄灰色 2.5Y4/1~ 浅黄色 7/3	橙色 7.5YR7/6	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良好	438		清水-72



挿図57 黒色土包含層土器実測図(6)

## 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

遺物番号 重図番号 図版番号	遺構名	種 類 器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土•焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 149 58 8	_	粗製深鉢	① △ 2.6	口縁端部はわずかに外傾し丸い。 横方向の比較的粗いナデ。	斜め方向のナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	密・良好	365		大角-49
Po 150 58 8	D-4-1	粗製鉢	① △ 3.2	口縁端部はわずかに内湾し丸い。 縦または横方向の丁寧なナデ。	斜めまたは横方向の ナデ。口縁端部に少 量の炭化物付着。	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい <b>褐色</b> 7.5YR5/3	密・良好	416		大角-47
Po 151 58 9	B-5-3	底部	① △ 2.5 ③ ※ 3.2	接地面付近が外にふくらむ不安定 な平底。立ち上がり付近は斜め方 向のナデか。	。立ち上がり付近は斜め方 5Y6/2 2.5Y6/3 の石英を含む)		850		清水-21		
Po 152 58 9	_	底部	① △ 1.9 ③ ※ 7.4	接地面付近がわずかに外方向に張 り出す不安定な平底。底面は不 定方向、立ち上がりは横方向のナ デ。	す不安定な平底。底面は不 10YR6/2 5YR6/6		8	胎土分析 No.42	大角-17		
Po 153 58 9	C-4-1	底部	① △ 3.4 ③ ※ 8.0	接地面付近がわずかに外に張り出 す平底。立ち上がりは横方向のナ デ。底面~立ち上がりに煤付着。	底面は1方向、立ち 上がりは斜め方向の ナデか。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密(1 mm前後 の石英を多く 含む)・良	970		清水-12
Po 154 58 9	B-5-2 B-5-3	底部	① △ 4.8 ③ ※ 7.2	接地面付近がわずかに外に張り出 す不安定な平底。立ち上がりは横 または斜め方向のナデが連続する。	立ち上がりは横また は斜め方向の粗いナ デ。	褐色 7.5YR4/3	明赤褐色 5YR5/6	密(1~3 mm 大の石英を多 く含む)・良	839 873 874		清水-5
Po 155 58 9	C-4-1	底部	① △ 1.7 ③ ※ 7.6	接地面付近が大きく外に張り出す 平底。底面は不定方向のナデ。	底面は不定方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR6/3	密・良好	28		大角-9
Po 156 58 9	B-4-2	底部	① △ 1.8 ③ ※ 9.0	接地面付近が大きく外に張り出す 平底。底面は不定方向のナデ。	底面は不定方向のナデ。	褐灰色 7.5YR5/1	橙色 5YR7/6	密・良好	1181 1521		清水-15
Po 157 58 9	C-3-2	底部	① △ 3.2 ③ ※10.6	接地面付近がやや外側に張り出す 平底。底面は不定方向のナデ。立 ち上がりは斜め方向の粗いナデ。	底面は不定方向、立 ち上がりは斜め方向 のナデ。立ち上がり に炭化物付着。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密(2~3 mm 大の石英をわ ずかに含む)・ 良	31		清水-17
Po 158 58	B-3-3	底部	① △ 1.5 ③ ※ 8.6	接地面付近がやや外に張り出す平 底。底面は不定方向のナデ。	剥落のため不明。	にぶい黄橙色 10YR5/4	橙色 7.5YR7/6	密・良好	1176		大角-13
Po 159 58 9	C-4-2	底部	① △ 2.0 ③ ※ 8.2	接地面付近が外に張り出す平底。 底面は不定方向、立ち上がりは横 方向のナデ。	底面は斜め方向のナデ。	にぶい褐色 7.5YR6/3	明黄褐色 10YR7/6	密・良好	1585		大角-12
Po 160 58 9	_	底部	① △ 2.9 ③ ※ 7.7	接地面付近がほぼ直立する平底。 底面は1方向の引っ掻き状の痕あ り。立ち上がりは横方向のナデ。 指頭圧痕がみられる。底面および 立ち上がりに煤付着。	底面は1方向、立ち 上がりは横方向の粗 いナデ。	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	密(石英、輝 石を含む)・ 良好	18	胎土分析 No.45	清水-3
Po 161 58 9	C-3-2	底部	① △ 1.7 ③ ※ 7.2	接地面付近が張り出す平底。底面 は不定方向、立ち上がりは横方向 のナデを施す。	底面は不定方向のナデ。	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	密・良好	702	胎土分析 No.40	大角-5
Po 162 58	C-1-3	底部	① △ 2.2 ③ ※10.2	接地面付近がわずかに張り出す平 底。底面は不定方向、立ち上がり は横方向のナデ。	底面~立ち上がりに かけて不定方向のナ デ。	橙色 2.5YR7/6	橙色 2.5YR7/6	密(1~3 mm の石英を含む) ・良好	768		清水-20
Po 163 58	C-3-1	底部	① △ 2.4 ③ ※ 8.0	接地面付近が外傾する平底。底面 は剥落のため不明、立ち上がりは 縦方向のナデ。	底面~立ち上がりに かけて1方向のナデ。	にぶい橙色 7.5YR7/3	赤橙色がかっ た明黄褐色 10YR7/6	密•良好	1092		大角-7
Po 164 58 9	C-3-3	底部	① △ 2.2 ③ ※10.0	接地面付近がやや外側に張り出す 平底。底面は不定方向のナデ。立 ち上がりは斜めまたは横方向のナ デ。	底面~立ち上がりは 1方向のナデ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密・良好	180		大角-4
Po 165 58	B-2-2	底部	① △ 2.1 ③ ※ 7.4	接地面付近がほぼ直立する平底。 底面は不定方向のナデ。立ち上が りは斜め方向のナデか。	剥落のため不明。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密・良好	232		大角-16
Po 166 58 9	C-4-1	底部	① △ 3.5 ③ ※ 7.0	接地面付近が外傾する平底。底面 は不定方向のナデ。立ち上がりは 斜め方向のナデ。	底面は不定方向、立 ち上がりは斜め方向 の粗いナデ。		橙色 2.5YR7/6	密(1~2 mm の石英を含む) ・良	950		清水-9
Po 167 58 9	C-4-1 C-4-3	底部	① △ 3.5 ③ 7.2	接地面付近が外傾する平底。底面 は不定方向のナデ。立ち上がりは 斜め方向の比較的粗いナデ。底面 および立ち上がりに煤付着。	底面は不定方向、立 ち上がりは斜め方向 のナデ。		橙色 2.5YR6/6	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	27 496	胎土分析 No.43	清水-4
Po 168 58 9	C-2-1	底部	① △ 4.2 ③ ※ 7.2	接地面付近がほぼ直立する平底。 底面は不定方向のナデ。立ち上が りは横方向のナデ。	立ち上がりは縦方向のナデ。	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	密(3 mm前後 の石英を多く 含む)・良	1018 1602	胎土分析 No.44	清水-6
Po 169 58	C-4-2	底部	① △ 2.8 ③ ※ 9.3	接地面付近がわずかに突出する平 底。立ち上がりは斜め方向のナデ。	立ち上がりは縦または斜め方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	密(1~2 mm の石英を多く 含む2 mm大の 雲母有)・良	529		清水-16
Po 170	D-3-1	底部	① △ 1.7 ③ ※10.2	接地面付近が外傾する平底。立ち 上がりは横方向のナデか。	底面は不定方向のナデ。	橙色 5YR6/8	明黄褐色 10YR7/6	密(1~2 mm の石英を含む)	620		清水-13

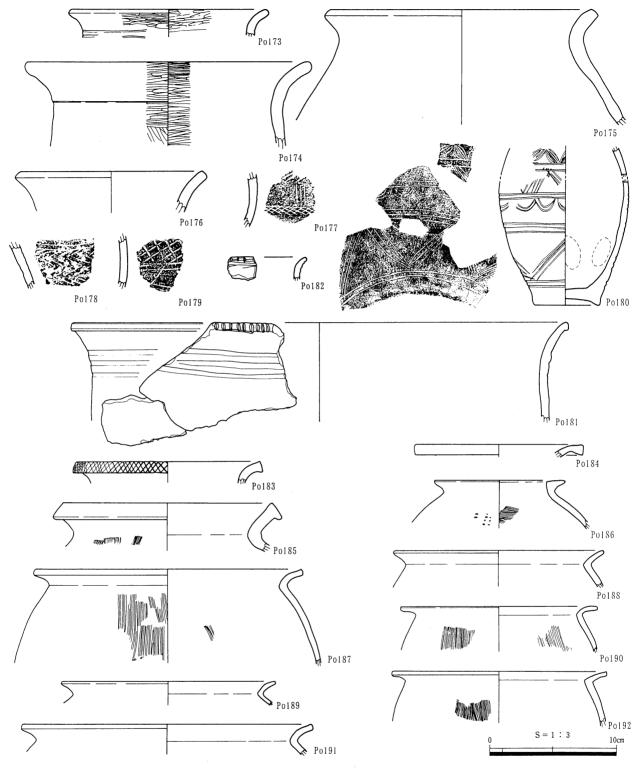


插図58 黒色土包含層土器実測図(7)

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名		類種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 171- 58 9	B-4-2	底部		① △ 4.1 ③ 8.4	接地面付近が外傾する平底。円盤 状の底部に積み上げる。立ち上が りは緩やかである。底面は不定方 向のナデ。指頭圧痕。立ち上がり は縦方向のナデまたは横方向のき ガキ。	底面~立ち上がりに かけて不定方向のナ デか。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1~4 mm の石英を多く 含む)・良	993 1517 1519		清水-2
Po 172 58	C-4-3	底部		① △ 2.8 ③ ※ 9.8	接地面付近がわずかに張り出す平 底。立ち上がりは緩やかである。 底面は不定方向のナデ。指頭圧痕。 立ち上がりは横方向のナデ。	底面~立ち上がりに かけて不定方向のナ デ。立ち上がり付近 に煤付着。	明 <b>黄褐色</b> 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	やや密(2~ 3 mm大の石英 を多く含む)・ 良	509	胎土分析 No.41	清水-8

れも肥前とみられる。Po220の内底には菱形の釉切れがあり、重ね焼きの台の痕跡と考えられる。磁器はいずれも染め付けで、Po224は胎土は良いが発色が青黒い。絵付けも大まかである。 $Po225 \cdot 226$ はいずれも肥前で $18 \sim$ 

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 173 59 9	B-5-1	弥生前期 壺	① △ 2.2 ② <b>※</b> 15.2	口縁端部は外反し丸い。口縁部に 横方向の密なミガキ、頸部に2本 以上の横方向の沈線を施す。	横方向の密なミガキ。	明赤褐色 2.5YR5/8	橙色 7.5YR6/8~ にぶい黄橙色 10YR7/4	密(1~2 mm の砂粒を含む) ・良好	840	遠賀川系	清水-91
Po 174 59 9	C-3-2	弥生前期 壺	① △ 6.7 ② ※22.0	口縁部は外反し丸い。肩部にミガ キによる下側の低い段をもつ。横 方向の粗いミガキ。	横方向の比較的粗い ミガキ。	橙色 7.5YR6/6~ 褐灰色 4/1	橙色 7.5YR6/6~ 褐灰色 4/1	密・良好	707	遠賀川系 胎土分析 No.33	大角-31
Po 175 59 9	C-3-3 C-3-1 C-3-2	弥生前期 壺	① △ 9.2 ② ※20.6	口縁部は外反し角張る。肩部に段 はもたない。口縁部横、肩部斜め 方向のナデ。	ナデか。剥落のため 不明。	橙色 7.5YR7/6	明赤褐色 5YR5/6	密(1 mm前後 の砂粒を多く 含む)・良	694 1113 1929	遠賀川系 胎土分析 No.36	清水-92
Po 176 59	D-3-3	弥生前期 壺	① △ 3.3 ② <b>※</b> 14.4	口縁部は外反しやや角張る。横方向のナデか。	横方向のミガキか。	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	密・良好	570	遠賀川系 胎土分析 No.35	大角-30
Po 177 59 9	C-5-2	弥生前期 壺体部	① △ 4.1	横方向のナデ。縦・横方向の沈線 と斜格子文を施す。	横方向のナデか。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密(1~2 mm 大の石英を含 む)・良好	450	遠賀川系	清水-110
Po 178 59 9	C-4-2	弥生前期 壺体部	① △ 3.5	2 本以上の沈線の下に綾杉文を施 す。	斜め方向のナデか。	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	密(1 mm大の 石英を多く含 む)・良	1341	遠賀川系	清水-103
Po 179 59 9	C-4-3	弥生前期 壺	① △ 3.1	2本以上の沈線の下に斜格子文、 さらに上に1本以上の沈線あり。 間に斜めの線が入る。	横方向のナデか。	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	密・良	512	遠賀川系	清水-154
Po 180 59 10	C-5-2	弥生前期 壺	① △12.5 ③ 5.0	接地面付近はわずかに張り出す。 上げ底で、体部は丁寧なミガキ。 上から2条・2条・3条・2条の 4段の横方向の沈線の間に2本線 の連続する重弧文、3本線の鋸歯 状文などを描く。上の沈線上部に 有軸の木葉文を描く。	不定方向のナデ。体 部下半には指頭圧痕 が顕著にみられる。	にぶい黄橙色 10YR6/4	明黄褐色 10YR6/6~ 赤褐色 2.5YR4/6~ 黒色 5Y2/1	密(1 mm以下 の砂粒を含む) ・良	271 364	遠賀川系 胎土分析 No.31	清水-192
Po 181 59 9	C-4-1	弥生前期 甕	① △ 7.9 ② <b>※</b> 38.8	口縁部は緩かに外反し、面をもつ。 面には縦方向の刻み目を施す。横 方向に幅広の沈線を3本施す。調 整はナデか。外面全体に煤付着。	不定方向のナデ。指 頭圧痕あり。口縁部 付近に煤付着。	橙色 7.5YR6/6	明赤褐色 5YR3/4	密(1~2 mm 大の砂粒を多 く含む)・良 好	951 952	遠賀川系 胎土分析 No.32	清水-27
Po 182 59 9	_	弥生前期 甕	① △ 1.8	□縁部は緩やかに外反し丸くおわる。端部に浅いV字状の刻み目を施す。以下横方向の条痕またはナデか。	横方向のナデか。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	密(1 mm大の 砂粒を含む)・ 良好	68	遠賀川系	清水-105
Po 183 59 10	C-3-1	弥生中期 壺	① △ 1.7 ② ※14.4	口縁部が大きく外反し面をもつ。 面には単線による斜格子文を施す。 頸部は横方向のナデか。	口縁部横方向、頸部 縦方向のナデ。	浅黄色 2.5Y7/4	浅黄色 2.5Y7/4	密・良	1103		清水-97
Po 184 59 10	D-5-1	弥生中期 壺	① △ 1.0 ② ※13.4	口縁部が大きく外反し面をもつ。 面には単線による斜格子文がわず かにみられる。頸部は横方向のナ デか。	口縁部横方向のナデ。	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	密•良好	427		清水-102
Po 185 59 10	C-3-4	弥生中期 甕	① △ 3.8 ② ※16.4	口縁部は外側に屈曲し端部は拡張 する。口縁部は横方向のナデ、頸 部下には縦ハケ目が残る。	口縁部横方向のナデ、 屈曲部以下ケズリ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密•良好	1137		清水-93
Po 186 59 10	C-4-1 C-3-4	弥生中期 甕	① △ 3.8 ② ※10.4	頸部から屈曲し水平方向に広い面 をもつ。口縁部~肩部横方向のナ デ。	口縁部〜頸部横方向 のナデ。以下横方向 のハケ目。	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄褐色 10YR6/3	密•良好	946 1138		大角-29
Po 187 59 10	D-3-3	弥生中期 <b>甕</b>	① △ 7.5 ② ※21.2	口縁部は逆上字状に屈曲し、端部 はやや平坦面をもつ。口縁部横方 向のナデ。屈曲部以下緩方向のハ ケ目。最大径上にわずかに刺突文。	口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下縦方向の ハケ目か。剥落のた め不明。	黄橙色 10YR8/6	黄橙色 10YR8/6	密・良	12 60		清水-88
Po 188 59	C-5-1	弥生中期 甕	① △ 2.9 ② ※16.4	口縁部は逆L字状に屈曲し丸くおわる。口縁部横方向のナデ。屈曲部以下縦方向のハケ目か。	口縁部〜屈曲部以下 横方向のナデ。	にぶい黄橙色 10YR6/4~ 7/4	にぶい黄橙色 10YR6/4~ 7/4	密•良好	783		清水-100
Po 189 59	C-3-1	弥生中期 甕	① △ 1.9 ② ※17.8		口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下斜め方向 のハケ目か。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密・良好	1117		清水-98
Po 190 59	C-3-1	弥生中期 <b>甕</b>	① △ 3.6 ② ※15.4		口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下斜め方向 のハケ目。	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	密•良好	1088		大角-53
Po 191 59 10	C-5-1	弥生中期 <b>甕</b>	① △ 2.4 ② ※22.6		口縁部〜屈曲部以下 横方向のナデ。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密・良好	776		清水-95
Po 192 59 10	C-3-4	弥生中期 <b>甕</b>	① △ 4.2 ② ※17.0		口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下ケズリ後 横方向のナデ。	黒褐色 10YR3/1	黒褐色 10YR3/1	密(1 mm程度 の砂粒を含む) ・良好	1135		大角-54



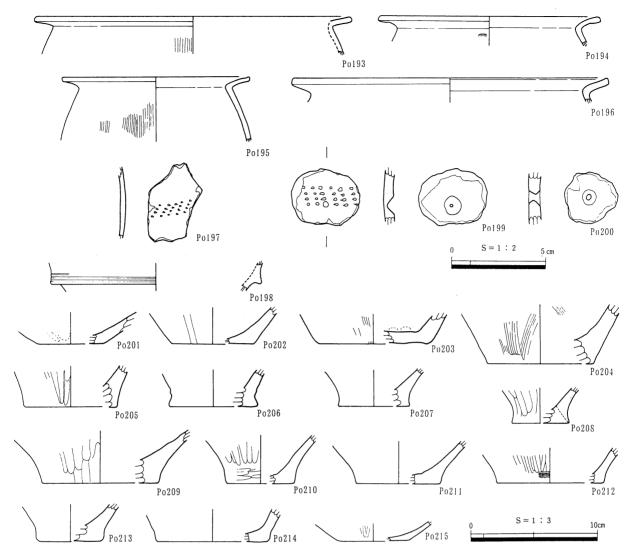
插図59 黒色土包含層土器実測図(8)

19世紀頃と考えられる。またPo228は陶器摺鉢で石見付近産の可能性がある。遺構外遺物と合わせてみても概ね 18世紀頃のものが最も多くみられる。また摺鉢類は棚田の盛土の下から出土していることから $18\sim19$ 世紀頃に付近の棚田は開発されたことが予想できる。

鉄製品は鉄釘が出土しているが図化できなかった。その他鉄滓も若干含まれ、分析の結果たたら生産による可能性が高いとの結果を得た。結果については考察に「上菅荒神原遺跡鉄滓分析」として掲載されている。たたらがいつ開始されたかは明らかではないが、陶磁器類は18~19世紀のものがわずかではあるがみられることから、棚田の開発とともにたたら生産が近世後半から付近の主な産業として発展したのであろう。

## 第3章 上菅荒神原遺跡の調査

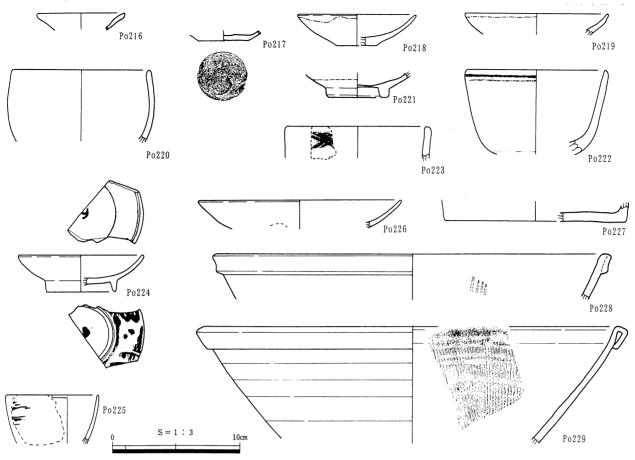
遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種類器種	法量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土•焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 193 60	C-2-4	弥生中期 甕	① △ 3.0 ② ※24.6	口縁部は逆L字状に屈曲し、端部 に面あり。口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下縦方向のハケ目痕。	口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下剥落のた め不明。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密・やや不良	50		清水-104
Po 194 60 10	C-4-2	弥生中期 甕	① △ 2.3 ② ※17.2	口縁部は逆L字状に屈曲しやや丸 く肥厚。口縁部横方向のナデ。屈 曲部以下縦方向のハケ目痕。	口縁部〜屈曲部以下 横方向のナデ。	浅黄色 2.5Y7/3	橙色 7.5YR7/6	密•良	527		清水-99
Po 195 60 10	B-3-2	弥生中期 甕	① △ 5.1 ② ※14.8	口縁部は逆L字状に屈曲しやや上 に拡張する。口縁部横方向のナデ。 屈曲部以下縦方向のハケ目。	口縁部〜屈曲部以下 横方向のナデ。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密•良好	1149		清水-96
Po 196 60 10	C-5-1	弥生中期 <b>甕</b>	① △ 1.8 ② ※24.6	口縁部は逆L字状に屈曲しやや上 に拡張する。口縁部横方向のナデ。	口縁部〜屈曲部以下 横方向のナデ。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密・良好	787		清水-94
Po 197 60	C-3-1	弥生体部	① △ 5.7	横方向のナデの上から4個1組の 刺突文を体部に対し斜めに施す。	縦方向のハケ目後ナ デ。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	密・良	1078		大角-48
Po 198 60 10	_	弥生後期 甕	① △ 2.3	複合口縁に6条以上の平行線を施 す。突出部以下は横方向のナデか。	剥落のため不明。	にぶい黄褐色 10YR5/4	暗褐色 10YR3/3	密(1 mm前後 の砂粒を含む) ・良好	215		清水-101
Po 199 60 10	D-3-1	弥生体部	⑤ △ 2.9 ⑥ △ 3.7	横方向のナデ後4個1組の刺突文 を体部に対し斜めに施す。中央付 近に内面から穿孔を試みた痕。	ナデか。	明黄褐色 10YR6/6	明黄褐色 10YR6/6	密•良	119		清水-106
Po 200 60 10	D-2-3	紡錘車か	⑤ △ 2.7 ⑥ △ 2.8	比較的円形に近い。両面から穿孔 するが、中心がややずれている。	横方向のハケ目か。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密•良	657		清水-109
Po 201 60 10	C-3-3	弥生底部	① △ 2.5 ② ※ 5.6	立ち上がりは縦方向のミガキ後ナ デ。指頭圧痕あり。	底面~立ち上がりに かけ不定方向のナデ か。	灰色 5Y5/1	灰~浅黄橙色 5Y6/1~ 10YR8/3	密・良好	671		大角-15
Po 202 60 10	C-3-4	弥生底部	① △ 2.9 ③ <b>※</b> 6.4	底面ナデ。立ち上がりは縦方向の ミガキ後ナデ。	底面~立ち上がりに かけ縦方向のナデか。	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	密・良	1131		清水-1
Po 203 60 10	D-4-1	弥生底部	① △ 2.3 ③ ※10.0	底面ナデ。立ち上がりは縦方向の ハケ目後ナデ。	底面~立ち上がりに かけ指頭圧痕が顕著。	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	密(1~4mmの 石英を含む) ・良	420		清水-11
Po 204 60 10	C-6-1	弥生底部	① △ 4.7 ③ ※ 8.4	底面ナデ。立ち上がりは縦方向の ハケ目。	立ち上がりに縦方向 のハケ目。	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	密(1~2mm大 の石英を含む) ・良	1387		清水-7
Po 205 60 10	C-5-2	弥生底部	① △ 3.3 ③ ※ 7.2	底面ナデ。立ち上がりは幅広の縦 ミガキ。	立ち上がりは横方向 のナデ。	黄橙色 10YR8/6	褐灰色 10YR4/1	密・良好	485		大角-1
Po 206 60 10	C-3-2	底部	① △ 2.9 ③ ※ 7.2	接地面付近が張り出す平底。底面ナデ。立ち上がりは横方向のナデ。	立ち上がりは横方向 のナデ。	褐灰色 5YR5/1	黄橙~黒褐色 7.5YR7/6~ 5YR3/1	密•良好	703		大角-6
Po 207 60 10	D-4-1	弥生底部	① △ 3.0 ③ ※ 5.6	接地面付近がわずか内傾する。立 ち上がりは縦ハケ目後横方向のナ デか。	立ち上がりは横方向 のナデ。	褐灰色 5YR5/1	にぶい橙色 7.5YR7/3	密(0.5~1 mm 大の砂粒を含 む)・良好	97		清水-14
Po 208 60 10	C-3-4	弥生底部	① △ 2.8 ③ ※ 4.6	接地面付近がやや内傾する平底。 立ち上がりは幅広の縦方向のミガ キ。	立ち上がりは斜め方 向のナデ。	褐灰色 10YR5/1	浅黄橙色 10YR8/3	密(1~4 mmの 石英を含む) ・良	1177		清水-18
Po 209 60 10	C-3-2	弥生底部	① △ 4.2 ③ ※ 9.0	底面ナデ。立ち上がりは幅広の縦 ミガキ。	剥落のため不明。	褐灰色 10YR6/1~ 浅黄橙色8/3	黄橙色 10YR8/6	密•良好	1478		大角-3
Po 210 60 10	C-5-1	弥生底部	① △ 3.8 ③ ※ 5.2	立ち上がりは幅広の縦ミガキ。接 地面付近は密な横方向のミガキ。	立ち上がりは縦方向 のハケ目後丁寧なナ デ。	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	密•良好	795		大角-2
Po 211 60 10	B-2-3	弥生底部	① △ 3.4 ③ ※ 6.6	底面ナデ。立ち上がりは縦方向の ミガキ後横方向のナデ。	立ち上がりは縦方向 のケズリ後ナデ。	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄橙色 10YR7/2~ 褐灰色5/1	密•良好	1052		大角-8
Po 212 60 10	-	弥生底部	① △ 2.7 ③ ※ 4.2	縦方向のミガキ後接地面付近横方 向のハケ目痕。	立ち上がりは斜め方 向のミガキか。	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 7.5YR5/1	密・良好	68		大角-11
Po 213 60 10	B-4-3	弥生底部	① △ 3.0 ③ ※ 5.0	やや不安定な平底。立ち上がりは 斜めのナデ。	立ち上がりは横方向のナデ。	褐灰色 5YR5/1	橙色 7.5YR7/6	密・良好	905		大角-14
Po 214 60 10	C-3-2	弥生底部	① △ 2.6 ③ ※ 4.3	接地面付近がわずかに張り出す平 底。立ち上がりは横方向のナデ。	底面は不定方向のナ デか。	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	密・良好	310		大角-10
Po 215 60 10	C-2-1	弥生底部	① △ 1.6 ③ ※ 5.6	底面ナデ。立ち上がりは斜めのミガキ。器壁は4~6 mmで薄い。	立ち上がりは横方向 のナデか。剥落のた め不明。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	密・良好	1602		清水-112
Po 216 61 12	_	土師器 灯明皿	① △ 1.4 ② ※ 6.8	口縁部はやや外反して開く。回転 ナデ。厚く煤付着。	回転ナデ。厚く煤付着。	明黄褐色 10YR7/6	明黄褐色 10YR7/6	密・良好	1391	在地	大角-77
Po 217 61 12	C-3-4	土師器 灯明皿	① △ 0.8 ③ 3.9	底面は回転糸切り。 2ヶ所煤付着。	底面は回転ナデ。 2 ヶ所煤付着。	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	密•良好	1124	在地	大角-78
Po 218 61 12	C-4-2	施釉陶器 灯明皿	① 2.5 ② ※ 9.3 ③ ※ 3.2	径の小さな底面から大きく開く。 口縁部のみ鉄釉。以下は露胎。底 面は回転糸切りか。	鉄釉を施す。底面は やや釉が落ちる。重 ね焼きか。	施釉:暗赤褐 色 5YR3/3	露胎:にぶい 黄橙色 10YR7/4	緻密•軟質	540	産地不明 肥前か	大角-57
Po 219 61 12		施釉陶器 皿か	① △ 1.7 ② ※11.4	口縁部は浅く大きく開く。露胎。	緑灰色の釉がかかる。	施釉:オリー ブ灰色 10Y6/2	露胎:灰白色 7.5Y8/1	緻密・軟質	365	産地不明	大角-75



插図60 黒色土包含層土器実測図(9)

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 220 61 12	C-3-3	施釉陶器 碗	① △ 5.7 ② ※10.6	やや短い筒形の体部。体部は内湾 し灰白色の釉。	灰白色の釉に白色粒 が混じる。	釉薬:灰白色 2.5Y7/1	断面:浅黄色 2.5Y7/3	緻密(砂粒を 少量含む)・ 軟質	307	産地不明 肥前か	大角-56
Po 221 61 12	C-4-4	施釉陶器 碗	① △ 3.0 ④ 5.0	高台は比較的高くケズリ出す。底 面は約2mmで非常に薄い。緑灰色 の釉に貫入。高台付近は露胎。	底面に菱形のわずか な釉切れ。トチン痕 か。	施釉:オリー ブ灰色 10Y5/2	露胎:にぶい 褐色 7.5YR5/4	緻密・軟質	22	肥前	大角-58
Po 222 61 12	_	染め付け 碗	① △ 6.7 ② ※11.0	胎土のため青磁状にみえる素地に 口縁部付近2本、底部付近1本以 上の圏線。釉には貫入。陶胎染付。	口縁端部にわずかに 鉄錆付着。	施釉:灰色 10Y6/1	断面:黄灰色 2.5Y6/1	緻密•硬質	1391	肥前	大角-67
Po 223 61 12	_	染め付け碗	① △ 2.5 ② ※11.0	胎土のため青磁状にみえる素地に 横・斜め方向の文様を施す。陶胎 染付。	口縁端部にわずかに 鉄錆付着。貫入あり。	施釉:灰白色 7.5Y7/1	断面:灰色 5Y6/1	緻密•硬質	215	肥前	大角-66
Po 224 61 12	C-5-2	染め付け 皿	① △ 3.0 ② ※ 9.8 ④ ※ 5.5	細く高い高台をケズリ出す。高台 部内面も施釉。口縁部に風景、底 面中央に点の染め付け。	口縁部付近2本、見 込み付近1本の圏線。 底面中央に文様。	施釉:灰白色 10Y8/1	断面:灰白色 10Y8/1	緻密•軟質	448	産地不明 在地か	大角-60
Po 225 61 12	-	染め付け 猪口か	① △ 3.8 ② ※ 7.2	口縁部は直立し尖る。口縁部に風 景の染め付け。	口縁端部付近のみ貫 入あり。	施釉:灰白色 10Y7/1	断面:灰白色 5Y7/1	緻密•硬質	67	肥前	大角-68
Po 226 61 12	Proceed	白磁皿	① △ 3.0	口縁部は内湾し丸くおわる。体部 下半は露胎か。		施釉:明緑灰 色 10GY8/1	断面:灰白色 N8/0	緻密•硬質	1255	肥前	大角-76
Po 227 61 12	C-3-1	施釉陶器 大瓶又は 徳利底部	① △ 1.6 ③ ※14.4	底面はナデ。立ち上がりは横方向 のナデ。立ち上がりおよび底面縁 に薄く施釉する。	底面ナデ。露胎。	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄色 2.5Y7/2	緻密•軟質	1119	産地不明 中国地方	大角-72
Po 228 61 12	C-2-2	施釉陶器 摺鉢	① △ 3.5 ② ※32.0	口縁端部に中央のややくぼむ突起 をめぐらす。釉は薄い。	わずかに摺目の痕あ り。	施釉:黄褐色 2.5Y5/4	断面:にぶい 赤褐色 5YR4/3	緻密・軟質	756	産地不明 中国地方	大角-79
Po 229 61 12	B-2-2	施釉陶器 摺鉢	① △ 9.5 ② ※32.2	口縁部を折り返して貼り付ける。 光沢のある釉を施す。	縦、斜め方向の密な 摺目。	施釉:にぶい 赤褐色 5YR4/3	断面:灰オリ ーブ色 7.5Y6/2	緻密•軟質	1059	近代以降	大角-61

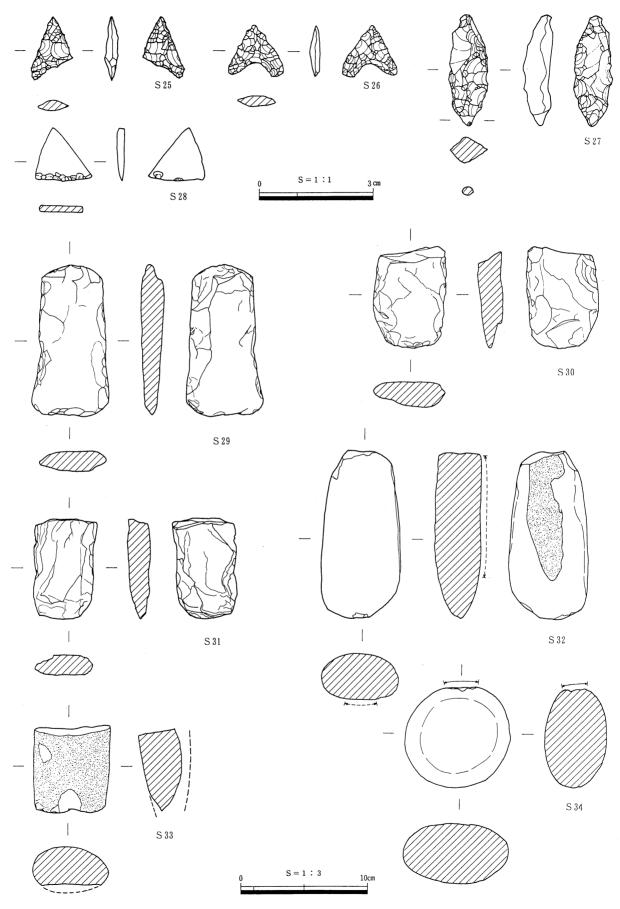
### 第3章 上菅荒神原遺跡の調査



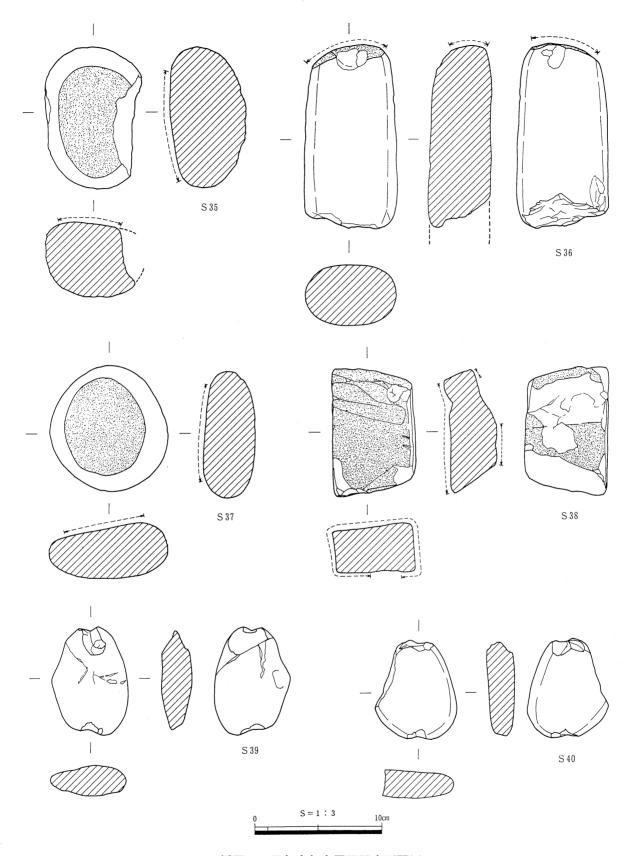
插図61 黒色土包含層土器実測図(10)

# 挿表35 黒色土包含層石器観察表

遺物番号	挿図 番号	図版 番号	遺構名	種 類	法	(cm)	量		形態上の特徴	重	量	石 材	取上No.	実測者No.
S 25	62	11	B-4-1	石鏃	⑤ 1.8	⑥△1.1	7	0.3	抉り長 4 mm/全長18mmで、抉りの深度は0.22、接点間は10mmである。断面はレンズ状で、内外面ともに中央部まで連続する細部調整を施す。	Δ	0.3 g	黒曜石	1331	西川 5
S 26	62	11	B-6-2	石鏃	<b>⑤</b> 1.4	6 1.4	7	0.3	抉り長4㎜/全長14㎜で、抉りの深度は0.29、幅と長さがほぼ同じ長さ。断面はレンズ状で、調整は内外面ともに非連続の細部調整を施す。		0.4 g	黒曜石 隠岐久見産 同定No.2	1515	西川 3
S 27	62	11	C-2-4	石錐	⑤ 2.9	6 1.0	7	0.7	断面は菱形で、先端部に明瞭に磨滅痕が残る。 先端部の断面は楕円形。		1.9 g	黒曜石	1067	西川 2
S 28	62	11	_	加工片	⑤ 1.5	<b>6</b> 1.4	7	0.2	左面の下側に連続する細かな調整痕あり。		0.5 g	安山岩	271	西川1
S 29	62	11	C-4-3	打製石斧	<b>⑤</b> 12.1	6.0	7	1.6	撥形。ほぼ完存。		180 g	半花崗岩(アプライト)	497	清水-124
S 30	62	11	C-2-1	打製石斧	⑤△7.8	6 5.6	7	2.1	短冊形の先端部付近。	Δ	120 g	半花崗岩(アプライト)	1196	清水-126
S 31	62	11	_	打製石斧	⑤△8.0	<b>6</b> 8.0	7	1.8	短冊形の先端部付近。	Δ	120 g	結晶片岩 橄欖石の結晶	215	清水-125
S 32	62	11	D-3-1	磨製石斧	⑤ 13.3	6.3	7	3.7	断面は楕円形を呈す。		508 g	閃緑岩	1505	清水-123
S 33	62	11	C-2-4	磨製石斧	⑤△6.5	⑥ ⋅6.0	7	3.2	太型蛤刃石斧。断面はやや側縁部が細い楕円形。	Δ	225 g	閃緑岩	1063	清水-122
S 34	62	11	D-3-1	敲石又は 磨石	<b>⑤</b> 8.0	6 8.4	7	4.8	2ヶ所に敲き痕。または磨石として使用か。		480 g	閃緑岩	1503	清水-119
S 35	62	11	D-3-3	敲石	<b>⑤</b> 11.2	€△7.6	7	6.0	1ヶ所に敲きによる窪みあり。	Δ	720 g	粗粒黒雲母花崗岩	582	清水-115
S 36	63	11	D-3-2	磨製石斧 又は磨石	⑤△14.7	<b>6</b> 7.3	7	5.9	石斧を磨石に転用か。先端部に磨り痕あり。風 化がすすむ。	Δ	980 g	細粒花崗岩 角閃石を含む	655	清水-171
S 37	63	11	_	磨石	<b>⑤</b> 10.0	<b>6</b> 9.3	7	4.3	側面に磨り痕が認められる。		560 g	閃緑岩	1626	清水-114
S 38	63	11	·C-2-4	砥石	⑤ 10.2	6.6	7	3.9	端に磨りによる断面V字状の溝が1条ある。		670 g	流紋岩	48	清水-117
S 39	63	11	_	石錘	⑤ 8.5	<b>6</b> 5.9	7	2.4	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		160 g	細粒花崗岩	365	清水-177
S 40	63	11	C-6-1	石錘	⑤ 7.8	6.4	7	2.2	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		140 g	細粒閃緑岩	1304	清水-172
S 41	64	11	C-5-2	石錘	\$ 8.8	<b>6</b> 5.5	7	1.9	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		135 g	細粒花崗岩	1216	清水-179
S 42	64	11	D-3-2	石錘	⑤ 7.3	<b>6</b> 5.9	7	1.5	両面または片面からの打ち欠きにより紐掛け部 をつくる。		120 g	半花崗岩(アプライト)	576	清水-173
S 43	64	11	C-5-1	石錘	<b>⑤</b> 7.9	<b>6</b> 6.1	7	1.6	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		120 g	雲母片岩	781	清水-174
S 44	64	11	C-1-3	石錘	⑤ 8.6	<b>6</b> 5.0	7	1.6	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		116 g	結晶片岩	1591	清水-176
S 45	64	11		石錘	⑤ 5.4	6 7.0	7	1.7	片面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。	L	86 g	玄武岩質安山岩	67	清水-183



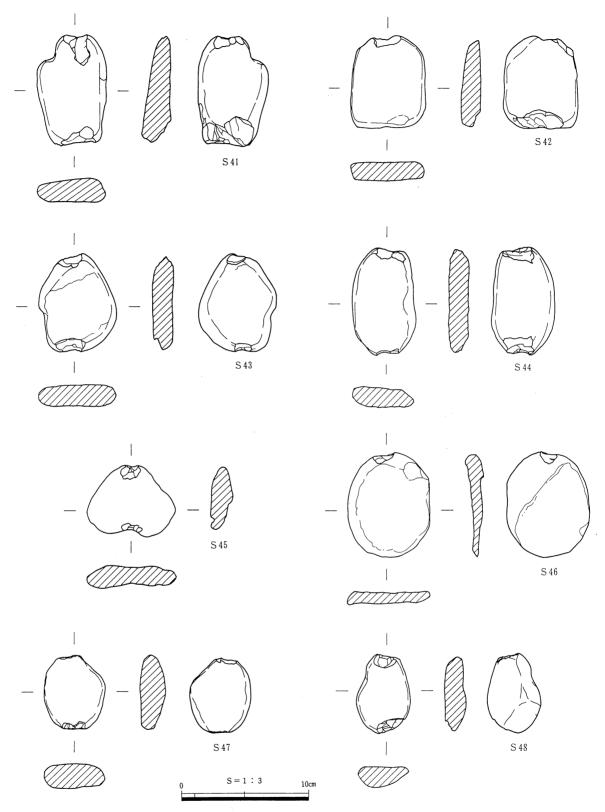
挿図62 黒色土包含層石器実測図(1)



插図63 黒色土包含層石器実測図(2)

## **5**. 石器 (挿図51·62~64 挿表33·35 図版11)

黒曜石石鏃・石錐、安山岩剥片石器、打製石斧、敲石、磨製石斧、磨石、砥石、石錘が出土した。このうち石錐S27は先端部に明瞭な擦り痕が残る。石錘S39~48は全て2方向の打ち欠き石錘である。他の石錘も含め16点



插図64 黒色土包含層石器実測図(3)

が出土しているが有溝石錘はSK-08のS2の1点のみである。石材は鑑定の結果を記しているが、黒曜石と安山岩を除きいずれも日野川流域にみられる石材で、S31の打製石斧と遺構外ではあるがS51の石錘の結晶片岩のように上流の日南町多里付近で産出する石材もみられた。遠賀川系土器は出土しているものの石包丁などの稲作に深く関わる石器類は確認していない。

遺物番号	挿図 番号	図版 番号	遺構名	種	類		法	; ((	em)	量		形態上の特徴	重	量	石 材	取上No.	実測者No.
S 46	64	11	D-5-4	石錘		(5)	8.3	6	6.5	7	1.3	打ち欠きで紐掛け部をつくるようだが剥離のため不明確。		85 g	細粒花崗岩	440	清水-180
S 47	64	11	_	石錘		(5)	6.0	6	4.8	7	2.0	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		84 g	閃緑岩	1393	大角-82
S 48	64	11	B-5-4	石錘		(5)	6.4	6	4.2	7	1.7	両面または片面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。		61 g	細粒閃緑岩	1378	清水-182

## 挿表36 遺構外出土土器 • 陶磁器観察表

遺物番号 挿図番号 図版番号	遺構名	種 類器 種	法 量 (cm)	形態上の特徴 外 面 調 整	内面調整	内面色調	外面色調	胎土・焼成	取上No.	備考	実測者No.
Po 230 65 12	I 区一 括	粗製深鉢 体部	① △ 5.2	横方向の比較的粗いナデの素地に 半截竹管状の細い工具で斜めまた は横方向の文様を施す。	斜め方向の粗いナデ。	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	密・良	8		清水-145
Po 231 65 12	I区一 括	弥生中期 壷	① △ 1.9 ② <b>※</b> 16.8	下垂する面に斜め方向の単線による文様を施す。	口縁部横方向のナデ。	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/2	密・良好	5		大角-55
Po 232 65 12	I 区一 括	染め付け 碗	① △ 3.3 ② <b>※</b> 11.0	胎土のため青磁状にみえる素地に 風景?の文様を施す。陶胎染付。	口縁端部に鉄錆付着。	施釉:灰色 7.5Y6/1	断面:灰色 7.5Y6/1	緻密•硬質	9	肥前	大角-65
Po 233 65 12	I区一 括	染め付け 碗	① △ 4.7 ② ※ 9.4	胎土のため灰白色にみえる素地に 枝と花の文様を施す。やや黒ずん だ染め付け。	_	施釉:灰白色 2.5Y7/1	断面:灰白色 2.5Y8/1	緻密•軟質	9 1258	産地不明 肥前か	大角-69
Po 234 65 12	I区一 括	染め付け 皿	① △ 2.0 ② <b>※</b> 15.0	口縁部は浅く大きく開く。素地は 白磁。	やや緑色に近い発色 で横方向の染め付け あり。	施釉:灰白色 10Y7/1	断面:灰白色 N8/0	緻密•硬質	8	肥前	大角-64
Po 235 65 12	I 区一 括	染め付け 皿か	① △ 2.4 ④ ※ 4.4	低い高台をケズリ出し、立ち上が りは大きく開く。素地は白磁。高 台部内面は蛇の目釉剥ぎか。	見込みは露胎。立ち 上がりに斜め方向の 緑色に近い染め付け。	施釉:明オリ ーブ色 2.5GY7/1	断面:灰白色 N8/0	緻密•硬質	8	肥前	大角-62
Po 236 65 12	I区一 括	青磁碗	① △ 3.3 ② <b>※</b> 11.2	直立して立ち上がり丸くおわる。 端部付近は細かな貫入。	端部付近は細かな貫 入。	施釉:灰オリ ーブ色 7.5Y5/3	断面:灰白色 7.5Y7/1	緻密・硬質	9	肥前か	大角-63
Po 237 65 12	I 区一 括	青磁碗	① △ 3.8 ② <b>※</b> 10.8	直立して立ち上がり丸くおわる。 以下横方向の文様。陶胎染付。	口縁端部に鉄錆。	施釉:灰オリ ーブ色 7.5Y6/2	断面:灰色 7.5Y6/1	緻密•硬質	9	肥前	大角-70
Po 238 65 12	I 区一 括	白磁 猪口か	① △ 2.3 ② ※ 7.0	やや内湾しながら立ち上がる。	_	施釉:灰白色 N8/0	断面:灰白色 N8/0	緻密・硬質	9	肥前	大角-74
Po 239 65 12	I 区一 括	陶器 摺鉢	① 9.6 ③ ※33.4	器壁は厚い。立ち上がりはナデ、 指頭圧痕。底面に融着物付着。	雑なナデ。備前に比べ胎土は悪い。	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/3	密•良好	3	備前	大角-73
Po 240 65 12	I区一 括	陶器 摺鉢	① △ 3.5 ③ ※10.4	底面は回転糸切り。立ち上がりは 回転ナデ。	目が菱形になるよう に2回の摺り目を入 れる。	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	密•良好	9	産地不明 中国地方	大角-71
Po 241 65 13	Ⅱ区一 括	粗製鉢	① △ 2.8 ② ※10.0	口縁端部は水平方向に屈曲する。 横方向のナデ。	横または斜め方向の 比較的粗いナデ。	にぶい赤褐色 5YR4/4	にぶい赤褐色 5YR4/4	密•良好	11		清水-111

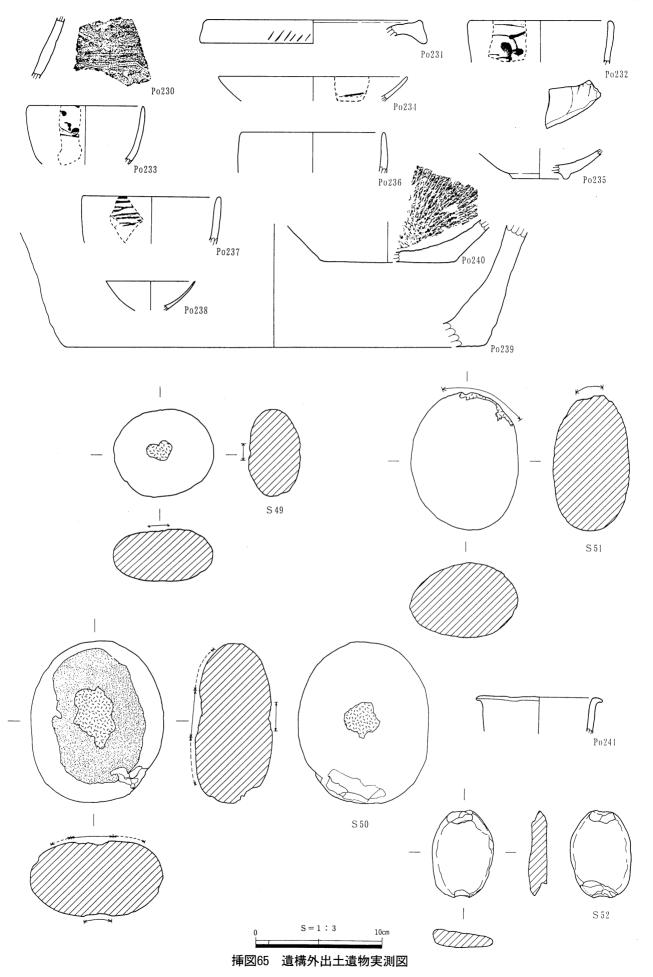
### 挿表37 遺構外出土石器観察表

遺物番号	挿図 番号	図版 番号	遺構名	種 類	ř	(cm)	量		形態上の特徴	重 量	石	材	取上No.	実測者No.
S 49	65	13	調査区内一括	凹石	⑤ 7.9	6 6.9	7	4.2	円礫の中央付近にわずかな窪みあり。	310 g	石英斑岩		1	清水-113
S 50	65	13	調査区内一括	凹石	⑤ 12.8	⑥ 10.5	7	6.0	円礫の中央付近に窪みあり。	1240 g	石英斑岩	-	1	清水-121
S 51	65	13	I 区一括	石錘	⑤ 7.0	6 4.8	7	1.9	両面からの打ち欠きにより紐掛け部をつくる。	81 g	結晶片岩	-	57	清水-181
S 52	65	13	Ⅱ区一括	敲石	⑤ 10.9	<b>6</b> 8.5	7	6.0	1ヶ所に敲痕あり。	800 g	閃緑岩		58	清水-118

# 第9節 遺構外の遺物

遺構外の遺物として線刻のある縄文土器の体部片Po230、弥生土器壺の口縁部、陶磁器等がある。Po239は鉢の底部で、胎土は若干悪いが備前の可能性がある。陶磁器類は陶器と磁器がある。このうちPo232・237は灰色の陶器質の胎土に染め付けを施す。肥前で18世紀頃か。Po233は胎土が若干異なり肥前産かは不明。Po234・235は同一個体の可能性あり。肥前で内面に蛇の目釉剥ぎでやはり同時期か。またPo239は備前とみられるが、他は石見付近産の可能性もあり不明瞭である。

II区での出土遺物はPo241が第 1 遺構面上層から、S52が第 1 遺構面下の粘土層付近からの出土で、第 2 遺構面との間にあたる。この粘土層は I 区のD ライン付近まで続き次第に薄くなるが、層位的には第 2 遺構面の暗茶褐色土包含層付近に相当するものと考えられる。 II 区第 1 遺構面下では唯一の出土遺物である。



# 鳥取県出土の木葉文土器について

西川 徹

#### 1 はじめに

弥生時代前期を代表する土器文様の1つに木葉文がある。分布の中心は北部九州から近畿地方に至る瀬戸内海沿いである。鳥取県内で木葉文が描かれた土器(木葉文土器、以下同様)が出土した遺跡は数少なく、ほとんど知られていない。そこで、県内出土の木葉文土器を集成し、若干の考察を試みたい。なお、木葉文については幾つかの分類案が発表されていて木葉文形態の名称もそれぞれ異なるが、本論では工楽氏の分類方法に従い分類を行うことにする。しかし、出土資料はほとんどが小破片のため、木葉文の全体形や施文方法などが明確なものはわずかである。よって、以下で記述する木葉文についての解釈は筆者が報告書等に掲載された拓本・写真から判断した結果であり、事実誤認をしている可能性が含まれることを予めお断りしておく。なお、木葉文の上下関係は特に断わりを入れていない限り報告書に従った。また、施文具は明らかに貝殻が使用されているもののみ記述し、ヘラ状工具(1)が使用されていると判断した大部分のものについては特に記述を行っていない。

#### 2 出土した木葉文土器

(1) **西大路土居遺跡(1~2)** 鳥取市の西大路土居遺跡は鳥取平野南東部の大路山という独立丘陵の北西側山裾に位置し、墓地造成事業に伴い1996年度に調査が実施された。遺跡からは多くの遺物が出土しているが、その中心は弥牛時代中期と古墳時代中期から後期である。そのなかに2点の木葉文土器が存在した。

1は2本ずつの弧線が向き合う無軸木葉文と推測される。縦の区画線(以下、区画線)は認められない。 2は4本の弧線からなる無軸木葉文と推測される。区画線は認められない。両方とも小破片のため明確ではないが、もう1本程度線が有るようにも見え、有軸木葉文になる可能性も残る。

(2) 長瀬高浜遺跡(3~56) 羽合町の長瀬高浜遺跡は天神川河口の砂丘地に位置する古墳時代を中心とする 大集落遺跡である。1978年度以降の下水道整備に関連する天神浄化センター建設に伴う調査で数多くの遺構・遺物が出土したが、そのなかに木葉文土器も多く含まれていた。

3は1条の上界線と3本の区画線の文様帯に2本ずつの弧線で無軸らしいX木葉文を描く。4は1条の界線と 1本の区画線の文様帯のうち、中央の区画に2単位以上の有軸綾杉文が描かれ、両側の区画には2本ずつの弧線 で無軸らしいX木葉文を描く。5は段の下に1条の上界線と1本の区画線の文様帯に3本ずつの弧線で無軸の木 葉文を描く。6は1条の上界線と1本の区画線の文様帯に3本ずつの弧線で無軸の木葉文を描く。+(半截)木葉 文である。なお、前述した5と6は文様がよく似ており、同じ工人によって描かれていると推測される。7は1 条の下界線と1本の区画線の文様帯に3本を基本に一部4本の弧線で無軸の木葉文を描く。8は上1条・下6条 の界線と2本の区画線の文様帯に2~3本ずつの弧線で無軸の木葉形を描く。左側の文様帯には右側と異なる文 様が描かれている。下界線に沿って4本線の重弧文が連続する。9は1条の上界線と1本の区画線の文様帯に3 ~5本の弧線で無軸の木葉文を描く。(3) 10は2条の上界線と1本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木 葉文を描く。図の網掛け部分の2条の上界線と木葉文以外の部分に赤色顔料が塗布されている。他に類例の無い ものである。11は1条の上界線と2本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線でX木葉文を描く。12は上2条・ 下1条の界線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線でX木葉文を描く。13は軸線と1本ずつの弧線でX木葉文を描く。 14は1条の上界線と3本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。15は3条の上界線と2本の 区画線の文様帯に共に軸線があり一方は1本ずつ、他方は2本ずつの弧線で2単位の木葉文を描く。同一個体内 に弧線数が異なる木葉文が併存する資料である。16は2条の上界線と2本の区画線の文様帯に4本の線で木葉文 を描く。この内の1本は軸線で、1本と2本の弧線が向き合う17や19の様な形態になると推測される。17は1条 の下界線と2本の区画線の文様帯に軸線と1本と2本の弧線でX木葉文を描く。右区画には無軸綾杉文を描く。 18は2条の下界線と1本の区画線の文様帯に軸線と1~2本の弧線でX木葉文を描く。右区画には綾杉文を描い ているようで、17と形態が類似する。19は段の下に3本線の重弧文が連続し、その下に1条ずつの上下の界線と 2~3本の区画線の文様帯に軸線と1本と2本の弧線でX木葉文を描く。20はSI169埋土中出土で、上3条・下 1条の界線と3本の区画線の文様帯に軸線と1~3本の弧線でX木葉文を描く。弧線は直線状で軸線を挟んで向 き合って位置せず、軸線の片側のみに描いているようである。21は1条ずつの上下の界線と3本の区画線の文様 帯に軸線と1~3本の弧線でX木葉文を描く。弧線には軸線を挟んで向かい合うものと軸線の片側のみに描くも のが併存する。22は1本の区画線と軸線と2本ずつの弧線でX木葉文を描く。23はSI94埋土中出土で、1条ずつ の上下の界線と2本の区画線の文様帯に軸線と2本ずつを基本に一部に1・3本の弧線でX木葉文を描く。24は 3本の区画線の文様帯に軸線と2本ずつの弧線でX木葉文を描く。下の界線は認められない。25は2段の竹管状 刺突文帯を挟む3条の上界線に軸線と2本ずつの弧線のX木葉文を描く。26はSI114埋土中出土で、2段の竹管 状刺突文帯を挟む3条の下界線と1本の区画線の文様帯に軸線と2本ずつの弧線で木葉文を描く。27はSI156埋 土中出土で、1条の上界線に軸線と2本ずつの弧線で木葉文を描く。区画線は無いらしい。28は2条の上界線と

1本の区画線の文様帯に軸線と2本ずつの弧線でX木葉文を描く。29は2条の上界線に5本の線で1葉を構成す る木葉文を描く。中央の線は短いが軸線で他は2本ずつが向き合う弧線であろう。30は斜格子文帯を挟む2条の 下界線に軸線と2本ずつの弧線で木葉文を描く。縦の区画線は無い。31は下界線となる削り出し突帯と1本の区 画線の文様帯に5本の線で1葉を構成する木葉文を描く。中央の線は軸線となる可能性がある。区画線を挟んで 木葉文は連続していない。32は1条の下界線と2本の区画線の文様帯に軸線と2本ずつの弧線でX木葉文を描く 。 ② 2 本ずつの弧線は貝施文具によるが、界線や軸線には貝施文具の痕跡は認められない。施文具が異なってい るのであろう。33は1条の上界線と+状の軸線に2本ずつの弧線を描くもので類例の少ないものである。(4) 34も 33と同じく+状の軸線と1葉は2本ずつ他の3葉は3本ずつの弧線で木葉文を描く。界線が無いため上下が明確 ではなく、X状を呈するとの解釈もある。 $^{(5)}$  35はSI120埋土中出土で、段の下に 2 条ずつの上下の界線と 3 本の 区画線の文様帯に軸線と3本ずつが基本の弧線でX木葉文を描く。36は3条の上界線と3本の区画線の文様帯に 6~7本の線でX木葉文を描く。右側の7本線の1葉は中央の線が軸線で3本ずつの線は弧線と推測される。左 側の6本線の1葉は弧線の向きによって2本と4本のほぼ平行する線に分けられるが、両方ともほぼ同じ位置で 線を繋いでいる。4本線の中央側の線が軸線と推測されるが、この線は他の3本線と揃っていることから一体の ものと見なすこともでき、2本と4本の弧線が向かい合う無軸の木葉文となる可能性もある。37は2条の下界線 と3本の区画線の文様帯に6本の線で木葉文を描く。このうちの1本は軸線で、2本と3本の弧線が向き合う形 態と推測される。38は2条の下界線と3本の区画線の文様帯に7本の線で木葉文を描く。中央の1本は軸線で、 3本ずつの弧線が向き合う形態であろう。39は上1条・下2条の界線と1本の区画線の文様帯に軸線と2~3本 の弧線でX木葉文を描く。40と41は同一個体と推測されているもので、2条の上界線と2段の竹管状刺突文帯を 挟む3条の下界線の文様帯に軸線と2本ずつの弧線でX半截木葉文を描く。縦の区画線は無いようである。この 文様帯の下に3本線の連続する重弧文が存在する。確実な半截木葉文の資料は他に目久美遺跡の87が存在するの みである。42は1条の上界線と1本の区画線の文様帯に界線に沿う3本線の重弧文と区画線を挟む2本ずつの弧 線を描く対弧文である。43は3条の上界線と4本の区画線の文様帯に界線と区画線に沿って3本線の重弧文を描 く。対弧文を表現しているのであろう。44は無頸壺形土器と報告されているもので、段の下に4本の線で木葉文 を描く。拓本にはもう1~2本の弧線の一部と推測される部分もあり弧線数は増えるかもしれない。器形につい ては「壺形土器の頸部を失った資料」(6) との意見もあり検討が必要である。54は1条の上界線に4本の線で木葉 文を描く。このうちの1本は軸線であろう。縦の区画線は認められない。(\*) 55は1条の下界線と2本の区画線の 文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。(8) 56は連続した竹管状刺突文を施す貼付け突帯を挟む上下1条 ずつの上界線と1本の区画線の文様帯に、突帯に沿う2本線の重弧文と区画線を挟む3本ずつの弧線で対弧文を

上記の他に木葉文となる可能性があるものが若干存在する。45はSI156埋土中出土で、1条の上界線と1本の区画線の文様帯に2本以上の弧線を描く。+(半截)木葉文になると推測される。46は1条の上界線と2本の区画線の文様帯に3本以上の弧線を描くと推測されるもので、形がかなり歪んでいるのは施文具が貝のために生じた現象であろう。47は2段の竹管状刺突文帯を挟む3条の上界線と弧線の一部と推測される1本と2本の線が存在する。48では上1条・下2条の界線と1本の区画線の文様帯に、4単位の有軸綾杉文を描く区画と4本の弧線らしい僅かな線がある。4と同じ文様配列をもつ木葉文であろう。49は1条の上界線に軸線と1本ずつの弧線の木葉文に推定されているが、左側は1本しか線がなく木葉文とは異なる可能性もある。50は1条の貼付け突帯の下に1条の圏線と2本線の重弧文を連続して描き、上には2本線の重弧文と1本の区画線と2本の弧線らしい線があり対弧文であろう。51は1条の上界線と刺突文帯を挟む2条の下界線に3本の区画線の文様帯に3本ずつの線をX状に交差させて描く。52は1条の上界線と2本の区画線の文様帯に2本ずつの線をX状に交差させて描く。53は上1条・下2条の界線と1本の区画線の文様帯に1本ずつの線をX状に交差させて描く。

(3) **イキス遺跡(57~65)** 倉吉市のイキス遺跡は平野部を望む南北に伸びる舌状丘陵の先端部に位置する遺跡で、1988年度に耕地造成の目的で調査が実施された。突帯文土器や弥生時代前期の土器片が多く出土しているなかに木葉文土器が存在した。いずれも表面が風化して遺存状態は悪い。

57は1条の上界線と1本の区画線の文様帯に1本ずつの弧線で無軸の木葉文を描いているらしい。58は3条の下界線と1本の区画線の文様帯に3本ずつの弧線で無軸の+木葉文を描く。界線の下にも3本線の木葉文らしき文様がある。59は縦横とも1本の線で+状に区切った文様帯に3本ずつの弧線で無軸の+木葉文を描く。60は1条の下界線と2本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線でX木葉文を描き、木葉文の中央交点に珠点を加えている。X木葉文に珠点を加える例はきわめて稀であり貴重な資料である。40 外面には赤彩が施される。61は2条の下界線と2本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。62は1条の上界線と2本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。63は1条の下界線と1本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。63は1条の下界線と1本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描いているらしい。64と65は2条の上界線と2本の弧線らしい線を描くが、鋸歯文などの一部で木葉文ではない可能性もある。40

- (4)後中尾遺跡(66・67) 倉吉市の後中尾遺跡は高城山から東に延びた舌状台地上の遺跡で、1982年度に圃場整備工事に伴って調査が実施された弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡である。 未報告のため遺構・遺物の詳細は不明だが 2 点ある。 66は 2 条の上界線と 2 本の区画線の文様帯に 6 本と 7 本の線で 2 葉を描き、木葉形の間には界線に沿って 3 本線の重弧文を描く。 44 軸線の有無は不明である。区画線は木葉形のために線が歪んでおり、通常と逆に木葉形が先に描かれた可能性がある。66は中部地域には類例がなく、米子市目久美遺跡の84~87が類似する。67は 2 条の上界線に軸線と 2 本ずつの弧線の木葉文と推測される。
- 大山町の上野遺跡は大山町内を北流する阿弥陀川によって形成された扇状地の裾部 (5) 上野遺跡(68~73) 近い標高約30m付近に位置している。遺跡は第1遺跡と第2遺跡の2地点からなるが、戦後まもなくに耕作等に 伴って発見されたもので、幾度か遺物発見当時の状況や出土遺物の概略などは報告されているが、いの厳密な出土 状況や遺構との関連性などは不明である。出土土器は弥生前期を主体とするものであり、綾杉文や斜格子文など が描かれた土器と共に木葉文土器が存在している。木葉文は鋸歯状の陰刻の残る貝殻が施文具として使用されて いる。68~72は同一個体と推測される。68には2単位の木葉文があり、69と同じく中心の交点部分を通る横線が 存在し共通する。異なるのは木葉文に挟まれて2本線の山形文を描くことで、これは異なった文様を組み合わせ ることで意図的に装飾性を強調する西部瀬戸内地域の文様配置方法と推測される。<sup>(18)</sup> 文様帯の下界線は貼付け突 帯で、突帯の面上に1条の沈線を入れ綾杉状となる刻みを付ける。刻みは貝殻ではなくヘラ状工具のようである。 69は2条の界線の下に5単位のX木葉文を描く。木葉文には区画線が無いが中央の交点部分を通る横線が存在し、 この横線で上下に分けられる。通常はこのような横線は描かれず特異な例と言える。むしろ上下は別々の単位で、 鋸歯状に配列した木葉形が2段でX状になるように意識的に描いていると考えるべきではなかろうか。X半截木 葉文には縦の区画線がないものもあり矛盾しない。70は2条の上界線と6本の弧線を描く。71は貼り付け突帯の 下界線と6本の弧線を描く。72は中央の交点部分を通る横線とX木葉文を描く。73は軸線と2本ずつの弧線を描 く。軸線はヘラ状工具で描かれ68などとは別個体の可能性が指摘されているものである。
- (6) **塚田遺跡(74)** 大山町の塚田遺跡は孝霊山北麓の妻木川に臨む舌状台地上に位置し、圃場整備工事に伴い1978年度に調査が実施された。弥生中期の土器が中心であるが、そのなかに木葉文土器が1点存在する。**74**は+状の軸線と軸線を挟んで向き合う各弧線の両端との交点が間隔をあけてずれるX3型木葉文で、弧線は3本が基本だが4本の所が1箇所ある。上下の界線・区画線とも不明のため、報告者は木葉文を+状に推測しているが、X状の可能性も残る。X3型木葉文は県内に類例が無い。
- (7) 大袋丸山遺跡(75・76) 米子市の大袋丸山遺跡は小松谷川に架かる桜木橋の架け換え工事に伴って調査が実施された遺跡である。1988年度と1990年度の2回調査が実施されているが、1988年度の調査で突帯文土器や弥生前期土器が多く出土したなかに1点木葉文土器が含まれる。75は縦横とも1本の線で+状に4つの小区画に分けた中に3本ずつの弧線で無軸の木葉文を描く。上下の界線は不明である。75の他にも木葉文を意図していると推測されるものがある。76は底部脇に2本の縦線と縦線を挟んで2本と3本の斜線を描く。全体形は不明だが2本の縦線が軸線とすれば斜線は2本と3本からなる弧線となり、長砂第3遺跡の82の様な形態になる。また、縦線が区画線とすば斜線はそれぞれが1葉を構成する弧線となり、錦町第一遺跡の89の様な形態に復元できる。どちらの場合も木葉文は底部脇に描かれていて76と矛盾しない。近接する遺跡から類似する木葉文土器が出土していることから76も木葉文土器の可能性が高い。
- (8) 長砂第1遺跡(77・78) 米子市の長砂第1遺跡は米子市の南側を流れる加茂川の改良工事に伴って1989年度に調査された低湿地に位置する遺跡である。加茂川のやや下流には弥生時代の水田跡や木製農耕具類が出土した池ノ内遺跡や目久美遺跡が存在する。長砂第1遺跡からは弥生時代前期の甕形土器・壺形土器が多く出土したが、そのなかに木葉文を描く2点の甕用蓋形土器が含まれていた。77は天井部に+状の軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。磨滅のため遺存状態は悪い。78も軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描いており、77と同じ+状になると推測される。共に器形は口縁が大きく開き、器高が高く、つまみ部に1条の沈線を施すものである。
- (9)長砂第3遺跡(79~82) 米子市の長砂第3遺跡は道路建設に伴って1997年度に調査が実施され、4点の木葉文土器が出土した。79は壺用蓋形土器で、つまみを囲む2条の界線の下に放射状に4つの木葉形を描く。軸線と2本ずつの弧線で木葉文を描くが、軸線は2本で県内には後述する82以外類例の無いものである。口縁外周に沿って木葉形の間に2本線の重弧文を描く。線は2本が単位で、平行線を意識して丁寧に描いている。80も壺用蓋形土器と推測されるもので、1本の軸線と左に1本、右に2本の弧線で木葉文を描く。残存部には79の様な界線は認められない。81は底面に木葉文を描く。1本の軸線と2本ずつの弧線の木葉文で、軸線は短く弧線も雑である。82は底部脇に軸線と2~3本の弧線で3つの木葉形を描く。軸線には1本と2本のものがある。
- (10) **目久美遺跡(83~88)** 米子市の目久美遺跡は加茂川下流域に存在する遺跡である。下水道管敷設工事に伴い1994年度に調査が実施された。細長い調査地のため遺構は不明確だが、突帯文土器から弥生時代中期にかけての土器が多く出土しており、なかでも前期の土器が多い。そのなかに 5 点の木葉文土器がある。83は櫛歯文を挟む 2 条の上界線と 2 本の弧線を描く。弧線の総数や区画線の有無は不明である。84~86は同じ文様形態と推測

され、1条の下界線に軸線と2本ずつの弧線、界線に沿う木葉形の間に2~3本線の重弧文を描く。残存部に区画線は認められない。87は上下1本ずつの界線の文様帯に鋸歯状の軸線と軸線の左に1本・右に2本の弧線を描く。上下の界線に沿う木葉形の間には1~2本線の重弧文を描く。

また、1995年度に道路改良工事に伴って実施された調査では、出土した多くの弥生前期土器の中に「壺形土器の肩部で木葉文状の文様」をもつものが含まれる。88は遺存状態が悪く文様は不明瞭だが、3条の下界線に沿い2本線の重弧文を描き、斜行する弧線の一部のような線がある。<sup>(17)</sup> 84~87と文様形態は同じか。

- (11) **錦町第1遺跡(89)** 米子市の錦町第1遺跡は施設建設に伴い1995年度に調査が実施された。弥生時代の遺物としては中期から後期の土器の出土が多いが若干前期の土器も含まれ、木葉文を描くほぼ完形に復元できる遠賀川系の壺形土器が出土した。89は肩部の段状の2条沈線下に綾杉文を描き、底部付近に逆八字状に開く2葉単位の3つの木葉文を描く。いずれも軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描き、2葉の間に2本単位の区画線がある。さらに、かなり傾いた状態で1葉と区画線と推測されるものがあり、2葉の一方を共有することでもう1単位の木葉文を表現しようとしたのではないだろうか。
- (12) **口朝金遺跡(90)** 会見町の口朝金遺跡は小規模な平野部とそれに続く谷部との境界部分に位置する。県道溝口伯太線の道路改良工事に伴い1986年度に調査が実施された。晩期を主体とする縄文土器が多量に出土した遺跡で弥生土器の量は多くないが、そのなかに1点木葉文土器が存在した。**90**は3条の上界線と2本の区画線の文様帯に軸線と1本ずつの弧線で木葉文を描く。
- (13) **久古第3遺跡(91・92)** 岸本町の久古第3遺跡は中国横断道建設工事および県道名和岸本線道路改良工事に伴い1982年度に調査が実施された。古墳時代の遺構・遺物が中心で弥生時代の遺物は僅かであるが木葉文土器が1点存在した。91は1条の竹管状刺突文帯を挟む4条の下界線に軸線と2本ずつの弧線で木葉文を描く。<sup>(8)</sup>

久古第 3 遺跡久古地区が1989年度に圃場整備工事に伴って調査された。土師器や須恵器が出土遺物の大半を占めており、弥生土器の量は多くないがその時期は前期のものが中心であり、1 点木葉文土器と報告されているものがある。92は 1 条の下界線と 2 本の区画線の文様帯に 4 本の線がある。右側 3 本は弧状、左側 1 本は直線状である。左の線が軸線ならばその左側に右側 3 本と向き合う弧線が存在するはずだがその痕跡は認められない。左の線は右線に対応する弧線と考えることもできるが、数が少なく弧線状のため可能性は低い。区画線の右側にも左傾きの線が少なくとも 2 本あり全体では三角状となることは間違いなく、長瀬高浜遺跡の20・21のようなやや退化した+木葉文であろう。

(14) **上菅荒神原遺跡(93)** 日野町の上菅荒神原遺跡は日野川上流域の河岸段丘上にあり、国道建設工事に伴い調査を実施した。遺跡からは石器類と共に縄文時代早期から突帯文土器期にかけての土器が主に出土したが、弥生前期の遠賀川系統の土器も若干あり、その中には木葉文土器が1点含まれていた。

93は壺形土器の肩部の破片と推測され、接合はしないが胎土・焼成・モチーフの一部が共通するため同一個体と推測される底部から胴部にかけての部分も出土し、肩部以下の文様モチーフがかなり明確になっている。 2条の下界線の文様帯に軸線と  $1\sim 2$  本の弧線で木葉文を描く。区画線はない。下界線の下には  $3\sim 5$  本の平行沈線を鋸歯状に描く。同一個体と推測されるものにも鋸歯状の平行沈線があり、その下に 2条の横線、 2本線の連続する重弧文、 3条の横線、鋸歯状に描く 3本の平行沈線とその間に 1 つだけ描かれた下に開く 2 本線の重弧文、底部脇に 2条の横線を描く。外面はヘラミガキ調整後に文様が描かれており、内面はナデ調整である。

#### 3 派生する問題点

鳥取県内からは14遺跡93点の木葉文土器が出土している。この数には疑問の残る資料や同一個体となる可能性のある資料も含まれているため、実際の個体数はこれよりも減ると思われる。出土資料の6割は長瀬高浜遺跡から出土しているが、木葉文が描かれている器種をみると無頸壺形土器とされるものが1点ある他はいずれも壺形土器であり、描かれた箇所も頸部から胴部上半に限られ、きわめて規則的である。それに対し、米子平野の場合は1遺跡からの出土点数は少なく5遺跡で15点の出土であるが、そのうち蓋形土器が4点、底部脇に描かれたもの3点、底面に描かれたものが1点と、半数以上の計8点が壺形土器の肩部以外に描かれている。蓋形土器に木葉文を描く例は近畿地方に多いと指摘されており、(19)底面に施文する例がある(20)など施文箇所に多様性があり米子平野の遺跡は近畿地方と関係が深い可能性が推測される。

出土した木葉文土器をみると、いくつか注目される点が存在する。21の木葉文には通常の形態の軸線を挟んで弧線が向き合うものと軸線の一方のみに片寄って弧線を描くものが併存しており、文様が退化して施文工程の簡略化が始まっていることが分かる。さらに、20では弧線を全て軸線の一方に片寄って描き、木葉文形の意味が失われ文様形態が変化し始めている。51では3本ずつの線をX状に交差させて描いている。この3本の線を積極的に解釈するならば、20では直線的ながらまだ弧線として認識することもできた線が、51ではさらに簡略化されて描かれた結果、軸線と同じくそれぞれの弧線が対角線状に繋がった線となったのではなかろうか。つまり、この3本の線は軸線と弧線を表現していると考えたいのである。この解釈が許されるならば20の木葉文に続く退化した木葉文形態と位置付けられることになる。そして、52の2本ずつの線をX状に交差させて描いたものへ簡略化

が進み、53のような1本の線でX状に描くだけのものに変化したと推測される。しかし、一貫して上下の界線と 区画線は描いており、線によって1つの文様単位を区画する意識は残っていたようである。

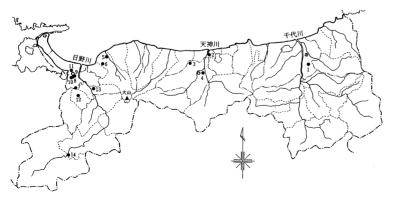
貝殻施文が明確な資料は古くから指摘されていた上野遺跡と長瀬高浜遺跡資料の他には認められなかった。貝殻施文の木葉文土器は福岡県遠賀川流域以東から山口県響灘沿岸地域にかけての瀬戸内海西部沿岸地域で特に発達したものであり、盛行した時期もヘラ状工具施文の木葉文土器が前期中葉頃なのに対し、やや遅れた前期後葉頃である。島根県松江市のタテチョウ遺跡・西川津遺跡からも多くの前期土器の中に木葉文土器が含まれるが、貝殻施文されたものは少なく日本海側の特定遺跡に少量ずつ点在する出土状況である。さらに、33・34のように+状の軸線を持つ木葉文ついても山陰地方に多い傾向<sup>(21)</sup>が指摘されており共通する。

施文具については、大部分はヘラ状工具によって描かれたもので、確実に貝によって描かれたことがわかるものは数少ない。最初に触れたように、ヘラ描きとされるものの中にもアサリやハマグリなどの貝で描かれたものが含まれている可能性が指摘されているが、具体的に区別することは難しく、報告書などであまり注意が払われていないのが現実である。そのなかで、36では 2 本と 4 本に分けることが出来る弧線が、両方ともほぼ同じ位置で線を繋いでいる。これはヘラ状工具によって描くならば不要な行為であり、伊東照雄氏が想定されているように端部が平滑な二枚貝の腹縁部が施文具として使用された為と推測される。(22)

## 註

- (1)伊東照雄氏は実験により、二枚貝の腹縁部使用で箆を使用した場合と同様な施文が可能であることを明らかにした〔文献24〕。そこで、貝なども含めたヘラ状の線が描ける施文具という広い意味で捉えている。
- (2)図版では上下が逆になっている。
- (3)2本線を区画線・1本線を下界線と判断して、報告 書とは天地方向を変更した。
- (4)『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調 査報告書 I 』島根県教育委員会 1979
- (5)報告書では+状だが、高口勝人氏〔文献6〕・工楽 善通氏〔文献27〕は X 状と判断されている。
- (6)文献31 註32
- (7)報告書に掲載された図版75のPo148と挿図326の拓 本は異なり、拓本は前述した22と同じものであったた め、拓本ではなく写真に基づいて記述した。
- (8)図版74の中で8(Po115)と共に撮影されているが本 文中に実測図や拓本の掲載はない。
- (9)図版73にPo78の壺形土器と共に掲載され、竹管状 刺突文を施す貼付け突帯やそれを挟む沈線が共通する ため同一個体と推測されるが、Po78では突帯下の文 様が鋸歯状の箆描文と推測されている。
- (10)文献27 P46
- (11)報告書には他にも木葉文土器の可能性があるものとして1点挙げてあるが木葉文とするには疑問が残るためここでは除外した。
- (12) 文献 9

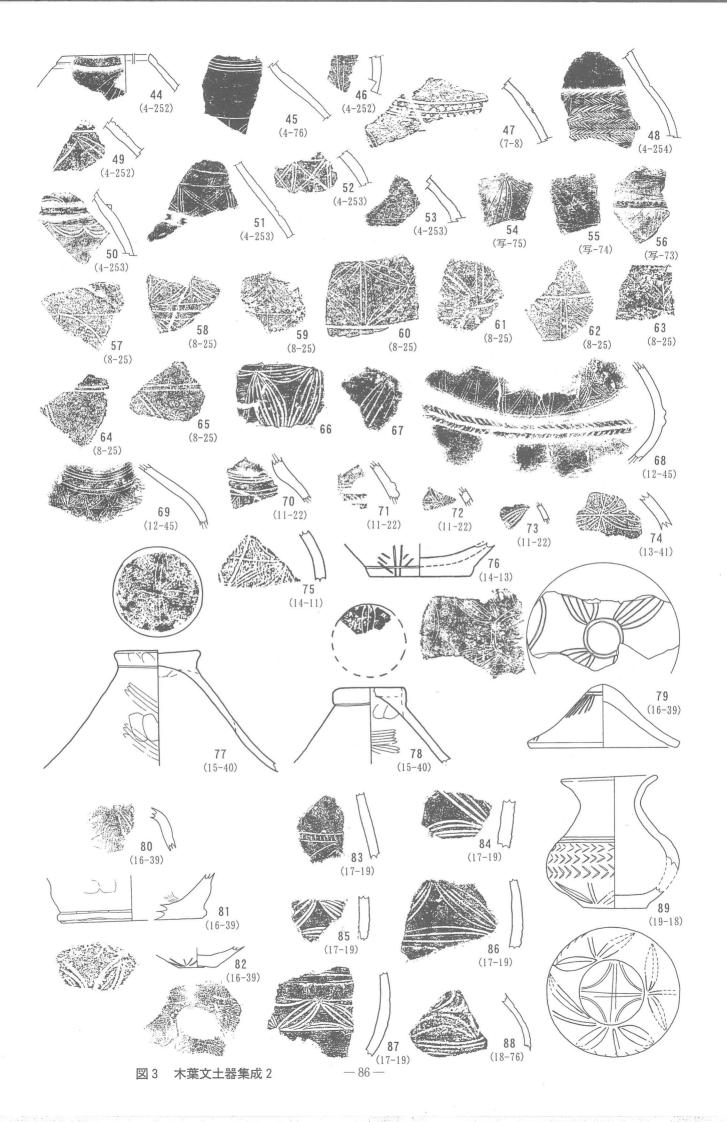
- (13) 倉吉市教育委員会および調査担当者の森下哲哉氏の ご好意により拓本の提供を受けた。また、倉吉博物館 の根鈴輝雄氏には情報の提供を受けた。
- (14)深澤芳樹氏は文献31註14で深澤分類の箆描縦軸木葉 文と箆描斜軸木葉文が同一個体に併存する例が後中尾 遺跡にあるとされる。66のことであろうが、筆者は区 画線は別にあると解釈しており、深澤氏と異なる。
- (15) 文献10・11・12
- (16)文献24 P253
- (17)この土器は通常の木葉文とは文様形態が異なっており工楽善通氏〔文献27〕の対弧文の範疇で捉えるべきものと考える。対弧文について工楽氏は「方形区画内を+またはXに区画するものではないから、木葉文の範疇には入らない」としながらも、結果的に木葉文と類似する文様となることから「変形木葉文とも言い得る」とその位置づけに躊躇されている。しかし、同じく木葉文を検討された深澤芳樹氏〔文献31〕や亀谷尚子氏〔文献28〕は木葉文の1形態として位置づけられている。ここでは木葉文の範疇に含めることにする。
- (18)実測図と遺物写真では中央の線の位置が異なり、実 測図では無軸のようにもみえるが、写真から有軸と判 断した。
- (19)文献27 P54
- (20)文献28 P 5
- (21)文献32 P139
- (22)文献24 P280



数字は文章中遺跡番号と対応

図 1 木葉文土器出土遺跡位置図





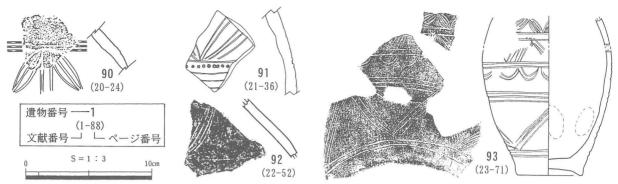


図 4 木葉文土器集成 3

※ 図は後中尾遺跡を除き各報告書から転載したが、一部改変したものがある。

#### 文献

- (1)『西大路土居遺跡』 財団法人鳥取市教育福祉振興会 1993 P88 Po15・16 図版29
- (2)『長瀬高浜遺跡 I』 財団法人鳥取県教育文化財団 1978 P30 Po10・11・13 図版 1
- (3)『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書V』 財団法人鳥取県教育文化財団 1983 P103 Po16 P146 Po17 図版38・47
- (4)『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書VI』 財団法人鳥取県教育文化財団 1983 P76 Po18・19 P91 Po 2 P251 Po86 P252 Po115・123・136~147・149~151 P253 Po152~166 図版20・21・73~76
- (5)清水真一「弥生前期木葉文について」『長瀬高浜だより』9号 1979
- (6)高口勝人「弥生時代前期の木葉文について(その2)」『長瀬高浜だより』30号 1981 P8 Po2
- (7)野島珠美「弥生土器にみられる文様あれこれ」『長瀬高浜だより』44号 1982 P7 Po2 P8 Po16
- (8)『イキス遺跡発掘調査報告書』 倉吉市教育委員会 1988 P25 Po69~77 図版22
- (9)森下哲哉「後中尾遺跡」『鳥取県大百科事典』1984
- (10)佐々木古代文化研究室「所子上野遺跡概報」『ひすい』13号 1955
- (11)倉光清六・藤田等「山陰彌生式土器の研究(1)」『考古学雑誌』第48巻2号 1963 P22 Po1・3・4・6
- (12)治部田史郎「大山山麓出土の弥生式土器について」『鳥取県立博物館研究報告』第13号 1976 P45 Po 8 B・11B
- (13)『塚田遺跡』 大山町教育委員会 1979 P41 Po1 図版10
- (14)『大袋丸山遺跡』 米子市教育委員会 1991 P11 Po116 図版 1
- (15)『長砂第1・2遺跡』 米子市教育委員会・鳥取県米子土木事務所 1990 P40 Po187・188 図版23
- (16)『長砂第3·第4遺跡』 (財)米子市教育文化事業団 1998 P39 Po58·59·62·66
- (17)『目久美遺跡IV』 (財) 米子市教育文化事業団 1995 P19 Po247~250・254 図版 6
- (18)『目久美遺跡 $V \cdot VI$ 』 (財)米子市教育文化事業団 1998 P76 Po8 図版16
- (19) 『錦町第一遺跡』 (財)米子市教育文化事業団 1996 P18 Po58 図版 4
- (20)『口朝金遺跡』 会見町教育委員会 1988 P24 Po203
- (21)『久古第3遺跡・貝田原遺跡・林ヶ原遺跡発掘調査報告書』 財団法人鳥取県教育文化財団 1984 P36 Po19 図版14
- (22) 『久古第 3 遺跡 (久古地区) 発掘調査報告書』 岸本町教育委員会 1990 P 52 Po21 図版11
- (23)『上菅荒神原遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団 1999 P71 Po180 図版10
- (24)伊東照雄「弥生式土器の文様と施文具」『日本民族文化とその周辺 -考古篇-』 1980
- (25)藤田憲司「中部瀬戸内の前期弥生土器の様相」『倉敷考古館研究集報』第17号 1982
- (26)佐原真「島根の弥生文化」『 82特別展 島根の古代』島根県立八雲立つ風土記の丘 1982
- (27)工楽善通「遠賀川式土器における木葉文の展開」『文化財論叢』 1983
- (28)亀谷尚子「木葉文土器の考察」『西部瀬戸内における弥生文化の研究』山口大学人文学部考古学研究室 1984
- (29)高橋護「箆描紋」『弥生文化の研究 3 弥生土器 I 』 1986
- (30)松本岩雄「木ノ葉文土器と流水文土器」『大社町史研究紀要』 2 大社町教育委員会 1987
- (31)深澤芳樹「木葉紋と流水紋」『考古学研究』143号 1989
- (32)深澤芳樹「木葉紋と流水紋とからみた西川津遺跡」『朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書V』 1989
- (33)米田鉄也「遠賀川流域の木葉文」『地域相研究』第24号 1996

木葉文土器資料の集成に際し、鳥取県立博物館の岸本浩忠氏には上野遺跡の資料実見にご配慮頂いた。倉吉博物館の根鈴輝雄氏には後中尾遺跡についてご教示頂き、倉吉市教育委員会の森下哲哉氏には未報告である後中尾遺跡の拓本を提供していただいた。財団法人米子市教育文化事業団の平木裕子・佐伯純也両氏には長砂第3遺跡についてご教示ならびに資料提供を受けた。あらためて深く感謝する。

# 上菅荒神原遺跡の遺物と遺構

八峠 興

## 1. 遺物

上菅荒神原遺跡出土の縄文土器および弥生土器についてまとめておきたい。表1では暗茶褐色土包含層・黒色土包含層を加え型式が明らかなものをまとめた。これによると早期の押型文系土器群は、黄島式直前の山形文土器が1点出土している他は確認していない。SD-02の底面上からの出土である。早期末は繊維土器が114点を数える。表2では縄文を中心とするものは約50%、条痕を中心とするものは約38%で、表は縄文で裏が条痕のものが2.6%である。このうち表裏縄文と表縄文裏条痕は島根県菱根遺跡で出土例があるため菱根式としている。SK-11がこの時期の可能性のある遺構である。前期初頭の土器では羽島下層2式が1点出土している。また胎土に繊維を含み端部に隆帯と貝殻による施文をもつものもあり、繊維土器と羽島下層2式の折衷的な要素をもつものと推定している。このように本遺跡では早期末から前期初頭にかけてある程度継続して生活していたことを窺わせる。これ以降中期前半頃までの遺物は確認していない。中期中葉から後半にかけて船元2~4式、里木2式(併行を含む)土器が58点出土している。遺構はSK-03を確認している。後期は中津式、布勢式、北白川上層式など後期前~中葉にかけてわずかではあるが出土する。遺物の遺存状況は良く破片も大きいものが目立つ。また後期後半から末には馬取式が1点、宮滝式が2点出土する。それ以降は晩期末までの遺物は確認していない。

表 1 上菅荒神原遺跡の時期別土器一覧表

時	期	型式	点	数	主 な 遺 構
縄文	時代	黄島直前か	1		SD-02
早	期	繊維土器	114	115	SK-11 SD-01•02
前	期	羽島下層 2	2	2	SD-01
中	期	船元 2 ~ 3	8		
		船元4	15		
		里木 2	19	. 58	SK-03
後	期	中津	1		
		布勢	4		
		北白川上層	1		
		馬取か	1		
		宮滝	2	12	
晩	期	突帯文土器		108	SK-06•16
弥生	前期			133	SK-09
中	期			163	SK-15
後	期			3	

表 2 繊維土器の調整別割合

表裏縄文	表縄文 裏ナデ	表縄文 裏条痕	表裏条痕
52点	5点	3点	37点
45.6%	4.4%	2.6%	32.5%

表条痕 裏ナデ	表裏ナデ	不 明	合計 割合(%)	
7点	6点	4点	114点	
6.1%	5.3%	3.5%	100.0%	

- ※表1における点数の左側の欄は形式 名の明らかな点数、右側の欄は不明 瞭なものも含めた点数
  - V字状の刻み目突帯
  - △ 切り目状の刻み目突帯
  - 無刻み目突帯
  - 無刻み目突帯 口縁端部を押さえる

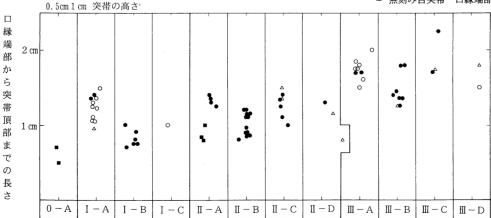


図 1 突帯文土器計測図

縄文時代から弥生時代にかけて最も多くを占めるのが突帯文土器である。口縁部だけで108点を数え、体部片を含めるとかなりの割合がこの時期に集中しているものと考えられる。遠賀川系土器と同じ黒色土包含層からの出土である。突帯の形状と位置による分類を図1に図化したが、それぞれのまとまりは指摘できるものの調整や焼成の差は大きくなく、時期差を想定するのは難しい。この後中期前半までの遺物はなく、弥生時代中期後半の遺物が比較的多く出土している。遺構はSK-15がある。また後期の土器がわずかに出土している。

このように縄文時代早期末・中期後半・後期前半・晩期末から弥生時代前期・弥生時代中期後半などの定住的な様相とそれ以外のわずかな生活の痕跡とが交互にみられることから、この地は縄文時代早期から弥生時代後期まで消長しながら断続的に利用されていたことがわかる。立地状況からみると小河川が大河川に流れ込む小高い地で、石器や落し穴などの遺構をみる限り狩猟や漁撈を行っていた様相が見受けられ、縄文から弥生時代の人々には重要な位置を占めていたことが考えられる。

## 2. 遺構

今回の調査で確認したピット群から平地住居を復元した。県内ではこれまで報告された縄文時代の住居は竪穴住居が中心で、平地住居についてはほとんど明らかになっていない。そこで県内での報告例を集め、平地住居と仮定してその構造や時期について若干の考察を行いたい。

県内の平地住居は本遺跡や新たに復元した遺跡も含め5遺跡を数えるが、現時点ではその全てが鳥取県内でも中・西部、いわゆる伯耆地方に所在する。これは竪穴住居でも同様の傾向がうかがえる。

取木遺跡は倉吉市取木に所在する。縄文時代の遺構としては竪穴住居1棟、礫群2基を検出している。礫群はいずれも赤変しているものが多くあり、1号礫群から押型文土器が1点出土している。これを挟むようにピットも検出されており、柱を建てて屋根掛けをした可能性もある。ピット群から壁立式平地住居を2棟復元した。東側には竪穴住居もあるが、掘り込みが不整で付近にピットもあるため平地住居の想定も可能であろう。

石脇第3遺跡操り地区は泊村操りに所在し、県東部との境付近にある。SI-01は石脇8号墳の約25~30m北西に位置する。ややいびつな形態で、遺物は付近から石鏃が出土している。石脇8号墳墳丘下ピット群は石脇8号墳の後円部下にある。古墳の盛土のため掘削を免れたものと考えられる。梁間1間型平地住居1棟と壁立式平地住居4棟を復元した。建物跡が密集しており本遺跡の住居のあり方と類似する。旧表土中および下層から磨消縄文土器をはじめ縄文時代後期頃の土器が出土している。付近は日本海を見下ろす丘陵部にあり、SI-01も含め尾根上に集落が存在していたものとみられる。

鶴田荒神ノ峯遺跡は会見町鶴田に所在する。6基のピットが半円状に並ぶ。内外面に条痕をもつ深鉢が出土しており、時期は晩期とみられる。

県内ではこの他に壁を立てる壁立式の竪穴住居も確認されている。壁を立て棟持柱を持たないという点で壁立 式平地住居と共通しているためここで取り上げておきたい。

大塚遺跡は名和町大塚、阿弥陀川河口右岸に立地する。住居の北側には周堤状の高まりが確認されている。中央に石囲炉をもち壁際に柱穴がめぐる。縄文時代後期の土器が出土している。

泉前田遺跡は米子市泉に所在する。SK-09は中央に楕円形のピットをもち壁際を直径10cm程度の小ピットがめぐる。底面から石匙が出土しているが時期は特定できない。

平地式住居は県内では早期まで遡るがその多くは後期から晩期にかけてのものである。縄文時代のピット群として報告されることが多く、復元によると何回もの建て替えを行ったものとみられる。梁間1間型平地住居は石脇第3遺跡操り地区でも確認できたが、壁立式平地住居とともに確認されており、これらはほぼ同時期に建てられ何らかの関係を持っていたことが想像できる。

主柱 2 本型伏屋式平地住居は比較的簡単な構造であるため住居であると判断しにくいものと思われる。県内では類例が確認できなかった。本遺跡では主柱の間に土坑状の掘り込みをもつものもみられ、例えば取木遺跡の集石炉の覆いなど、調理や貯蔵など用途に応じてその都度建てられたものと推察したい。

県内の竪穴住居は縄文時代前期からみられ後期のものは調査例も多くなるが、屋内に地床炉または掘り込みの石組炉をもつものが多くみられる。これに対し平地住居では炉跡が確認されておらず例えば屋外に簡単な覆いをした炉を設ける可能性や屋外に集石的な炉を設けることも考えられるが、平地住居が竪穴住居とは異なる住居の様相を示している可能性もあろう。平地住居が比較的容易に用途に応じて建てることが可能であり炉の機能も有していないとすると、竪穴住居よりも移動に重点をもった住居か季節による住み分けとして使用をしていたことも考えられよう。しかしその構造的な性格から竪穴住居ほど遺存状況はよくないため、縄文時代の遺構として検出される機会は少なく構造も不明な点が多いものと推測する。

## 報告書名

- 1.『取木遺跡•一反田遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会 1981
- 2. 『石脇第3遺跡森末地区 操り地区 石脇8・9号墳ほか』財団法人鳥取県教育文化財団 1998
- 3.『鶴田荒神ノ峯遺跡他』財団法人鳥取県教育文化財団 1996
- 4. 『横峯遺跡発掘調査報告書』関金町教育委員会 1986
- 5. 『名和町内遺跡分布調査報告書』名和町教育委員会 1994
- 6. 『泉中峰・泉前田遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団 1994

#### 参考文献

「第1節 竪穴住居跡について」『大下畑遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団 1994

森下哲哉「鳥取県の縄文時代住居址-後期・晩期を中心に-」『考古学の諸相』坂詰先生還暦記念会 1995.1

宮本長二郎「第一節 平地住居と竪穴住居の類型と変遷」『先史日本の住居とその周辺』同成社 1998.12															
	表 3 鳥取県の主な平地住居・壁立式住居														
			遺	跡	名	遺	構	名		形	態	柱穴•炉跡	遺	物	E
	1	取	木遺跡	亦		ピット群				壁立式平地住居 付近に別棟の集石炉か		壁柱多数	付近から押型文土		투
															. –

	遺跡名	遺構名	形態	柱穴・炉跡	遺物	時期
1	取木遺跡	ピット群	壁立式平地住居 付近に別棟の集石炉か	壁柱多数	付近から押型文土器	早期か
2	石脇第3遺跡 操り地区	SI01	壁立式平地住居	壁柱多数	付近から石鏃出土	不明
3	〃 石脇 8 号墳	墳丘下ピット群	梁間1間型平地住居	主柱 壁柱多数	磨消縄文鉢	後期前葉
	〃 石脇 8 号墳	"	壁立式平地住居	壁柱多数	//	"
4	鶴田荒神ノ峯遺跡	SI-01	壁立式平地住居	壁柱多数	粗製深鉢	晩期か
5	大塚遺跡群	第20トレンチ竪穴住居	壁立式竪穴住居	壁柱多数 中央に石囲炉	粗製土器	後期か
6	泉中峰•泉前田遺跡	SK-09	壁立式竪穴住居	壁柱多数 中央にピット	石匙出土	不明
7	上菅荒神原遺跡	SB-01 • 11	梁間 1 間型平地住居	主柱 壁柱多数	粗製土器	晩期~弥 生前期か
	"	SB-02~10 • 11~16	壁立式平地住居	壁柱多数	粗製土器	"
	"	SH-01~75	主柱 2 本型伏屋式平地住居	主柱2本	粗製土器	"

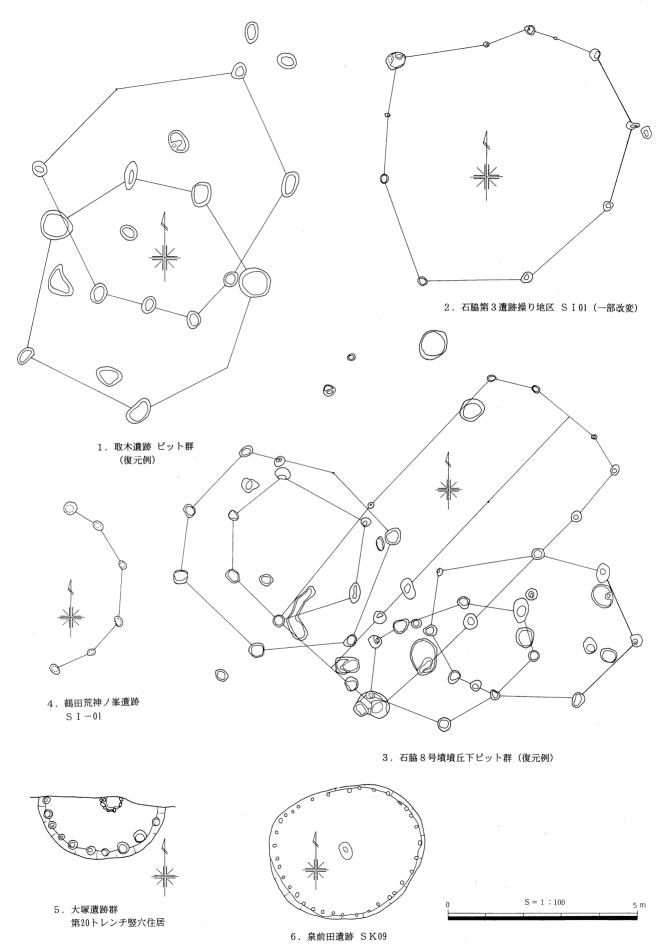


図4 鳥取県の主な平地住居・壁立式住居